

豊島区立舞台芸術交流センター
あうるすぽっと事業評価調査

報告書

2014年4月
ニッセイ基礎研究所

◎ はじめに

この報告書は、公益財団法人としま未来文化財団から委託を受けて、株式会社ニッセイ基礎研究所が実施した「豊島区立舞台芸術交流センター・あうるすぽっと事業評価調査」の成果をとりまとめたものである。

近年、行財政改革や説明責任(アカウンタビリティ)への関心の高まりなどを背景に、政府や地方公共団体の施策や事業を評価する「政策評価」が広がっている。ただし、文化施設や文化事業の場合、いわゆる事務事業評価の仕組みでは必ずしも適切な評価を行うことができないとされ、その特性を踏まえた独自の評価が必要である、という認識が広がり、各地で行われている評価も徐々に成熟したものとなりつつある。

豊島区立舞台芸術交流センター・あうるすぽっとは、2007年の開館以来、幅広い事業を展開し、規模は小さいながら、首都圏でもアクティブな公共劇場のひとつに位置づけられている。しかしながら、これまで、その事業の成果や運営について必ずしも十分な検証、評価は行われていなかった。

そこで、本調査研究では、2013年度及び過去5年間の事業の実績を振り返り、自主事業公演の来場者、ワークショップ等の参加者、会議室利用者、過去の劇場利用者に対してそれぞれアンケート調査を実施し、あうるすぽっとの来場者や利用者の基本属性を把握するとともに、事業や運営に対する満足度、日頃の公演鑑賞行動、あうるすぽっとに対する感想や意見などを調査・分析した。

また、区内の文化施設、文化・芸術団体、まちづくり関係者に対してグループインタビューを実施し、事業内容や管理運営、今後の期待などについて、アンケート調査では把握できない定性的な評価や課題、エピソードなどを把握、整理した。

あわせて管理運営や主催事業、貸館事業に伴う最終需要、観客や参加者の消費支出などに基づいて、経済波及効果を把握するとともに、パブリシティ効果についても広告宣伝費をベースに金額換算を行った。

その結果、豊島区立舞台芸術交流センター・あうるすぽっとに対する総合満足度は高いこと、小劇場・現代演劇、現代舞踊など幅広いラインナップの公演によって多様な観客が来場していること、劇場独自のプロデュース公演や教育・普及活動への期待が高いこと、劇場利用者、会議室利用者とも継続利用の意向が高いこと、など多くの項目で高い評価結果が得られた。一方で、予算や職員体制等の制約から年間のラインナップに対する満足度は必ずしも高くないこと、複合施設というハード上の制約から、案内や表示、エレベーターの運用面での課題が残されていることも明らかとなった。

末筆ではあるが、今回、この貴重な調査の機会を与えられた公益財団法人としま未来文化財団、調査にご協力いただいた劇場スタッフや関係者の方々に心より感謝申し上げますとともに、本調査の成果が今後の豊島区立舞台芸術交流センター・あうるすぽっとの運営に有効に活用されることを願うものである。

2014年4月

ニッセイ基礎研究所

芸術文化プロジェクト室

目 次

序章 調査研究の目的・内容と本報告書の構成	i
I 事業の概要と実績	
1. 2013年度の実績	1
(1) 舞台芸術の創造普及事業	1
(2) 施設管理事業(利用状況、来館者数)	5
2. 過去5年間の事業実績の推移	7
(1) 舞台芸術の創造普及事業の推移	7
(2) 施設管理事業(利用状況、来館者数)の推移	9
(3) 過去5年間の収入内訳から見た分析	14
II アンケート調査	
1. アンケート調査の概要	15
2. 共通設問項目の結果概要	17
(1) アンケート回答者・団体の居住(所在)エリア	17
(2) 総合的にみたあうるすぽっとに対する満足度	18
(3) あうるすぽっとの今後の事業展開	19
(4) 演劇やコンサートに出掛ける頻度	24
(5) あうるすぽっとでの来場鑑賞頻度	25
(6) 鑑賞を妨げる要因	26
3. 自主事業アンケートの結果概要	27
(1) 基本属性	27
(2) 鑑賞に伴う行動	27
(3) 自主事業公演に対する満足度	29
(4) 事業への賛同	31
4. ワークショップ参加者アンケートの結果概要	33
(1) 基本属性	33
(2) 参加理由と参加後の感想	33
(3) ワークショップや講座に対する満足度	35
(4) 事業への賛同	37

5. 劇場利用者アンケートの結果概要.....	39
(1) 基本属性.....	39
(2) 利用の実績.....	39
(3) 劇場利用の満足度・次回の利用意向.....	41
6. 会議室利用者アンケートの結果概要.....	43
(1) 基本属性.....	43
(2) 利用の実績.....	43
(3) 会議室利用の満足度・次回の利用意向.....	45
III グループインタビュー	
1. グループインタビューの概要.....	47
2. グループインタビューの集約結果.....	47
(1) あうるすぽっとの事業内容について.....	47
(2) あうるすぽっとの管理運営について.....	48
(3) あうるすぽっとの位置づけや役割.....	49
(4) あうるすぽっととの連携の可能性.....	50
(5) あうるすぽっとに今後期待すること.....	51
IV 経済波及効果・パブリシティ効果	
1. 経済波及効果.....	53
(1) あうるすぽっとの経済波及効果の基本構造と分析方法.....	53
(2) 分野別の最終需要と経済波及効果.....	53
2. パブリシティ効果.....	55
(1) 2013年度の掲載記事の件数.....	55
(2) 広告掲載料料金をベースとした金額換算.....	55
V 事業評価のとりまとめ.....	59
1. 評価フレームの考え方.....	59
2. 評価結果の概要.....	59

序章 調査研究の目的・内容と本報告書の構成

1. 調査研究の目的・内容

(1) 調査研究の目的

本調査は、豊島区立舞台芸術交流センター・あうるすぽっと(以下「あうるすぽっと」)の2013年度の事業実績データ、観客や貸館利用者へのアンケート調査などのデータ分析、経済波及効果やパブリシティ効果の試算、あうるすぽっとのステークホルダーに対するグループインタビュー調査の結果から、2013年度のあうるすぽっとの事業評価を行うことを目的とする。

(2) 調査の内容

①事業の概要と実績

事業実績、観客数・入場者数、稼働率などを分析し、劇場運営の評価に結びつくような基礎データを整理した。

②アンケート調査

観客や事業参加者の鑑賞行動や満足度、あうるすぽっとへの要望などを把握するとともに、観客等の消費支出に伴う経済波及効果の算出に必要な基礎データを収集するため、自主事業公演の来場者、ワークショップ、講座等の参加者、会議室利用者、劇場利用者を対象とした4種のアンケート調査を実施した(詳細は資料編(別冊)、資-1～資-160参照)。

③グループインタビュー

あうるすぽっとの様々なステークホルダーに対して、これまでの事業内容や管理運営に対する評価や、今後の事業展開の方向性、期待される効果などについてご意見を伺った。

④経済波及効果・パブリシティ効果

産業連関表を用いて、劇場の事業や運営がもたらす経済波及効果を試算するとともに、雇用効果の把握を行なった(詳細は資料編(別冊)、資-161～資-171参照)。また、パブリシティ効果について、その概要を整理し、金額換算による規模を算出した(詳細は資料編(別冊)、資-173～資-176参照)。

2. 本報告書の構成

本報告書は、各調査結果の概要、ならびに事業評価の基本フレームと評価結果を整理した「本編」と、調査の詳細データ等を整理した別冊「資料編」の二編から構成されており、それぞれの内容は以下のとおりである。

(1) 本編

本編は、それぞれ次の内容からなる6つの章によって構成されている。

- 「Ⅰ 事業の概要と実績」

劇場運営の事業実績、観客数・入場者数、稼働率などの基礎データについて、2013年度の単年度分の結果に加えて、2009年度から2013年度までの5カ年の推移を整理した。

- 「Ⅱ アンケート調査」

自主事業公演の来場者、ワークショップ、講座等の参加者、会議室利用者、劇場利用者を対象としたアンケート調査の結果から、共通設問項目の統合集計結果と、個別のアンケー

トの集計結果について、整理・分析を行った。

- 「Ⅲ グループインタビュー」

あうるすぽっとの事業内容、管理運営、位置づけや役割、連携の可能性、今後期待することなど、グループインタビューでの質問項目ごとに主な意見を集約、整理した。

- 「Ⅳ 経済波及効果・パブリシティ効果」

産業連関表を用いた経済波及効果、雇用効果、新聞掲載記事の金額換算によるパブリシティ効果を算出した。

- 「Ⅴ 事業評価のとりまとめ」

I からIVまでの調査結果を総合的に分析するため、あうるすぽっとの事業評価結果を、(財)地域創造の「公立ホール・公立劇場の評価指針」(2007年3月)の評価フレームに基づいて再整理し、それに沿ってとりまとめを行った。

(2) 資料編(別冊)

本編で整理・分析した調査の手法、結果などをとりまとめ、資料編として掲載した。

- 資料Ⅰ「自主事業公演アンケート調査」では、2013年5月から2014年3月までの自主事業公演の来場者を対象に実施したアンケート調査結果を、設問ごとに整理した。
- 資料Ⅱ「ワークショップ等参加者アンケート調査」では、2013年5月から2014年3月までのワークショップ、講座等の参加者を対象に実施したアンケート調査結果を、設問ごとに整理した。
- 資料Ⅲ「劇場利用者アンケート調査」では、2013年12月から2014年2月までの会議室利用者を対象に実施したアンケート調査結果を、設問ごとに整理した。
- 資料Ⅳ「会議室利用者アンケート調査」では、過去の劇場の利用者を対象に実施したアンケート調査結果を、設問ごとに整理した。
- 資料Ⅴ「経済波及効果」では、2013年度の経済波及効果の基本構造、事業ごとの最終需要と消費支出など、経済波及効果算出のための分析資料を掲載した。
- 資料Ⅵ「パブリシティ実績」では、金額換算の基礎となった2013年度の新聞記事データの一覧を掲載した。
- 資料Ⅶ「2009-2013年度事業・公演・プログラム」では、過去5年間のあうるすぽっとの各種事業・公演・プログラムの名称と開催時期を掲載した。

◎ 調査研究体制

ニッセイ基礎研究所

吉本光宏(主席研究員・芸術文化プロジェクト室長)

大澤寅雄(芸術文化プロジェクト室 准主任研究員)

I 事業の概要と実績

1. 2013年度の事業実績

(1) 舞台芸術の創造普及事業

- あうるすぽっとは、豊島区が舞台芸術の創造・発信・育成の場として開設した301席の劇場を中心とした施設として、活力のある地域社会の形成を目指して2007年9月に開館した。
- 舞台芸術の創造普及事業では、プロデュース公演・主催公演事業、共催公演(あうるすぽっとタイアップ公演シリーズ)事業、教育普及事業(ワークショップ・レクチャー等の開催)、その他連携事業を行っている。それらの2013年度の事業実績について、数量的な結果(アウトプット)を下記の一覧にまとめた(図表1-1)。
- プロデュース公演・主催公演事業の公演回数は20回、総入場者数は4,202人、平均入場者数は210.1人となっている。客席稼働率は、劇場の客席数301席を母数とした場合は70.2%だが、多くの公演では20席程度の客席を音響調整の操作スペースとして使用するため、参考までに280席を母数とした客席稼働率を算出すると、75.5%となっている。
- 共催公演事業の公演回数は96回、総入場者数は19,497人、平均入場者数は203.1人となっている。客席稼働率は、劇場の客席数301席を母数とした場合は67.5%、280席を母数とした客席稼働率は72.5%となっている。
- 教育普及事業では、施設内の劇場、ホワイエ、会議室のみならず、区内の地域文化創造館、ろう学校等で14本の事業を実施した。ワークショップやレクチャー等のプログラムの実施回数は56回、参加者数(延べ人数)は5,375人となっている。
- その他連携事業では、主に区内の文化団体、実行委員会、NPO と連携し、5本の事業を実施した。

図表1-1 2013年度の舞台芸術の創造普及事業の実績

プログラム名	期間	公演回数	入場者数	客席稼働率①	客席稼働率②	
①プロデュース公演・教育普及事業						
1 文楽素浄瑠璃ワークショップ	5/28	-	1	249	82.7%	88.9%
2 鑑賞者	8/29	9/1	5	1,148	76.3%	82.0%
3 スガダイロー五夜公演「瞬か」	10/30	11/4	5	1,103	73.3%	78.8%
4 SWIFT!	12/13	12/15	3	377	41.7%	44.9%
5 講談と落語のハナシ	1/5	-	1	255	84.7%	91.1%
6 活弁のハナシ	1/17	-	1	138	45.8%	49.3%
7 Once Upon a Time...あの頃の歌2nd	1/19	-	1	228	75.7%	81.4%
8 (展示)Once Upon a Time...あの頃の歌2nd/関連展示	1/10	1/19	1	616	-	-
9 TAPPIN' INTO TOMORROW	2/1	2/2	2	522	86.7%	93.2%
10 洪さ知らズオーケストラ公演「池袋大作戦!!」	3/23	-	1	206	68.4%	73.6%
プロデュース公演 小計(事業8を除く)			20	4,226	70.2%	75.5%
②共催公演(2013/2014あうるすぽっとタイアップ公演シリーズ)事業						
1 文学座「ガリレイの生涯」	6/14	6/25	14	3,609	85.6%	92.1%
2 平原慎太郎ソロダンス公演「Nocon Bolerishボレリッシュ」	6/29	-	2	375	62.3%	67.0%
3 遊園地再生事業団「夏の終わりの妹」	9/13	9/22	14	1,689	40.1%	43.1%
4 華のん企画「三人姉妹」	10/24	10/27	4	849	70.5%	75.8%

※ 劇場の客席数301席を母数とした入場者数の割合を客席稼働率①として算出しているが、多くの公演では20席程度の客席を音響調整の操作スペースとして使用するため、参考までに280席母数とした入場者数の割合を客席稼働率②として算出している。

プログラム名	期間	公演回数	入場者数	客席稼働率①	客席稼働率②	
5 第2回トリシアター・フェスティバル 現代イブセン演劇祭「人形の家」特集						
ティーンジースタン / ベルギー	11/27	11/28	2	374	62.1%	66.8%
ユーニ・ダニル / ノルウェー	11/30	12/1	2	239	39.7%	42.7%
ルーマニア国立ラドゥ・スタンカ劇場 / ルーマニア	12/4	12/5	2	418	69.4%	74.6%
カンパニーデラシネラ / 日本	12/7	12/8	3	501	55.5%	59.6%
6 子どもとおとなのための◎読み聞かせ お話の森 冬スペシャル	12/20	12/23	4	1,019	84.6%	91.0%
7 オフ・ブロードウェイ・ミュージカル「グロリアス・ワンズ」	1/22	1/28	9	1,589	58.7%	63.1%
8 文学座「尺には尺を」「お気に召すまま」	2/11	3/4	28	6,185	73.4%	78.9%
9 北九州芸術劇場プロデュース「彼の地」	3/7	3/9	3	727	80.5%	86.5%
10 小池博史ブリッジプロジェクト「銀河鉄道」	3/12	3/16	5	1,232	81.9%	88.0%
11 舞台技術者会議	3/26	-	1	126	6.0%	45.0%
12 暁「ワタシとのヒミツを墓場まで持ってくる気？」	3/29	3/30	3	565	62.6%	67.3%
タイアップ公演 小計			96	19,497	67.5%	72.5%

プログラム名	期間	開催回数	参加者数	会場
③教育普及事業(ワークショップ・レクチャー等の開催)				
1 1にゆ〜盆踊り				
にゆ〜盆踊りワークショップ	7/6	7/11	7	200 各地域文化創造館等
にゆ〜盆踊り	7/15	-	1	4,200
にゆ〜盆踊り 縁日	7/15	-	3	223 池袋西口公園
2 あうるすぽっとバックステージツアー				
バックステージツアー①	7/13	-	1	8 劇場
バックステージツアー②	12/24	12/25	2	23 劇場
3 嶋下信一 日本語の学校	10/5	10/20	6	30 会議室
4 公立学校アウトリーチ			4	372
5 舞台監督の仕事	12/10	12/11	2	16 劇場
6 あうるの森ワークショップ	12/13	12/23	1	48
7 お話の森 大人のための読み聞かせ	2/18	2/19	1	- ホワイエ
8 クリスマス・キャロル	12/24	12/25	2	- ホワイエ
9 からだdeコミュニケーション				
大塚ろう学校 授業内ワークショップ	11/19	-	2	30 大塚ろう学校体育館
ワorkshop	12/12	1/13	4	30 大塚ろう学校体育館、劇場
10 視覚障害者お出かけ支援講座	12/14	1/19	4	8 会議室、劇場
11 TAP the FUTURE in TOSHIMA	11/27	-	2	50 劇場
12 TAPPIN' INTO TOMORROW	12/23	2/2	8	73 会議室、劇場
13 読み聞かせワークショップ	2/18	2/19	2	12
14 洪さ知らズワークショップ	3/20	3/23	4	52
教育普及事業 合計			56	5,375

プログラム名	期間	主な連携団体・関連事業
④その他連携事業		
1 第25回 池袋演劇祭 関連事業		
前夜祭(予告編・CM大会)	8/23	-
表彰式・祝賀会	10/28	-
第24回池袋演劇祭 大賞受賞記念公演	9/6	9/9 green flowers
2 フェスティバル/トーキョー 13		フェスティバル/トーキョー実行委員会
F/T 主催プログラム 木ノ下歌舞伎『東海道四谷怪談』	11/21	11/24
3 第六回 小田島雄志 翻訳・戯曲賞	1/14	- 小田島雄志翻訳・戯曲賞実行委員会
4 あうるすぽっと区民シリーズ		
(展示)イマに息づく匠の技～江戸伝統の凧・提灯～	4/24	5/6
坂東流寿扇会 勉強会	4/25	5/2 寿扇会
Be Good TO YOUR BEAT	4/27	4/29 JAM TAP DANCE COMPANY
門下生歌謡発表会	5/1	- サム・ミュージック歌謡教室
競演と美術デッサンコンクール	5/3	5/6 ギイ・フォウシィ・シアター
新春 寿初め	1/10	- 執事歌劇団
和太鼓塾鼓々路 第八回発表会	1/11	- 和太鼓塾 鼓々路
豊島区邦楽連盟 第二十回記念演奏会	1/12	- 豊島区邦楽連盟
5 豊島区立中央図書館関連事業		豊島区立中央図書館
日本の伝統工芸・匠の技をみてみよう	3/22	4/25 イマに息づく匠の技
大人も楽しめる社会科見学	3/22	4/25 あうるすぽっとインターンシップ募集
文楽「近松門左衛門」/「本能寺の変」	4/26	5/23 第四回 文楽・素浄瑠璃ワークショップ
日本の祭り	5/24	6/27 にゅ～盆踊り
みるといふこと	7/26	8/22 鑑賞者
親子で楽しむ夢見る絵本	7/26	8/22 子どもに見せたい舞台「星の王子さま」口
記録と記憶をめぐる本	8/23	9/26 夏の終わりの妹
音楽と表現者たち	9/27	10/24 スガダイロー五夜公演「瞬か」
現代イブセン演劇祭	10/25	11/21 現代イブセン演劇祭
みんなで楽しむクリスマス	11/22	12/26 SWIFT!、お話の森、クリスマス・キャロル
懐かしい・新しい! あなたはどっち?	12/27	1/23 講談と落語のハナシ、活弁のハナシ、ほか

- 次に、2013年度の舞台芸術の創造普及事業における、プロデュース公演・主催公演事業、共催公演事業、教育普及事業、その他連携事業、それぞれの成果(アウトカム)を概観する。

① プロデュース公演・主催公演事業

- あうるすぽっとにおける2013年度のプロデュース公演・主催公演、以下の公演を行った。
 - プロデュース公演では、大塚ろう学校の協力のもと、マイムアーティスト・小野寺修二氏と3年間に渡ってろう者とのワークショップに取り組み、そのワークショップで培った経験をもとに小野寺氏がつくりあげた新作公演の「鑑賞者」
 - 新進気鋭のフリージャズ・ピアニストのスガダイロー氏が演劇、ダンス、アートなどの分野を超えてクロスジャンルでの新しい舞台芸術の創出に取り組んだ「[N/R]プロジェクト」
 - アンスティチュ・フランセ東京との共同企画による、大人まで楽しめる児童・青少年向けの舞台芸術公演「SWIFT!」
 - あらゆるエンタテインメントに造詣の深いイラストレーター和田誠を案内役として、戦後から高度成長の時代の懐かしいメロディを味わう「Once Upon a Time...あの頃の歌2nd」
 - 新しい舞台芸術作品の創造と発信に意欲的に取り組んだ公演、未来の観客育成に向けた子どもたちへの舞台芸術の普及公演、幅広い世代間の交流を促す公演など、多様な観客に向けた取り組みであると同時に、質の高い独自性のあるプログラムとなっている。
 - また、他の文化機関や劇場との共同企画や事業の連携によって、ユニークな企画の公演を効率的、効果的に実施している点も評価できる。

② 共催公演(2013/2014あうるすぽっとタイアップ公演シリーズ)事業

- あうるすぽっとが他の団体との共催(タイアップ)による主な公演は、以下のとおりである。
 - 文学座初のブレイク劇の公演となった「ガリレイの生涯」、シェイクスピアの2作品を同時期に上演した「尺には尺を」「お気に召すまま」
 - 中規模劇場にこだわり、気鋭の演出家・カンパニーによる鋭い知性と感性を感じさせる舞台表現を目指す「現代イブセン演劇祭『人形の家』特集」
 - 小劇場からミュージカルまで幅広く活躍中、細やかに日常を描くことで定評のある桑原裕子氏を作・演出に迎えた北九州芸術劇場プロデュースの「彼の地」
- 他にも、現代演劇、ミュージカル、コンテンポラリーダンス等の質の高い舞台芸術を、提携・共催によって公演団体の負担を軽減することで支援を行った。同時に、あうるすぽっととしても事業にかかる経済的・人的負担を軽減することが可能となっている。
- 共催公演は、公演形式の事業によって区内外にあうるすぽっとの情報を発信する大きな原動力となっている。優れた質の公演であることだけでなく、公演回数や入場者数の規模としても、あうるすぽっとにおける事業全体の中でも大きな柱となっている。

③ 教育普及事業(ワークショップ・レクチャー等の開催)

- あうるすぽっとによる2013年度の教育普及事業は、以下の活動を行った。
 - 開館以来継続した取り組みで、ダンスカンパニー・コンドルズのメンバーとともに区内各地の会場でのワークショップと池袋西口公園で大会本番を迎える「にゅ〜盆踊り」
 - 文楽の音楽的要素を担う義太夫節(浄瑠璃)の魅力を、若手技芸員による実演とレクチャーを通して体験する「第四回文楽・素浄瑠璃ワークショップ」
 - 世界中で上演されている名作を音楽朗読劇としてあうるすぽっとホワイエにて上演し、小さな子供からお年寄りまで幅広い世代が楽しめる「クリスマス・キャロル」
- 他にも、障害者を対象としたワークショップや鑑賞の支援、アートマネジメントや舞台技術の人材育成など、様々な対象に、舞台芸術を通じた教育普及関係のプログラムを提供した。
- 教育普及事業として行うワークショップやレクチャーは、「にゅ〜盆踊り」のような大規模なプログラムは特異なケースであり、多くの場合は参加者や受講生の人数は多くない。しかし、教育普及事業で取り上げるテーマや対象者からは、公立文化施設としての存在意義を支える重要な役割を果たしていることが分かる。
- 教育普及事業の多くのプログラムが、シリーズ化や継続性を重視した内容となっている。そのため、企画の成果を単純に参加者や受講者の人数で捉えるのではなく、参加者や受講者の個々人の変化や、事業の中で生まれた人間関係の発展などを中長期のスパンで捉えることが望まれる。

④ その他連携事業

- 2013年度にその他の連携事業として行った活動は、以下のとおりである。
 - 第25回を迎えた池袋演劇祭の関連事業として、「前夜祭 予告編・CM 大会」「表彰式・祝賀会」「第24回池袋演劇祭 大賞受賞記念公演」
 - 東京都、東京文化発信プロジェクト室に加えて、豊島区内を拠点とする NPO 法人アートネットワーク・ジャパンとの共同によるフェスティバル/トーキョーの「F/T 主催プログラム」
 - 毎年優れた翻訳戯曲を提供した方を対象に小田島雄志氏本人が選考を行い、賞金が贈呈される「小田島雄志 翻訳・戯曲賞」の「贈呈式」「祝賀会」

- 豊島区を拠点に様々な文化活動を展開する区民及び区内文化団体に優先的に劇場を利用していただく「あうるすぽっと区民シリーズ」
- 「文化の交流拠点」として、地域の活性化を目的に図書館内に設けられたスペースにあうるすぽっとの事業に合わせたテーマの関連図書を展示、紹介した「豊島区立中央図書館 特別展示」
- いずれの活動も、あうるすぽっとや豊島区が舞台芸術の創造・発信・育成のために、あうるすぽっと単独では実施が困難な事業であり、今後も継続的に連携し、更なる地域の活性化の創出に繋げることが期待される。

(2) 施設管理事業(利用状況、来館者数)

- 2013年度の施設の利用実績の結果(アウトプット)を見ると、劇場の利用稼働率(区分ベース)は98.3%となっている(図表1-2)。

図表1-2 2013年度の劇場の利用実績

利用可能区分	利用区分件数	利用稼働率	公演数合計
1,022 区分	1,005 件	98.3%	282 回
総入場者数合計	総平均入場者数	平均客席稼働率①※	平均客席稼働率②※
59,159 人	209.8 人	69.7%	74.9%

※ 客席稼働率は、劇場の客席数301席を母数とした入場者数の割合を客席稼働率①として算出したが、多くの公演では20席程度の客席を音響調整操作スペースとして使用するため、280席母数とした入場者数の割合を客席稼働率②として算出した。

- (社)全国公立文化施設協会が平成23年度に取りまとめた「公立文化施設現況調査(第10回)―施設管理運営状況―」によると、全国公文協に加入している国立、都道府県立及び市町村立の文化施設で1,237施設を対象にした調査(824施設が回答)で、平成22年度のホールの稼働率は、499席以下のホールの場合、平均61.4%(関東甲信越地区は65.4%)となっている。
- また、(財)地域創造が平成22年度に取りまとめた「地域の公立文化施設実態調査」報告書によると、「公の施設」である公立文化施設のうち、舞台芸術の公演等を主用途とする公立文化施設¹を対象とした調査(980施設のうち680施設が回答)で、全体の稼働率の平均は57.5%、市区町村施設では55.1%となっている。参考までに、政令市が設置した施設の平均稼働率が69.8%となっている。
- 上記の(社)全国公立文化施設協会や(財)地域創造の調査結果と比較して、あうるすぽっとでの劇場の使用率(98.3%)は、それぞれの平均値を大きく上回る結果となっている。
- 劇場の公演数合計は282回、総入場者数合計は59,159人、総平均入場者数は209.8人で、客席稼働率は、劇場の客席数301席を母数とした場合は69.7%、280席を母数とした客席稼働率を算出すると、74.9%となっている。
- 会議室の累計利用稼働率は76.6%、累計利用者数は64,563人で、1区分あたりの平均利用者数は21.1人となっている。(図表1-3)。

¹ ここでは「舞台及び客席や舞台設備等を有し舞台芸術の公演などを行う、コンサートホール、劇場、多目的ホール、能楽堂、オペラハウス、映像ホールなど」を調査対象としている。

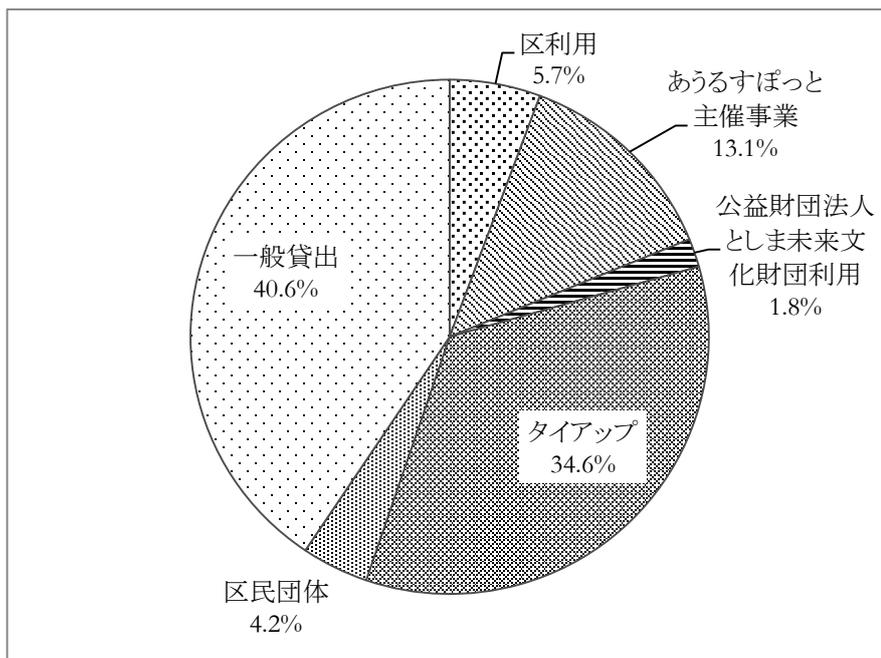
図表1-3 2013年度の会議室の利用実績

	利用可能区分	利用区分件数	利用稼働率
A. 会議室	1,020 区分	838 件	82.2%
B1・B2同時利用	1,020 区分	533 件	52.3%
B1単独利用	1,020 区分	220 件	21.6%
B2単独利用	1,020 区分	220 件	21.6%
会議室 累計	累計利用可能区分数	累計利用区分件数※	累計利用稼働率※
	3,060 区分	2,344 件	76.6%
	会議室利用者数	平均利用者数(1区分)	
	64,563 人	21.1 人	

※ 累計利用区分件数・稼働率は、A 会議室と、B1会議室・B2会議室に B1・B2の単独利用を加えた数値から算出している。

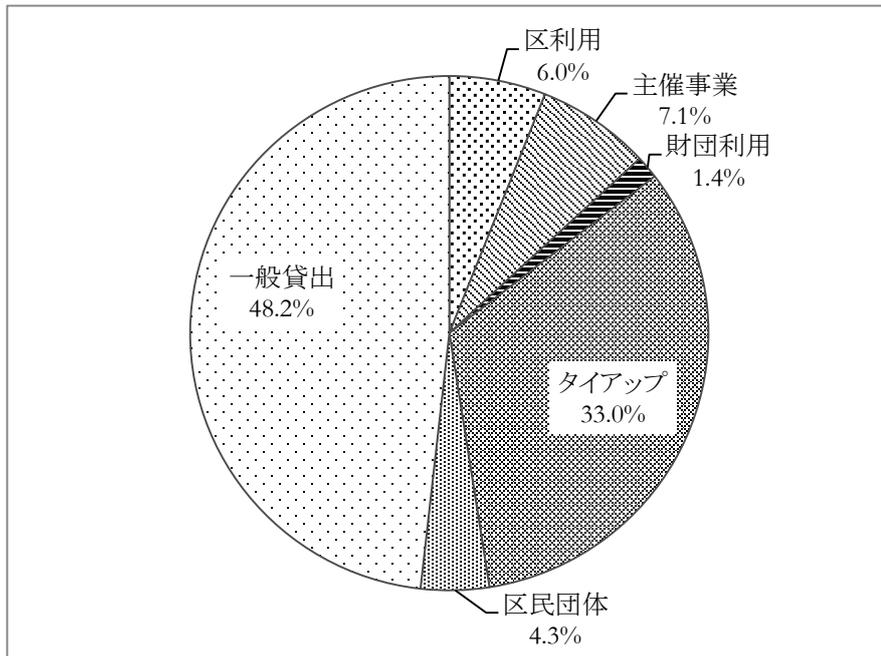
- 劇場の利用実績のうち、利用区分件数の全体(1,005件)に対して、利用主体別に割合を算出すると、最も高い割合は「一般貸出」で40.6%、次いで「タイアップ」が34.6%、「あうるすぽっと主催事業」が13.1%の順となっている。「タイアップ」「区民団体」「一般貸出」を合わせた貸出利用は79.4%となっており、「区利用」「あうるすぽっと主催事業」「公益財団法人としま未来文化財団利用」を合わせた利用は20.6%となっている(図表1-4)。

図表1-4 劇場における利用主体別の利用区分件数



- 総入場者数の合計(59,159人)について、利用主体別に割合を算出すると、最も高い割合は「一般貸出」で48.2%、次いで「タイアップ」が33.0%、「主催事業」が7.1%の順となっている。「タイアップ」「区民団体」「一般貸出」を合わせた貸出利用は85.4%、「区利用」「あうるすぽっと主催事業」「公益財団法人としま未来文化財団利用」を合わせた利用は14.6%、全体の約2割となっている(図表1-5)。

図表1-5 劇場における利用主体別の総入場者数の割合



2. 過去5年間の事業実績の推移

(1) 舞台芸術の創造普及事業の推移

① プロデュース公演・主催公演事業

- 2009年度から2013年度までの5年間のプロデュース公演・主催公演事業（2009～11年度は「自主公演・プロデュース公演」と称していた）を一覧にまとめた（資-179）。
- 過去5年間の年間事業本数は3本から10本の間を増減している。2010年度は「あうるすぽっととチェーホフフェスティバル2010」でのプロデュース公演・主催公演に注力したため、例年よりも自主公演の本数が少なくなっている。それ以外の年度の事業本数は5本から10本となっている。
- 5年間を通じて、あうるすぽっとのプロデュース公演では、優れた才能を持ち国内外から注目を集める若手の劇作家、演出家、振付家を起用した作品を創造してきた。こうした公演では、次世代に向けた舞台芸術の創造に資することを目的としているように見受けられる。
- 2011年度には、岡田利規氏の作・演出による「家電のように解り合えない」では、演劇・ダンス・美術の融合による新たな総合芸術の形式を提示して大きな話題を呼んだ。他にも新聞に劇評が掲載された公演は多く、舞台芸術界に刺激や波紋を投げかけてきた。
- 2010年度はロシアの小説家・劇作家のアントン・チェーホフの生誕150周年を記念した「あうるすぽっととチェーホフフェスティバル2010」を開催し、2011年度は、2009年度に引き続き「第2回 日韓演劇フェスティバル」（第1回は共催公演事業）を開催した。
- これらのフェスティバルは、テーマ設定は異なるものの、あうるすぽっとでは戯曲へのアプローチや表現手法に自由な発想を持つ劇団や演出家を起用し、劇場からの情報発信に意欲的に取り組んだ。
- 過去5年間のプロデュース公演・主催公演のラインナップは、起用したアーティストに光が当たっている印象が強く、「親指こぞう ブクェッティーノ」や「Once Upon a Time… あの頃の

歌」といった公演では、この5年間での再演、あるいはシリーズ化を試みている。しかしながら、あうるすぽっとの「看板」や「顔」として認知されるようなインパクトは、やや弱い印象が残る。

- 国内の舞台芸術界、あるいは公立文化施設の中で、作品の再演やシリーズ化が定着している劇場が数少ない中で、独自性のあるプロデュース公演や主催公演の選定と、その再演やシリーズ化の試みは、今後も継続することが望まれる。

② 共催公演事業

- 2009年度から2013年度までの5年間の共催公演事業を一覧にまとめた(資-179~180)。
- 過去5年間の年間事業本数は10本から18本の間を増減している。2010年度は「あうるすぽっととチェーホフフェスティバル2010」で7本のタイアップ公演があったため、例年よりもタイアップ公演が増加している。それ以外の年度の事業本数は10本から13本となっている。
- 過去5年間のタイアップのパートナーを見ると、劇団昴、CAN、華のん企画、文学座、北九州芸術劇場など、演劇・ダンスの分野で定評のある劇団、制作会社、劇場とのタイアップを継続してきたことが分かる。
- 共催公演事業を通じて定評のある舞台芸術団体や劇場との継続的な信頼関係を形成することが、首都圏の舞台芸術界における、あうるすぽっとの位置づけを高めていると言える。
- また、プロデュース公演がアーティストの創造意欲を引き出すような企画が多い一方で、共催公演事業は、区民から舞台芸術の愛好家まで、幅広い観客層に支持を受けるようなプログラムを選定しているように見受けられる。
- 過去5年間の中で、2013年度の文学座による「尺には尺を」「お気に召すまま」では、2月11日から3月4日まで3週間あまりの期間で、公演回数は58回となった。国内の公立文化施設の中で、ロングラン形式の上演が定着している劇場が数少ない中で、定評のある劇団、制作会社、劇場とのタイアップによるロングラン形式は、今後も継続することが望まれる。

③ 教育普及事業

- 2009年度から2013年度までの5年間の教育普及事業を一覧にまとめた(資-180~183)。
- 過去5年間の年間事業本数は13本から16本まで徐々に増加している。毎年継続し、同一時期、同一会場に行われているプログラムが数多くあり、定着していることが伺える。
- 教育普及事業に限らず、あうるすぽっとの事業の中でも大きな特徴となっているのが、2009年度以来継続して取り組んでいる「にゅ～盆踊り」である。直近の2013年度ではワークショップの受講生が延約200人、池袋西口公園で開催している盆踊り大会本番の延動員数は約4,200人という大きなイベントに成長した。
- 「にゅ～盆踊り」は徐々に地域に浸透し、コンドルズファンのみならず、地域からの参加者が多く見られ、新しい豊島の盆踊りとして根付いてきた。舞台芸術への興味や関心の有無を問わず多数の区民にアプローチする「にゅ～盆踊り」の一方で、それ以外の教育普及事業は、あうるすぽっとが有するネットワークを十分に活用しながら、劇場と地域社会との新しい関係を生み出している。
- 開館以来継続している教育普及事業には「アートマネジメント研修プログラム」もある。アートマネジメントでのキャリアアップを目指す若い世代のインターンシップ・プログラムとして、文化政策やマネジメントに関する座学とともに、現場での実践経験の場を提供している。
- 2011年度以降継続している劇団昴による朗読劇「クリスマス・キャロル」は、劇場ホワイエでの入場無料イベントで、乳幼児と同伴で来場ができるなど、幅広い層の来場者を迎えてお

り、クリスマス時季を彩る定例イベントとなっている。

- 2013年度にプロデュース公演として行われた「鑑賞者」は、教育普及事業として3年間にわたって大塚ろう学校の協力のもと、ろう者とのワークショップに取り組んできた活動の成果として、2人のろう者をキャストに加えた作品となった。
- 他の教育普及事業も、年齢層や障害の有無に関わらず、多種多様な参加者層を対象に、あうるすぽっとと幅広い区民との関係を拡大しようとする意図が伺える。

④ その他連携事業

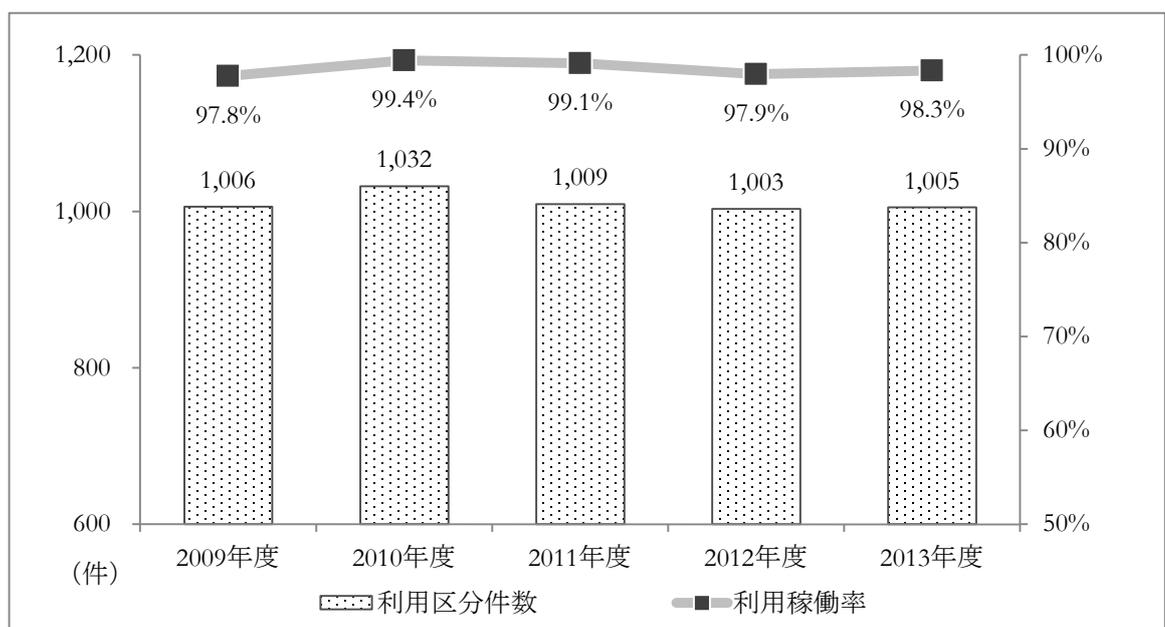
- 2009年度から2013年度までの5年間のその他連携事業を一覧にまとめた(資-183~186)。
- 過去5年間の年間事業本数は8本から5本まで徐々に減少している。教育普及事業と同じく、毎年継続し、同一時期、同一会場に行われているプログラムが数多くあり、定着していることが伺える。
- その他連携事業の中でも、「図書館関連事業(中央図書館 特別展示)」は、文化の交流拠点として、地域の活性化を目的に継続されている。過去5年間の展示内容を概観すると、初期の展示は劇場の公演に合わせた作家・作品をキーワードとして展示図書を選定していたようだが、近年では、公演だけでなく、教育普及事業を含めた企画の意図や背景に対して興味や関心を引き出すような選定を行っているように見受けられる。
- その他、「池袋演劇祭」「フェスティバル/トーキョー」「小田島雄志 翻訳・戯曲賞」「あうるすぽっと区民シリーズ」では、豊島区が舞台芸術の創造・発信・育成を行うために、今後もあうるすぽっとと持続的な連携が望まれる。

(2) 施設管理事業(利用状況、来館者数)の推移

① 劇場

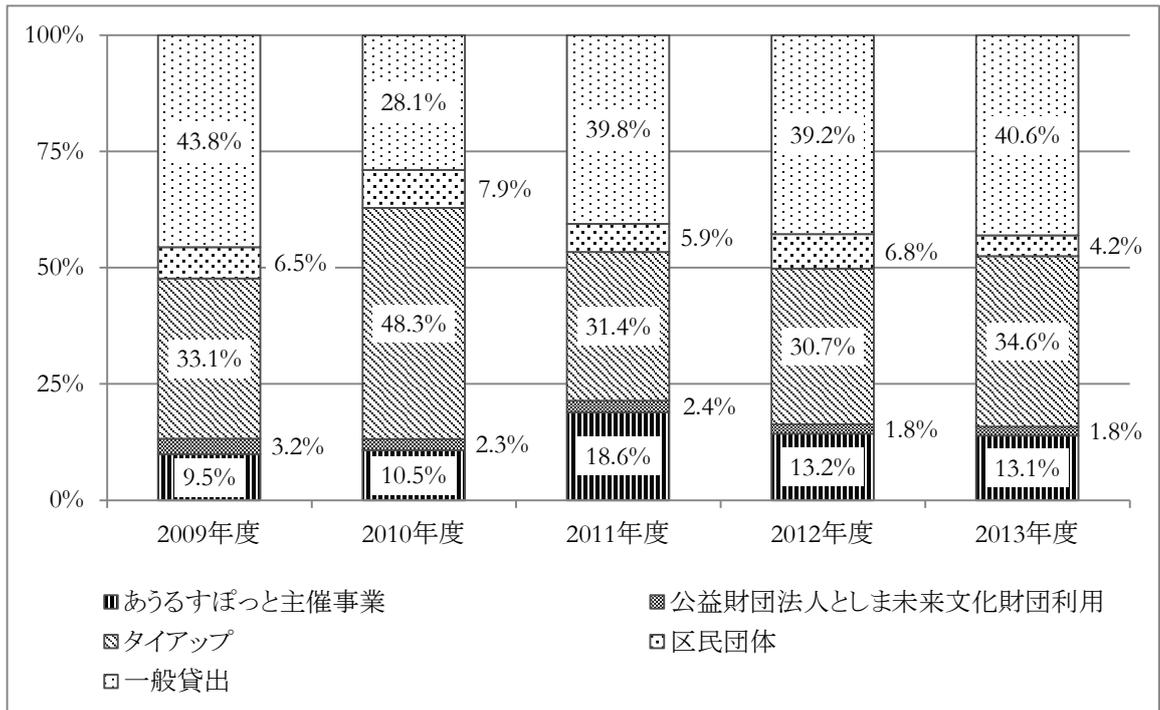
- 2009年度から2013年度まで、過去5年間の劇場の利用区分件数と利用稼働率の推移をグラフ化した(図表1-6)。利用区分件数は1,003区分から1,032区分の間を推移し、利用稼働率は97.8%から99.4%の間を推移しており、極めて高い利用稼働率を維持している。

図表1-6 劇場の利用区分件数と利用稼働率の推移



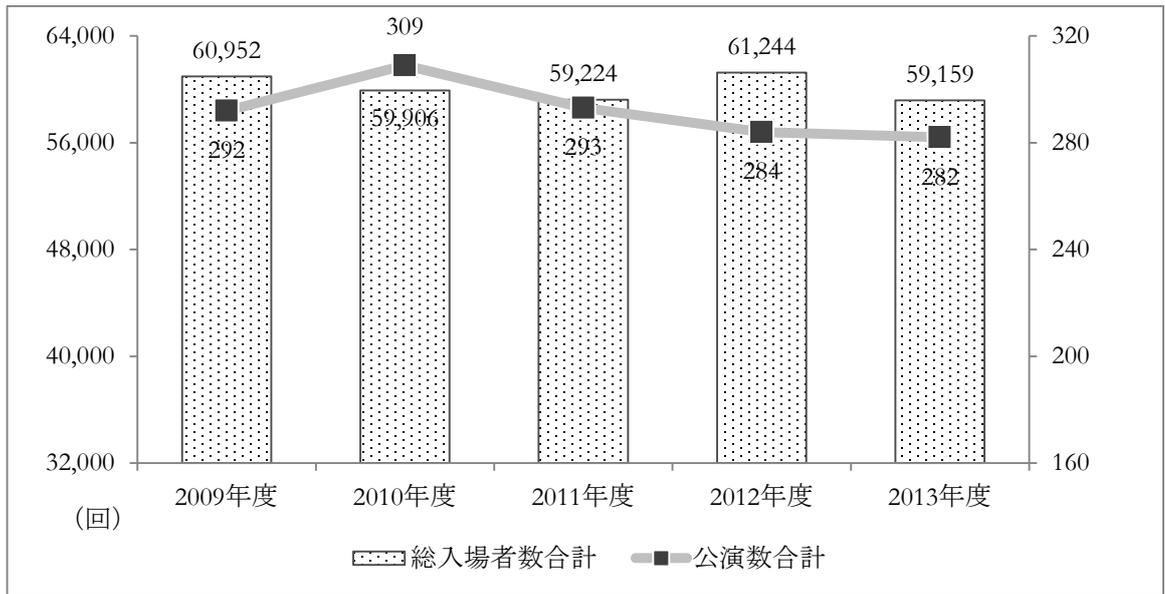
- 利用主体別に、利用区分件数の割合の推移をグラフ化した(図表1-7)。最も割合の高い利用主体は「一般貸出」が多いが、2010年度は、「タイアップ」が「一般貸出」よりも高い割合となっている(2010年度は「あうるすぽっとチェーホフフェスティバル2010」の開催年で、タイアップ公演が例年よりも多い)。
- 「あうるすぽっと主催事業」の利用の割合は、2011年度が最も高く18.6%で、2009年度が最も低く9.5%となっている。

図表1-7 全利用区分における利用主体別の割合の推移



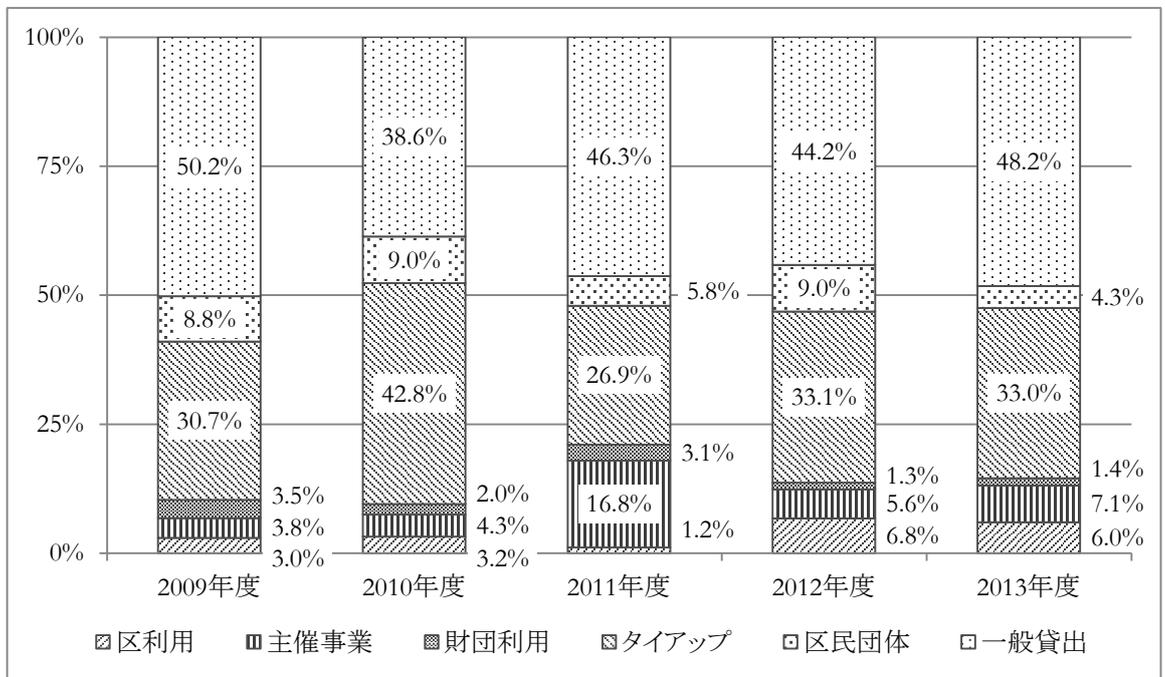
- 過去5年間の劇場の総入場者数と公演数の推移をグラフ化した(図表1-8)。
- 総入場者数は59,159人から61,244人の間を推移し、公演数は282回から309回の間を推移している。総入場者数が最も多いのは2012年度だが、公演数が最も多いのは2010年度となっている。

図表1-8 劇場の総入場者数と公演数の推移



- 利用主体別に、総入場者数の割合の推移をグラフ化した(図表1-9)。最も割合の高い利用主体は「一般貸出」が多いが、2010年度は、「タイアップ」が「一般貸出」よりも高い割合となっている。
- 「あうるすぽっと主催事業」の総入場者数の割合は、2011年度が最も高く16.8%で、2009年度が最も低く3.8%となっている。

図表1-9 総入場者数における利用主体別の割合の推移

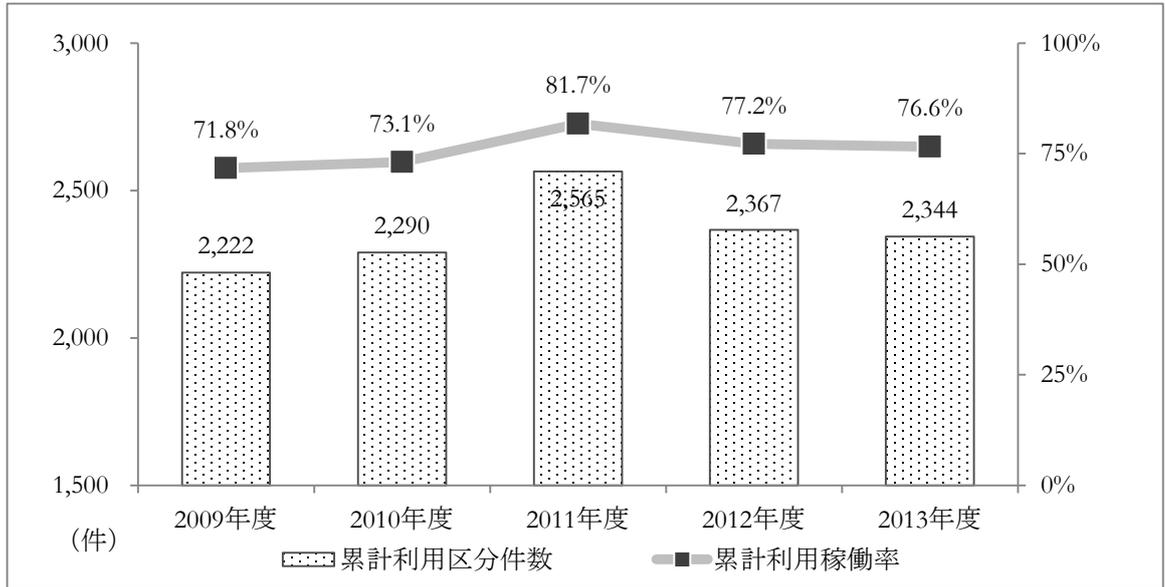


② 会議室

- 過去5年間の会議室の累計利用区分件数と利用稼働率の推移をグラフ化した(図表1-10)。累計利用区分件数は2,222区分から2,565区分の間を推移し、利用稼働率は71.8%から81.7%の間を推移しており、高い利用稼働率を維持している。

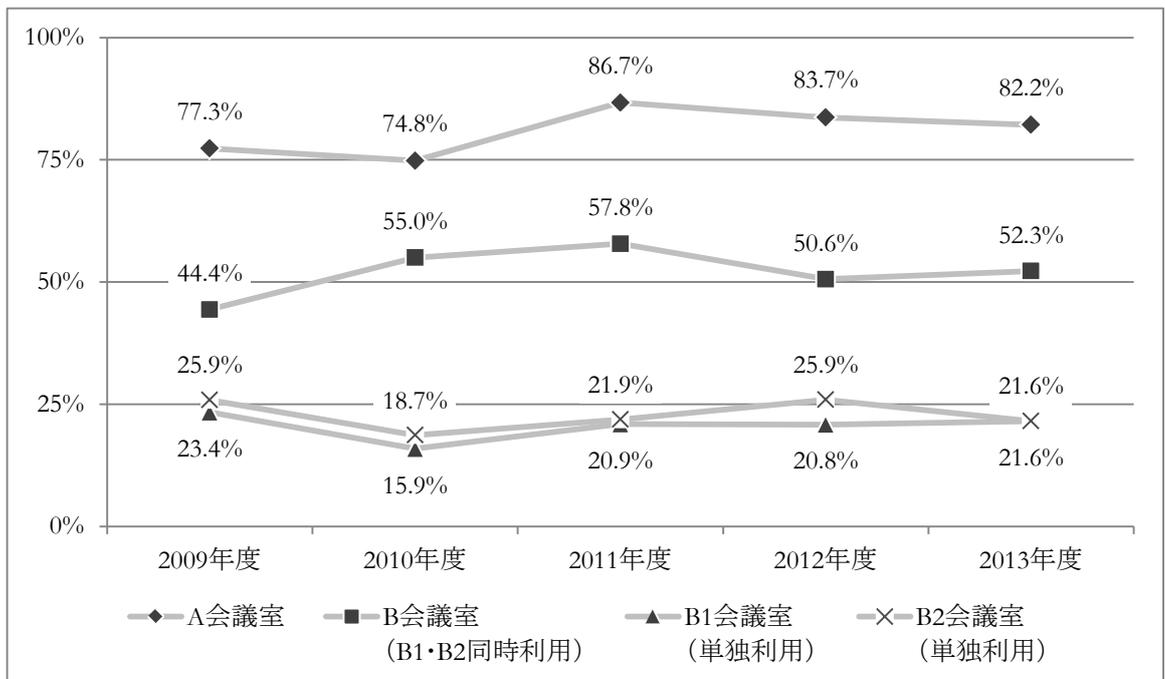
- 過去5年間で、累計利用区分件数、累計利用稼働率が最も高い割合となっているのは2011年度となっている。

図表1-10 会議室の累計利用区分件数と利用稼働率の推移



- 過去5年間の個別の会議室の利用稼働率をグラフ化した(図表1-11)。5年間を通じて利用稼働率が最も高いのはA会議室で、74.8%から86.7%の間を推移し、次いで、B会議室(B1・B2同時利用)が44.4%から57.8%の間を増減している。B1会議室、B2会議室の単独利用は、どちらも20%前後を推移している。

図表1-11 諸室別会議室の利用稼働率の推移



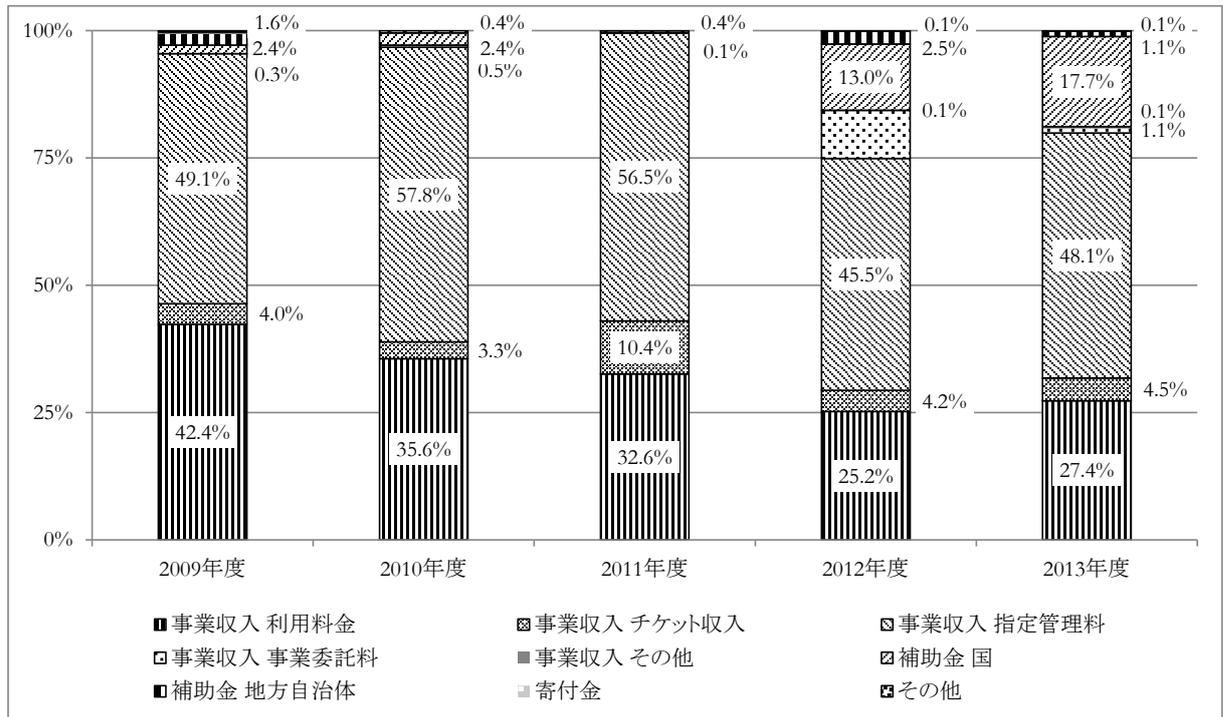
(3) 過去5年間の収入内訳から見た分析

- あうるすぽっとの2013年度の支出は、管理費が約5,200万円、人件費も約5,200万円、事業

費が約8,100万円で、総額が約1億8,500万円となっている。

- 公文協調査によると、年間予算額の平均は管理費が8,343万円、人件費が4,881万円、事業費が5,439万円、その他が1,330万円で、総額が1億9,993万円となっている。あうるすぽっとの年間支出は、公文協調査の全国平均を下回る予算規模となっていることが分かる。
- 公文協調査によると、施設の最大ホールの席数別に年間予算額の総額を見る場合、「500席未満」の年間予算の平均が約1億4,100万円となっているため、同規模の施設では、あうるすぽっとの予算規模は平均を上回っている。
- しかし、同じく公文協調査で「文化芸術系自主企画制作事業実施施設」の年間予算額の平均が約2億2,100万円、「(設置自治体に)文化指針あり(中核市以上)」では約2億6,600万円、「人材養成事業実施施設」では約3億1,100万円となっていることから、あうるすぽっとの事業や豊島区の施策を勘案すると、約1億8,500万円は大きな予算規模ではない。
- また、あうるすぽっとの収入内訳をみると、指定管理が全体の48.1%、利用料金が27.4%、国の補助金が17.7%、チケット収入が4.5%となっている。文化庁の「劇場・音楽堂等活性化事業」と「地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ」、(一財)地域創造の「地域の文化・芸術活動助成事業(研修プログラム)」により国からの約3,300万円の補助を受けており、積極的に資金調達に努めている。
- (財)地域創造が2010(平成23)年にまとめた「平成22年度 地域の公立文化施設実態調査 報告書」(以下「地域創造調査」)によると、自主事業費に占める、設置者以外からの助成金、協賛金、寄附金の年額の全国平均が870.6万円となっている。あうるすぽっとの資金調達努力は、地域創造調査の全国平均を大きく上回っていることが分かる。
- 過去5年間の収入内訳から見た推移をグラフ化した(図表1-12)。5年間を通じて最も収入内訳が高いのは指定管理料で、45.5%から57.8%の間を推移している。利用料金収入は、42.4%だった2009年度から徐々に割合が低下し、2012年度は25.2%となったが、2013年度には27.4%に増加した。国の補助金は年度によって0%から17.7%と大きく増減している。

図表1-12 過去5年間の収入内訳から見た推移



Ⅱ アンケート調査

1. アンケート調査の概要

【調査の目的】

観客や事業参加者の鑑賞行動や満足度、あうるすぽっとへの要望などを把握するとともに、観客等の消費支出に伴う経済波及効果を把握するための基礎データを収集するためにアンケート調査を実施した。

【調査の対象】

- 2013年5月から2014年3月までの自主事業公演の来場者
- 2013年5月から2014年3月までのワークショップ、講座等の参加者
- 2013年12月から2014年2月までの会議室利用者
- 過去の劇場の利用者

【配布・回収方法】

- 自主事業公演：各公演の開演時に配布、終演時に回収
- ワークショップ参加者：ワークショップ終了時に配布、回収
- 劇場利用者：過去のホール利用者に電子メールにて案内、webフォームにて回収
- 会議室利用者：貸館利用開始時に利用者に配布、利用終了時に回収

【実施時期】

- 2013年5月28日～2014年3月23日

【有効回答数】

- 914件

	有効回答数	配布数	回収率
自主事業公演	643	6,856	9.4%
ワークショップ等参加者	210	参加者への直接配布・回収	
劇場利用者	36	webフォームによる回収	
会議室利用者	25	利用者への直接配布・回収	
計	914	—	—

【調査項目】

○…設問と選択肢は共通／△…趣旨は共通、対象範囲に応じた設問と選択肢	自主事業 公演	WS等 参加者	会議室 利用者	劇場 利用者
情報入手経路	○	—	—	—
来場、利用、来館、参加の理由	△	△	△	△
事業、施設、サービスへの意見	△	△	△	△
あうるすぽっとに対する総合評価	○	○	○	○
あうるすぽっとの今後の事業展開	○	○	—	—
飲食・ショッピングの有無	○	—	—	—
飲食・ショッピングの支出額	○	—	—	—
日頃の公演鑑賞頻度	○	○	○	○

あうるすぽっとでの来場鑑賞頻度	○	○	—	—
鑑賞の妨げになっている要因	○	○	—	—
居住(所在)エリア	○	○	○	○
性別、年齢	○	○	—	—
最近鑑賞した公演	自由	自由	—	—
感想、意見	自由	自由	自由	自由
劇場やホールの利用で重視すること	—	—	△	△
今までの劇場・会議室の利用回数	—	—	○	○
1回の利用の平均的な日数	—	—	—	○
劇場・会議室の利用の内容	—	—	○	○
会議室の利用時の人数	—	—	○	—
劇場や会議室の利用頻度	—	—	○	○
次回の利用機会の意向	—	—	○	○

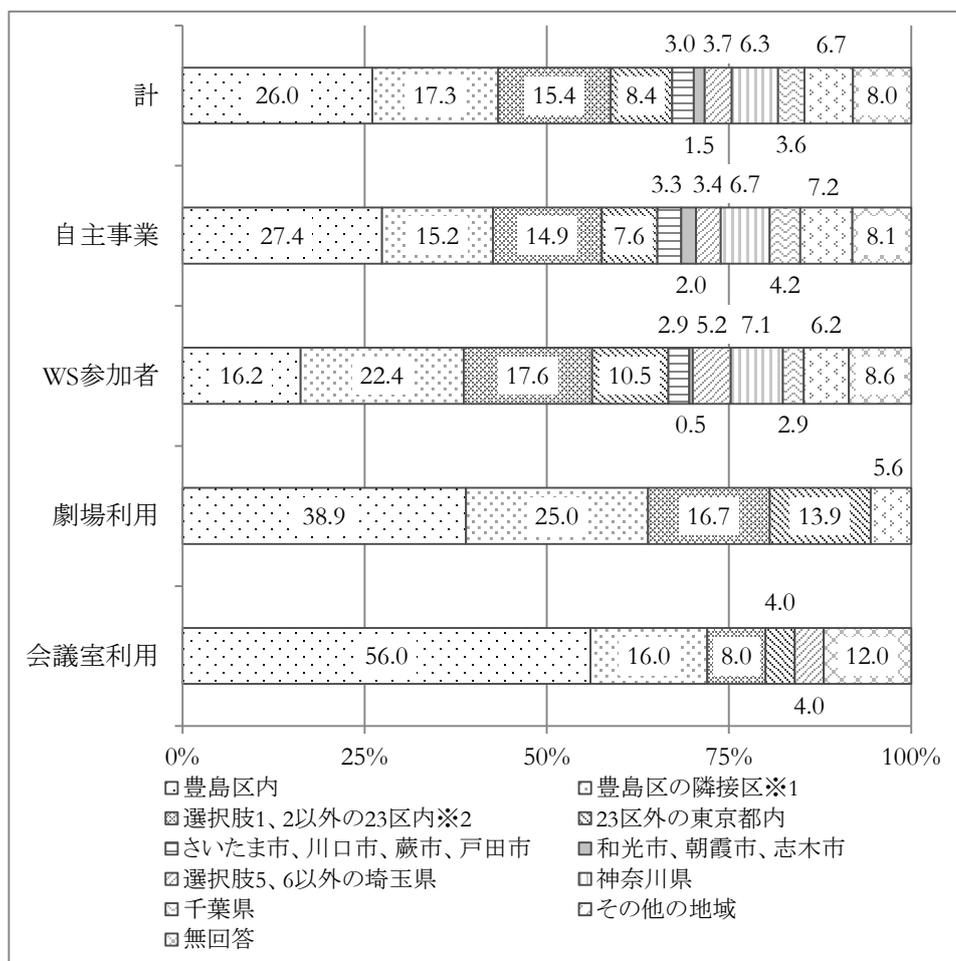
2. 共通設問項目の結果概要

アンケートは自主事業公演(以下「自主」)、ワークショップ等参加者(以下「WS」)、劇場利用者(以下「劇場」)、会議室利用者(以下「会議室」)に対して個別に4種の調査票を作成し、その上で複数の調査票に共通の設問項目と選択肢を設けている。以下、共通設問・選択肢の項目の結果を述べ、各アンケートで特徴的な結果の要点を説明する。

(1) アンケート回答者・団体の居住(所在)エリア[自主/WS/劇場/会議室](図表2-1)

- アンケート回答者・団体の居住(所在)エリアで、全回答の計では「豊島区内」が最も多く26.0%、次いで「豊島区の隣接区※1」が17.3%、「選択肢1、2以外の23区内※2」が15.4%となっており、23区内の回答者・団体が58.8%※3となっている。
- アンケート種別で見ると、会議室利用は「豊島区内」が56.0%で過半数を占めている一方で、WS参加者は「豊島区内」(16.2%)よりも「豊島区の隣接区」(22.4%)、「23区内」(17.6%)の割合が多く、利用の形態によって、対象となる利用者・団体の居住(所在)エリアが異なることが分かる。

図表2-1 アンケート回答者・団体の居住(所在)エリア



※1 豊島区の隣接区は、新宿区、文京区、中野区、北区、板橋区、練馬区を指す。

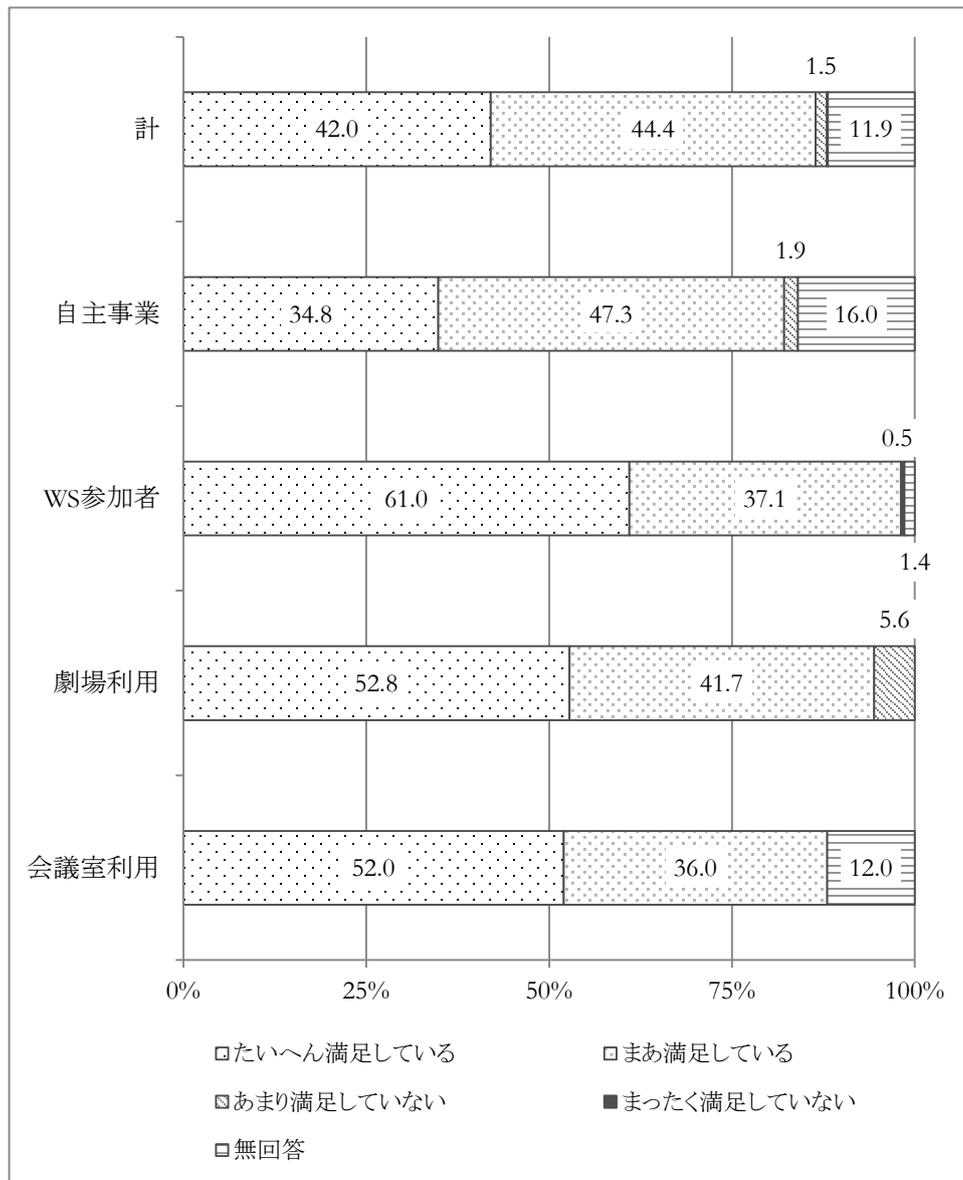
※2 選択肢1、2以外の23区内とは、豊島区、新宿区、文京区、中野区、北区、板橋区、練馬区以外の23区内を指す。

※3 グラフ中の各選択肢ごとのデータは四捨五入した数値のため、解説文中の選択肢同士を足し合わせた数値と合わない箇所がある。以下の頁の解説文も同様。

(2) 総合的にみたあうるすぽっとに対する満足度[自主/WS/劇場/会議室](図表2-2)

- 総合的にみたあうるすぽっとに対する満足度は、全回答の計では「満足している」割合が86.4%（「たいへん満足している」が42.0%、「まあ満足している」が44.4%）と9割近い回答者が満足している。「満足していない」割合は1.6%（「あまり満足していない」が1.5%、「まったく満足していない」が0.1%）、「無回答」が11.9%となっている。
- アンケート種別で見ると、「WS参加者」の「満足している」割合は98.1%（「たいへん満足している」61.0%、「まあ満足している」37.1%）で、ほとんどの回答者が満足している。次いで「満足している」割合が高いのは「劇場利用」で、「満足している」割合は94.4%（「たいへん満足している」52.8%、「まあ満足している」41.7%）となっている。

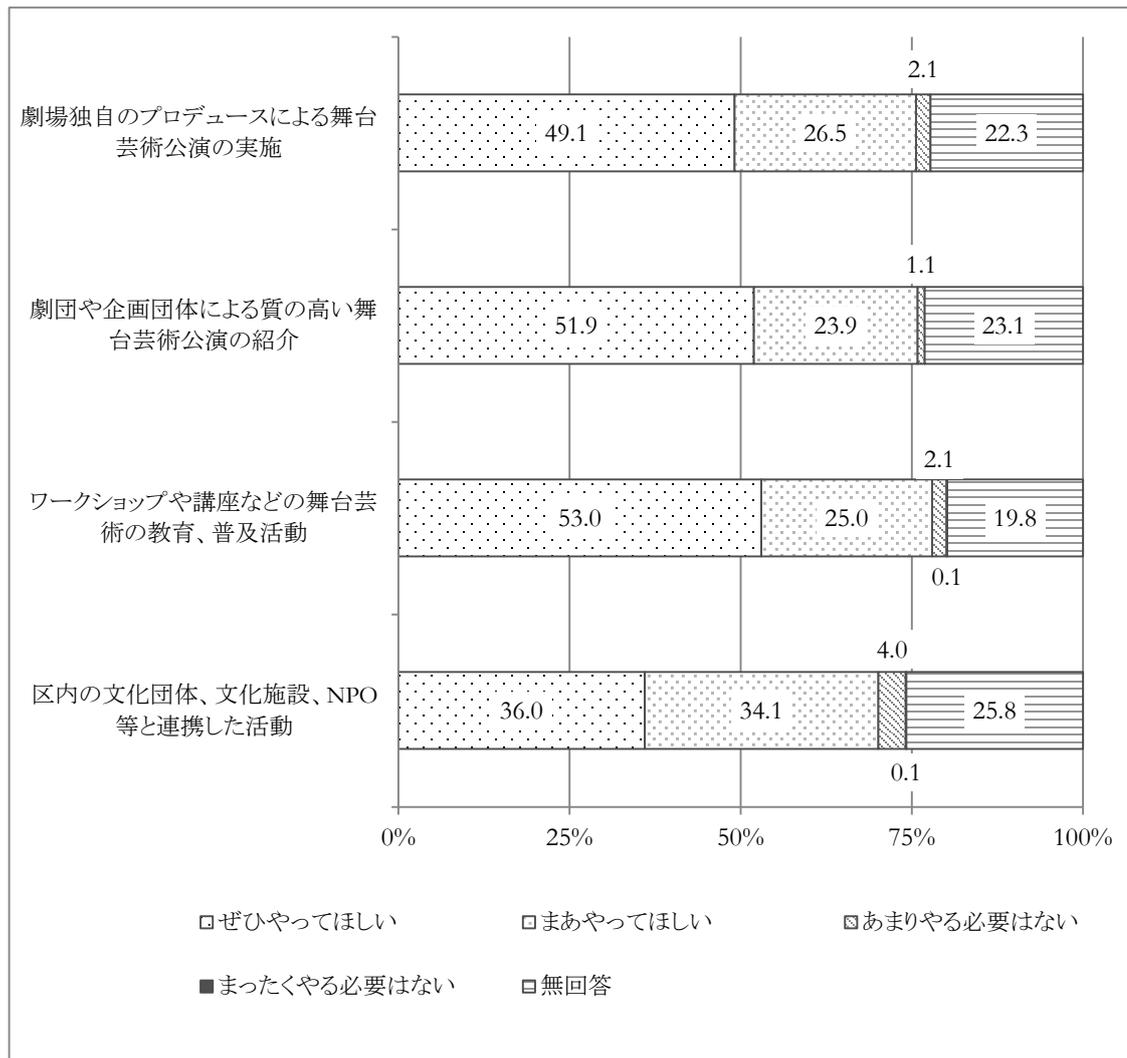
図表2-2 総合的にみたあうるすぽっとに対する満足度



(3) あうるすぽっとの今後の事業展開[自主/WS](図表2-3)

- 自主事業の来場者とWS参加者のアンケート回答者に、あうるすぽっとは今後どのような活動に力を入れるべきか、以下の4つの事業方針について、「ぜひやってほしい」「まあやってほしい」「あまりやる必要はない」「まったくやる必要はない」の4段階で回答を受けた。
 - 劇場独自のプロデュースによる舞台芸術公演の実施
 - 劇団や企画団体による質の高い舞台芸術公演の紹介
 - ワークショップや講座などの舞台芸術の教育、普及活動
 - 区内の文化団体、文化施設、NPO 等と連携した活動
- 全回答の計で、4つの事業方針の回答を比較すると、「やってほしい」という回答(「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」)の割合が最も高いのは、「ワークショップや講座などの舞台芸術の教育・普及事業」で78.0%(「ぜひやってほしい」が53.0%、「まあやってほしい」が25.0%)となっている。
- 「やってほしい」のという回答は「劇団や企画団体による質の高い舞台芸術公演の紹介」(75.8%)と「劇場独自のプロデュースによる舞台芸術公演の実施」(75.6%)が同じくらいの割合で、「区内の文化団体、文化施設、NPO等と連携した活動」は70.1%となっている。

図表2-3 あうるすぽっとの今後の事業展開に対する要望(自主/WSの全回答)

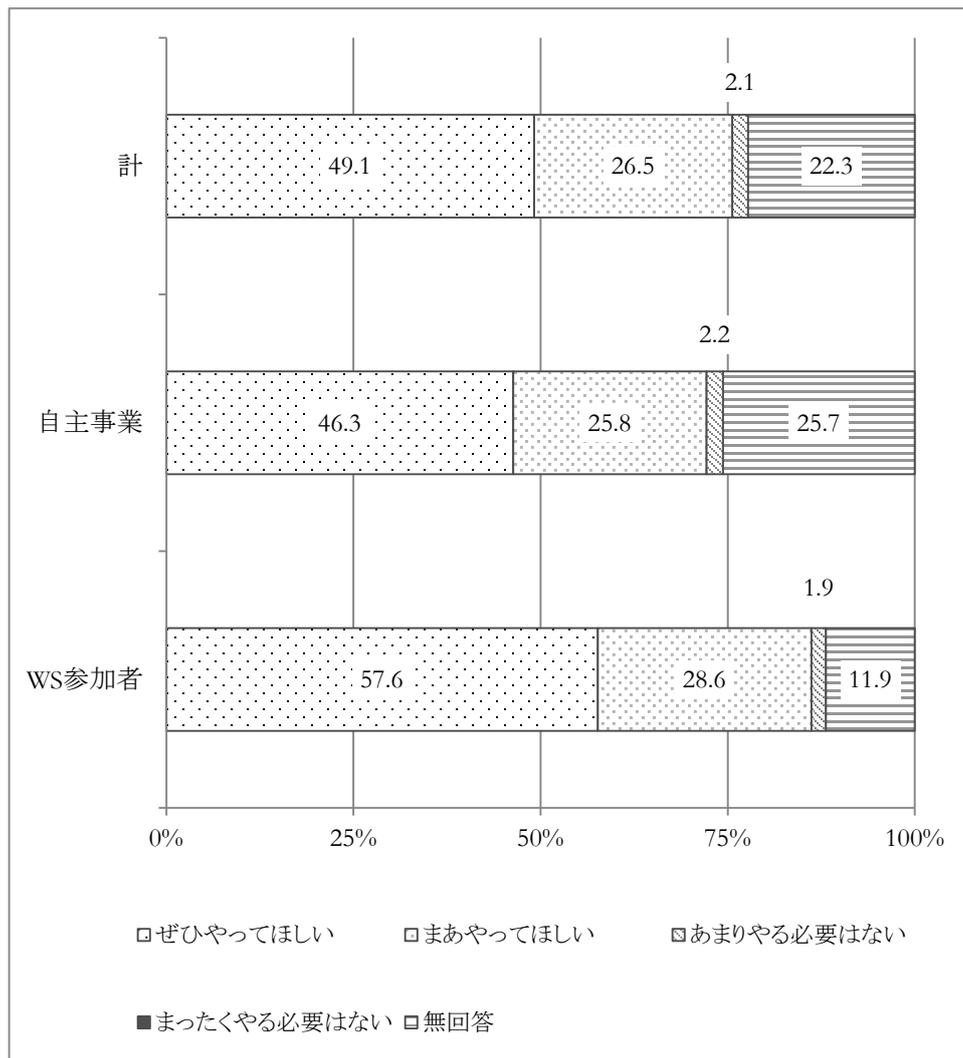


- 以下、個別の事業方針の結果とアンケート種別ごとの分析を行う。

① 劇場独自のプロデュースによる舞台芸術公演の実施(図表2-4)

- あうるすぽっとの今後の事業展開で、劇場独自のプロデュースによる舞台芸術公演の実施を「やってほしい」という回答者は75.6%（「ぜひやってほしい」49.1%、「まあやってほしい」26.5%）で、およそ4分の3の回答者は劇場独自のプロデュース公演を望んでいる。
- アンケート種別で見ると、「WS参加者」は「やってほしい」という回答が86.2%（「ぜひやってほしい」が57.6%、「まあやってほしい」が28.6%）で、「自主事業公演」の回答者が「やってほしい」と答えた割合（72.2%）を上回っている。また、「ぜひやってほしい」という積極的な要望の度合いも、「WS参加者」が「自主事業」の割合よりも高いことが分かる。

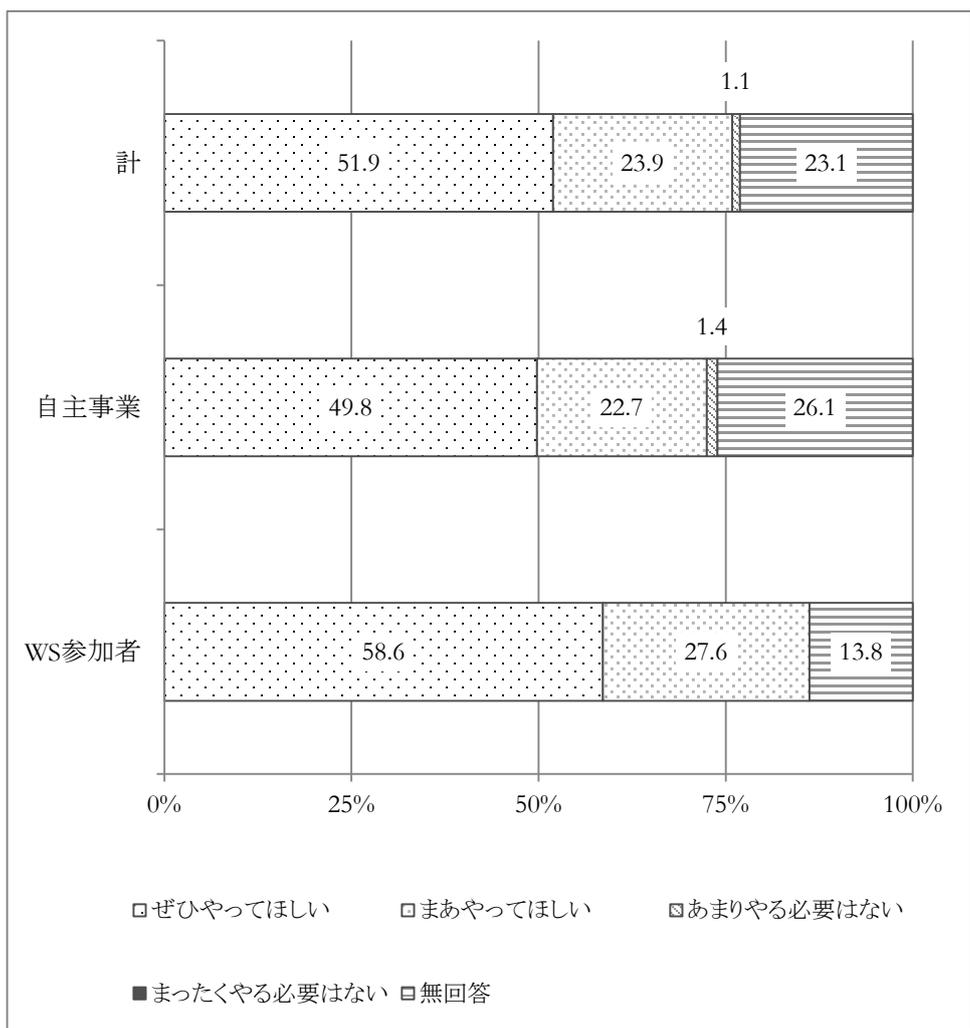
図表2-4 劇場独自のプロデュースによる舞台芸術公演の実施



② 劇団や企画団体による質の高い舞台芸術公演の紹介(図表2-5)

- あうるすぽっとの今後の事業展開で、劇団や企画団体による質の高い舞台芸術公演の紹介を「やってほしい」という回答者は75.8%（「ぜひやってほしい」が51.9%、「まあやってほしい」が23.9%）で、回答者の4分の3が劇団や企画団体の公演の紹介を望んでいる。
- アンケート種別で見ると、「WS参加者」は「やってほしい」という回答が86.2%（「ぜひやってほしい」が58.6%、「まあやってほしい」が27.6%）で、「自主事業公演」の回答者が「やってほしい」と答えた割合（72.5%）を上回っている。また、「ぜひやってほしい」という積極的な要望の度合いも、「WS参加者」が「自主事業」の割合よりも高いことが分かる。

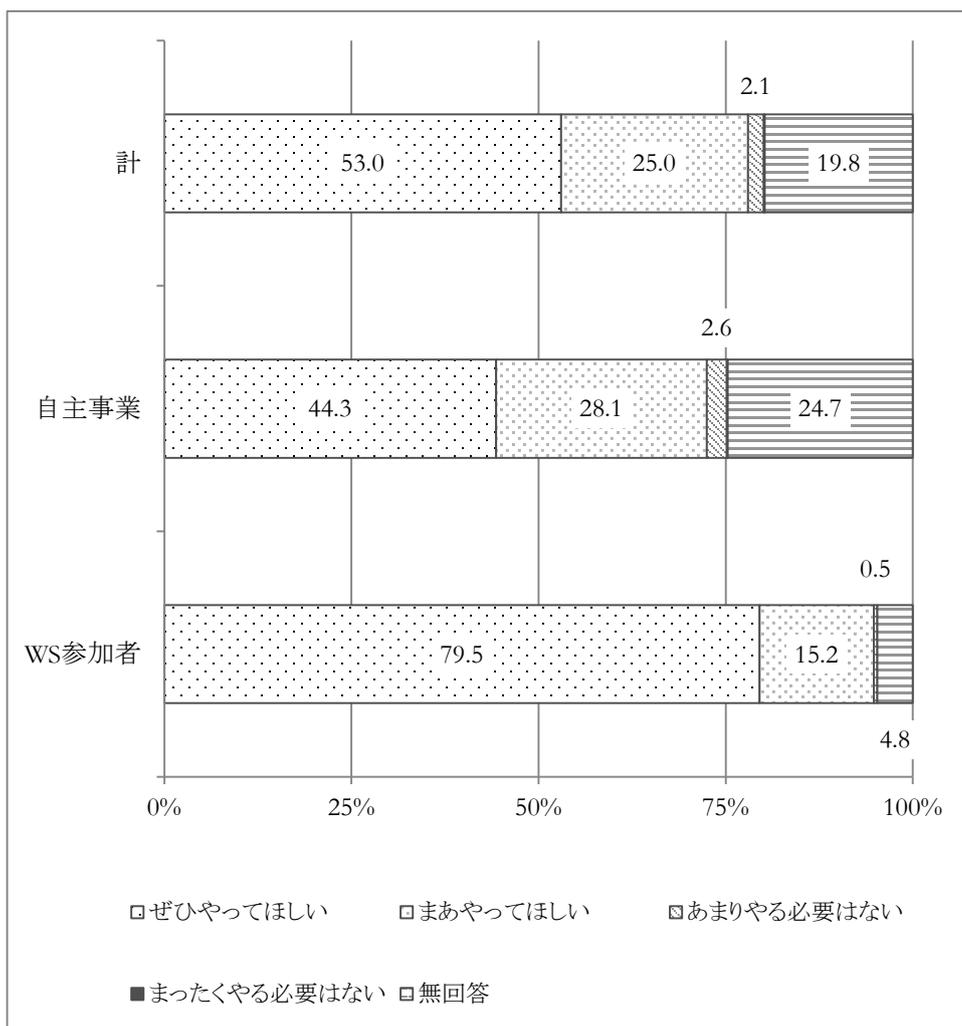
図表2-5 劇団や企画団体による質の高い舞台芸術公演の紹介



③ ワークショップや講座などの舞台芸術の教育、普及活動(図表2-6)

- あうるすぽっとの今後の事業展開で、ワークショップや講座などの舞台芸術の教育、普及活動を「やってほしい」という回答者は78.0%（「ぜひやってほしい」が53.0%、「まあやってほしい」が25.0%）で、回答者の8割近くが舞台芸術の教育、普及活動を望んでいる。
- アンケート種別で見ると、「WS参加者」は「やってほしい」という回答が94.8%（「ぜひやってほしい」が79.5%、「まあやってほしい」が15.2%）で、「自主事業公演」の回答者が「やってほしい」と答えた割合（72.5%）を上回っている。また、「ぜひやってほしい」という積極的な要望の度合いも、「WS参加者」が「自主事業」の割合を大きく上回っていることが分かる。

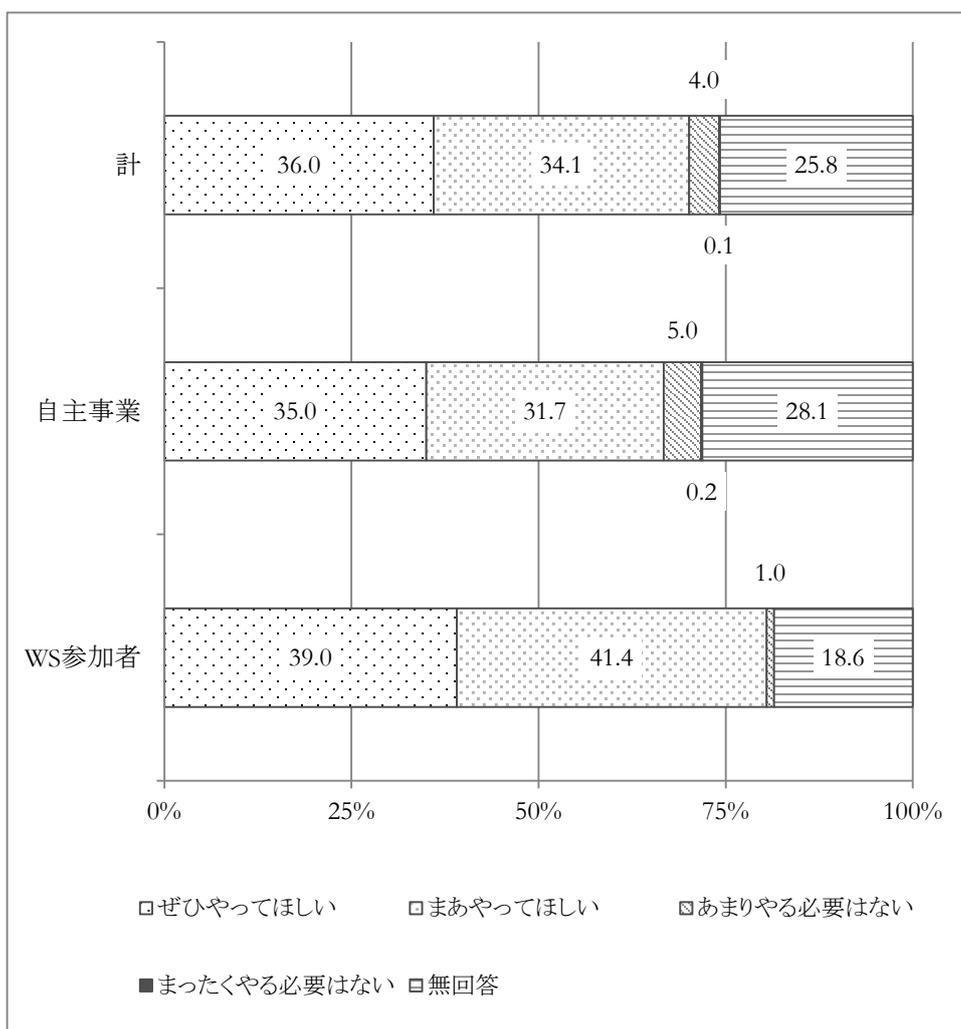
図表2-6 ワークショップや講座などの舞台芸術の教育、普及活動



④ 区内の文化団体、文化施設、NPO 等と連携した活動(図表2-7)

- あうるすぽっとの今後の事業展開で、区内の文化団体、文化施設、NPO等と連携した活動を「やってほしい」という回答者は70.1%（「ぜひやってほしい」が36.0%、「まあやってほしい」が34.1%）で、回答者の約7割が区内の文化団体、文化施設、NPO等と連携を望んでいる。一方、「無回答」が25.8%となっている。
- アンケート種別で見ると、「WS参加者」は「やってほしい」という回答が80.5%（「ぜひやってほしい」が39.0%、「まあやってほしい」が41.4%）で、「自主事業公演」の回答者が「やってほしい」と答えた割合（66.7%）を上回っている。また、「ぜひやってほしい」という積極的な要望の度合いも、「WS参加者」が「自主事業」の割合よりも高いことが分かる。

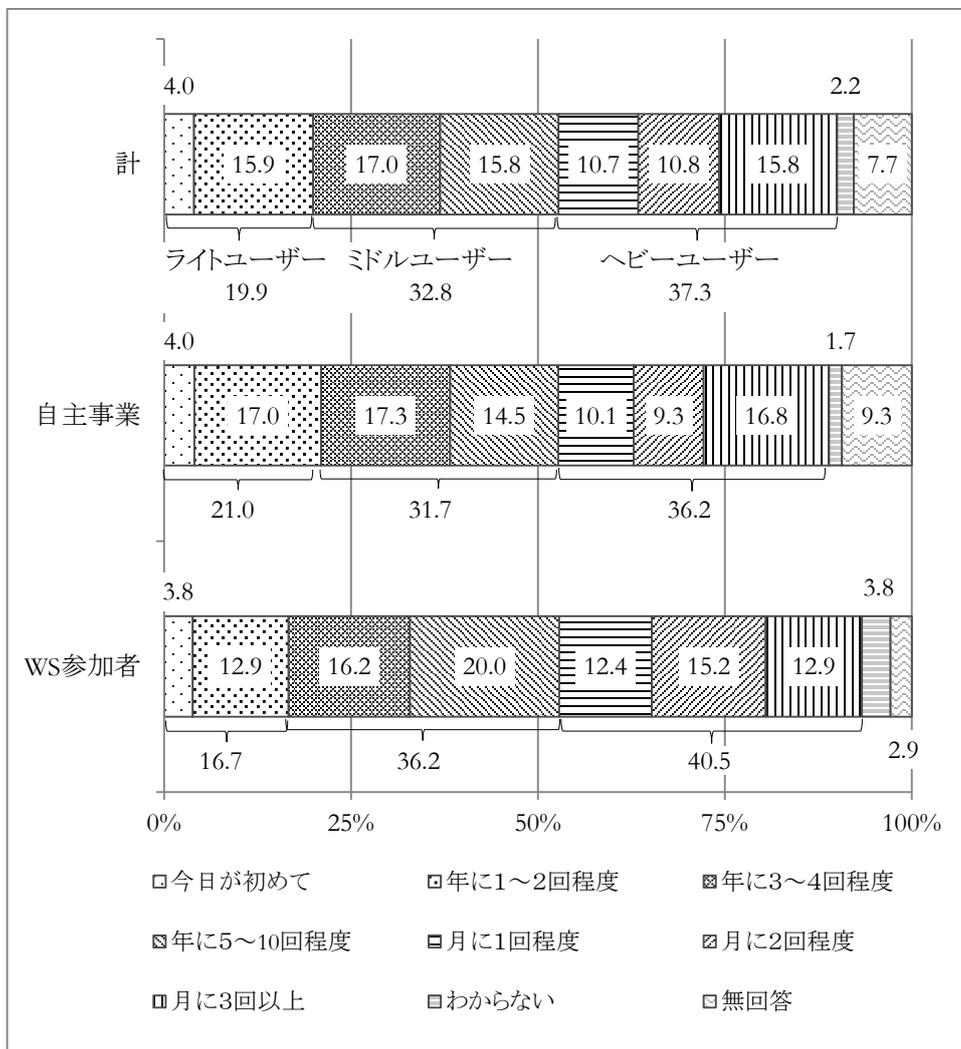
図表2-7 区内の文化団体、文化施設、NPO 等と連携した活動



(4) 演劇やコンサートに出掛ける頻度[自主/WS](図表2-8)

- 日頃の演劇やコンサートに出掛ける頻度については、「今日が初めて」から「年に1～2回」までの「ライトユーザー」が19.9%、「年に3～4回」から「年に5～10回」までの「ミドルユーザー」が32.8%、「月に1回程度」から「月に3回以上」の「ヘビーユーザー」が37.3%となっている。
- アンケート種別で見ると、「WS参加者」では「ライトユーザー」が16.7%、「ミドルユーザー」が36.2%、「ヘビーユーザー」が40.5%で、「自主事業」は「ライトユーザー」が21.0%、「ミドルユーザー」が31.7%、「ヘビーユーザー」が36.2%となっている。
- 演劇やコンサートに出掛ける頻度は、「WS参加者」が「自主事業公演」の回答者を上回っていることが分かる。

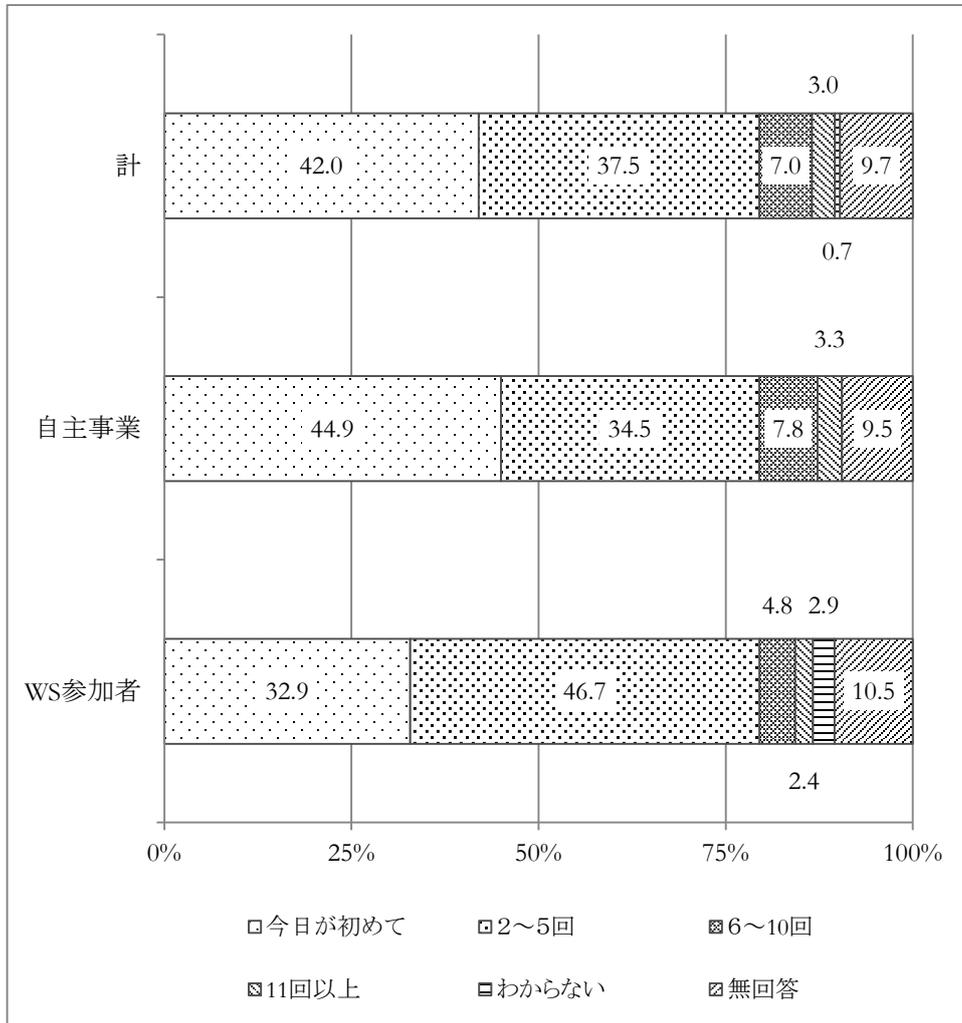
図表2-8 演劇やコンサートに出掛ける頻度



(5) あうるすぽっとでの来場鑑賞頻度[自主/WS](図表2-9)

- あうるすぽっとでの公演の鑑賞頻度については、「今日が初めて」が42.0%、「2～5回」が37.5%、「6回以上」(「6～10回」+「11回以上」)が10.1%となっている。前の設問の、日頃の舞台芸術鑑賞頻度と比べて、あうるすぽっとでの来場鑑賞頻度はライトユーザーの割合が高いことが分かる。
- アンケート種別で見ると、「自主事業」は「今日が初めて」が44.9%で「2～5回」の34.5%を上回っている一方で、「WS参加者」は「2～5回」が46.7%で「今日が初めて」の32.5%を上回っている。
- あうるすぽっとでの来場鑑賞頻度は、「WS参加者」が「自主事業」の回答者を上回っていることが分かる。

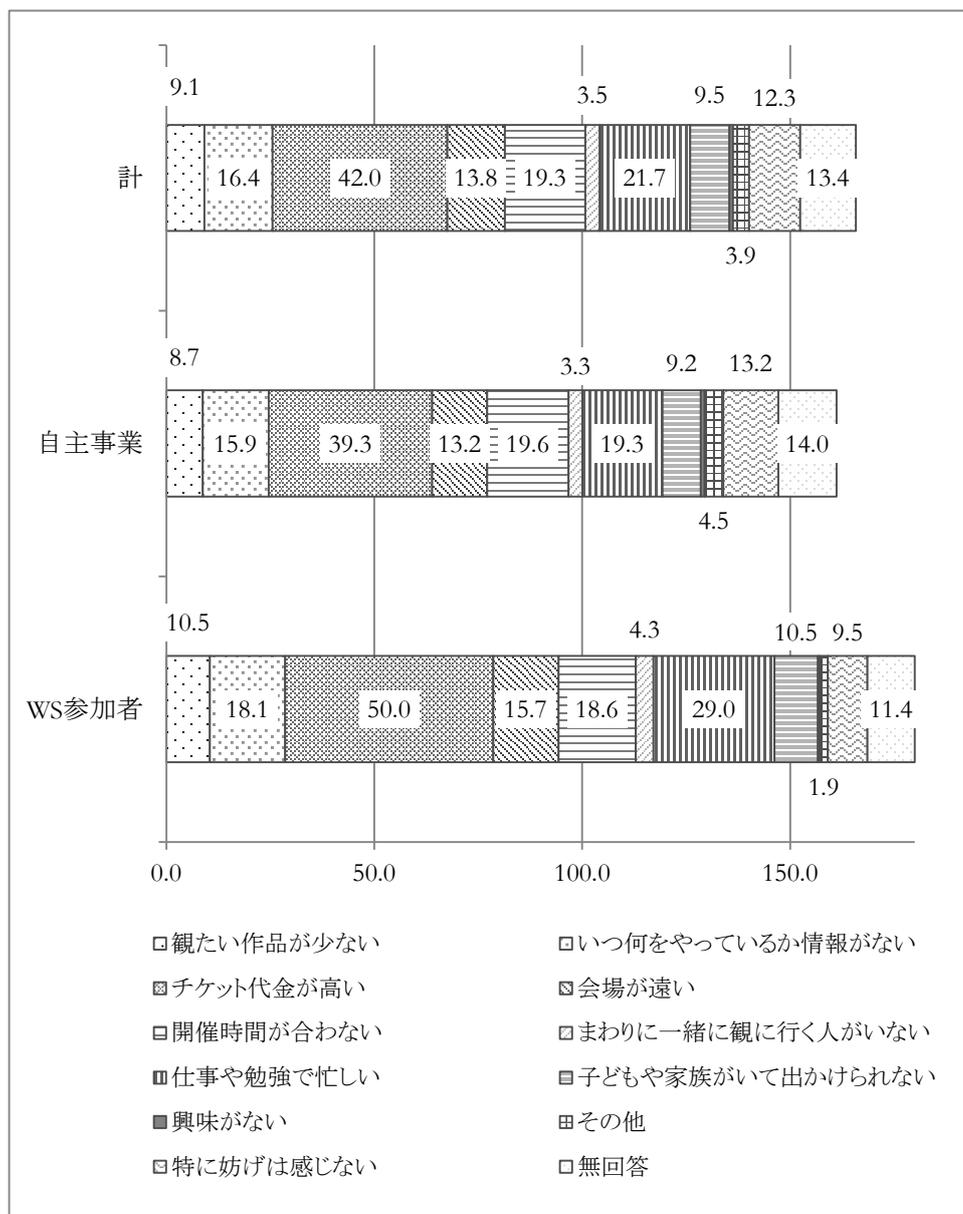
図表2-9 あうるすぽっとでの来場鑑賞頻度



(6) 鑑賞を妨げる要因(図表2-10)

- 自主事業の来場者とWS参加者のアンケート回答者に、「演劇やコンサートなどの公演にでかけるのに、何が妨げになっているのか」を聞いたところ、全回答者の計では「チケット代金が高い」が最も高い割合で42.0%となっている。次いで、「仕事や勉強で忙しい」(21.7%)、「開催時間が合わない」(19.3%)となっている。
- アンケート種別で見ると、「WS参加者」が「チケット代金が高い」の50.0%に次いで「仕事や勉強で忙しい」が29.0%、「開催時間が合わない」が18.6%となっているが、「自主事業」では「チケット代金が高い」の39.3%に次いで「開催時間が合わない」が19.6%、「仕事や勉強で忙しい」が19.3%という順になっている。割合の高い順序や数値に違いが見られる。

図表2-10 鑑賞を妨げる要因



3. 自主事業アンケートの結果概要

(1) 基本属性

① 性別(図表2-11)

- 自主事業のアンケートの回答者を性別で見ると、「男性」が25.5%でおよそ4人に1人、「女性」が66.9%でおよそ3人に2人の割合となっている(資-4)。

② 年齢(図表2-12)

- 回答者の年齢は、「40歳代」が26.3%で最も多く、次いで「60歳以上」が21.3%、「30歳代」が17.7%、「50歳代」が13.7%となっている。「40歳代」、「50歳代」、「60歳以上」の合計は61.3%、「18歳未満」、「18歳～29歳」、「30歳代」の合計は30.6%となる(資-6)。

③ 居住エリア(図表2-13)

- 居住エリアは、「豊島区内」が27.4%で、およそ4人に1人が豊島区民となっている。次いで「豊島区の隣接区(新宿区、文京区、中野区、北区、板橋区、練馬区)」が15.2%、「選択肢1、2(豊島区、新宿区、文京区、中野区、北区、板橋区、練馬区)以外の23区内」が7.6%となっており、23区内全体で57.5%、過半数となっている(資-8)。

(2) 鑑賞に伴う行動

① 公演情報の入手経路

- 公演情報の入手経路は、「チラシ」が45.4%と半数に近い割合となっている。次いで「その他」が14.9%、「ホームページ」が11.8%、「DM/メールマガジン」と「出演者・スタッフから」が7.6%となっている(資-12)。

② 公演に来た理由(図表2-14)

- 公演に来た理由は、「公演内容が面白そうだったから」が56.1%で過半数となっている。次いで「出演者、出演団体が好きだから」が42.5%、「劇場が近くだったから」が18.2%、「その他」が14.3%、「以前、あうるすぽっとで観た公演が良かったから」が11.5%となっている(資-14)。

③ 公演前後の飲食やショッピング

- 公演前後に飲食やショッピングをした、あるいはする予定があるかを伺ったところ、「はい」は42.0%で、「いいえ」の45.6%を下回っている(資-16)。

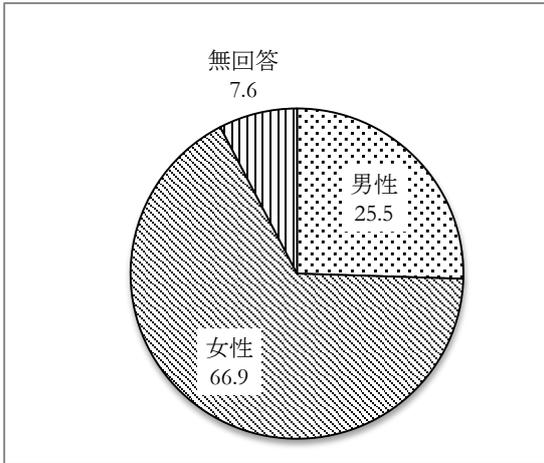
④ 使った又は使う予定の金額(飲食)

- 公演前後に飲食やショッピングをした、あるいはする予定があると回答した人に、飲食のために使った、または使う予定の金額を伺ったところ、「1,000～2,000円未満」が27.0%で最も多く、次いで「2,000～5,000円未満」が25.2%、「500～1,000円未満」が15.6%、「500円未満」が13.7%となっている。飲食のために使った具体的な金額の記入のあった226件の回答の平均金額は、1,409.9円である(資-18)。

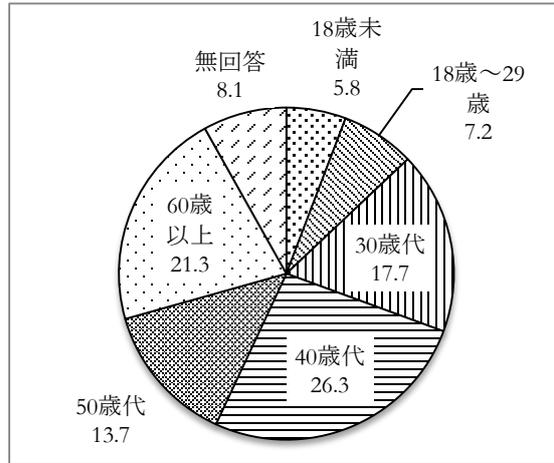
⑤ 使った又は使う予定の金額(ショッピング)

- 公演前後に飲食やショッピングをした、あるいはする予定があると回答した人に、ショッピングのために使った、または使う予定の金額を伺ったところ、「無回答」が68.9%となっている。これは、飲食のためにはお金を使ったが、ショッピングのためには使っていない人の割合として考えられる。ショッピングのために使った具体的な金額の記入のあった84件の回答の平均金額は、2,933.9円である(資-20)。

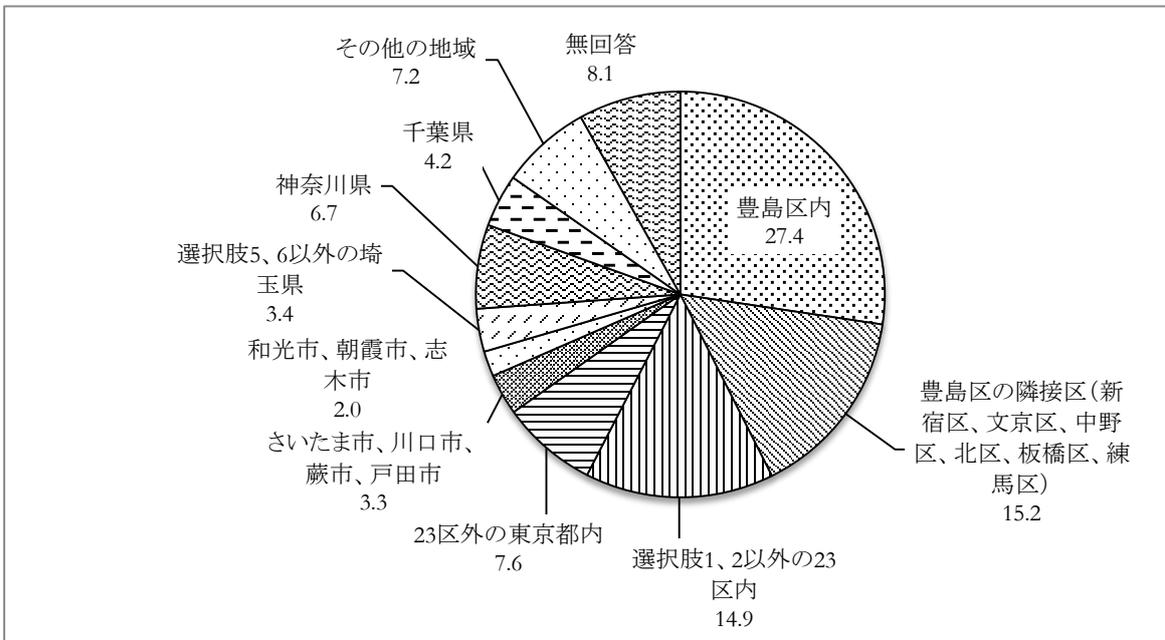
図表2-11 性別



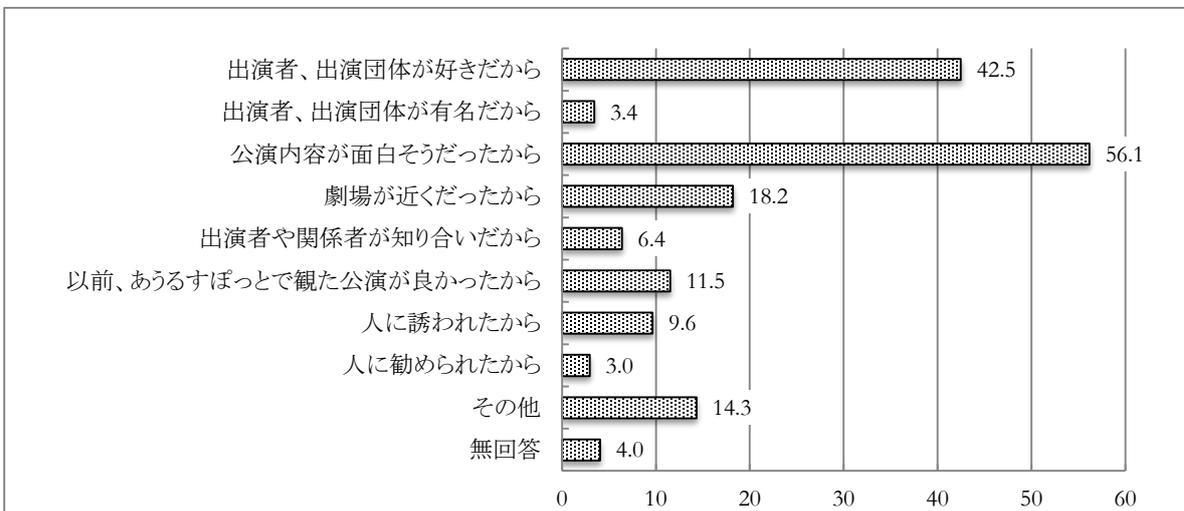
図表2-12 年齢



図表2-13 居住エリア



図表2-14 公演に来た理由



(3) 自主事業公演に対する満足度(図表2-15)

① 本日の公演の内容

- 当日の公演内容について、「たいへん満足している」回答者は63.6%と、およそ3人に2人が積極的な満足感を示している。次いで「まあ満足している」は21.8%、「あまり満足していない」は1.7%、「まったく満足していない」は0.2%となっている(資-24)。

② 本日の公演のチケット料金

- 当日の公演のチケット料金について「たいへん満足している」は54.3%、「まあ満足している」は19.9%で、満足層は74.2%、およそ4人に3人は公演のチケット料金について満足している。「あまり満足していない」(3.3%)と「まったく満足していない」(0.3%)を合わせた不満足層は3.6%、「無回答」は22.2%となっている(資-26)。

③ 本日の公演のスタッフの対応

- 当日の公演のスタッフの対応について「たいへん満足している」は56.5%、「まあ満足している」は27.2%で、満足層は83.7%、およそ5人に4人は公演のスタッフの対応について満足している。「あまり満足していない」は1.7%で、「まったく満足していない」は0.0%、「無回答」は14.6%となっている(資-28)。

④ 年間のラインナップ

- 年間のラインナップについては「無回答」が49.8%で、回答者の約半数は年間のラインナップに対する満足感の回答がなかった。「たいへん満足している」(13.7%)と「まあ満足している」(31.6%)を合わせた満足層は45.3%で、「あまり満足していない」(4.7%)と「まったく満足していない」(0.3%)を合わせた不満足層は5.0%となっている(資-30)。

⑤ 公演情報の入手のしやすさ

- 公演情報の入手のしやすさについては「無回答」が39.7%で、およそ5人に2人は公演情報の入手に対する満足感の回答がなかった。「たいへん満足している」(15.9%)と「まあ満足している」(31.7%)を合わせた満足層は47.6%で、「あまり満足していない」(11.5%)と「まったく満足していない」(1.2%)を合わせた不満足層は12.8%となっている(資-32)。

⑥ チケットの購入のしやすさ

- チケット購入のしやすさについては「無回答」が41.7%で、およそ5人に2人はチケットの購入に対する満足感の回答がなかった。「たいへん満足している」(19.9%)と「まあ満足している」(29.7%)を合わせた満足層は49.6%で、「あまり満足していない」(7.9%)と「まったく満足していない」(0.8%)を合わせた不満足層は8.7%となっている(資-34)。

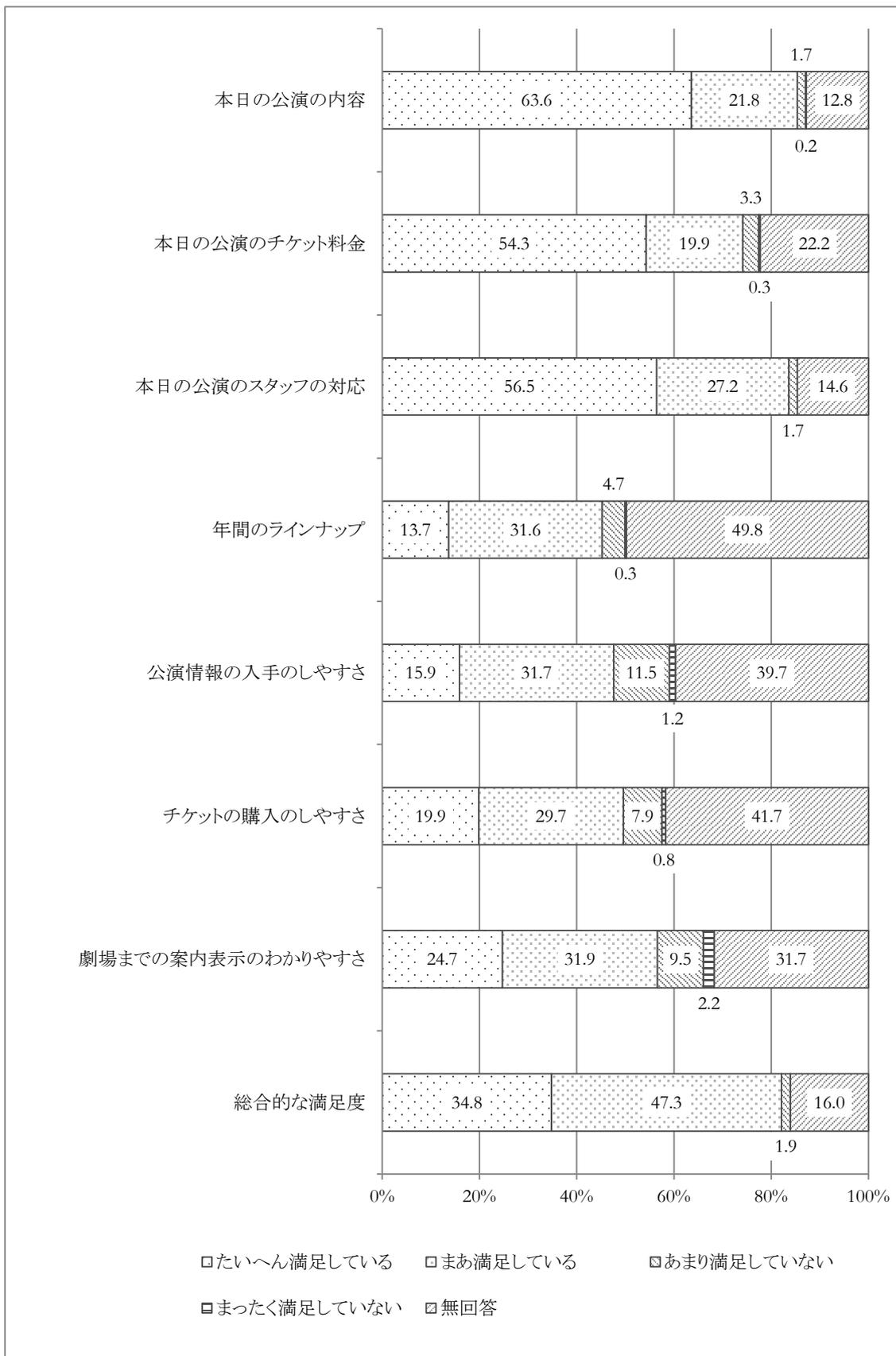
⑦ 劇場までの案内表示のわかりやすさ

- 劇場までの案内表示のわかりやすさについては「たいへん満足している」は24.7%、「まあ満足している」は31.9%で、満足層は56.6%で過半数は満足している。「あまり満足していない」は9.5%、「まったく満足していない」は2.2%で、不満足層は11.7%、「無回答」は31.7%となっている(資-36)。

⑧ 総合的な満足度

- 総合的な満足度について「たいへん満足している」が34.8%、「まあ満足している」が47.3%で、満足層は82.1%となっている。「あまり満足していない」は1.9%、「無回答」は16.0%となっている(資-38)。

図表2-15 自主事業公演に対する満足度



(4) 事業への賛同(図表2-16)

① 劇場独自のプロデュースによる舞台芸術公演の実施

- 「劇場独自のプロデュースによる舞台芸術公演の実施」について「ぜひやってほしい」は46.3%、「まあやってほしい」は25.8%で、賛同者層は72.2%、およそ4人に3人が賛同している。「あまりやる必要はない」は2.2%、「無回答」は25.7%となっている(資-42)。

② 劇団や企画団体による質の高い舞台芸術公演の紹介

- 劇団や企画団体による質の高い舞台芸術公演の紹介について「ぜひやってほしい」は49.8%、「まあやってほしい」が22.7%で、賛同者層は72.5%、およそ4人に3人が賛同している。「あまりやる必要はない」は1.4%、「無回答」は26.1%となっている(資-44)。

③ ワークショップや講座などの舞台芸術の教育、普及活動

- ワークショップや講座などの舞台芸術の教育、普及活動について「ぜひやってほしい」は44.3%、「まあやってほしい」が28.1%で、賛同者層は72.5%、およそ4人に3人が賛同している。「あまりやる必要はない」(2.6%)と「まったくやる必要はない」(0.2%)を合わせた不賛同者層は2.8%、「無回答」は24.7%となっている(資-46)。

④ 区内の文化団体、文化施設、NPO 等と連携した活動

- 区内の文化団体、文化施設、NPO 等と連携した活動について「ぜひやってほしい」は35.0%、「まあやってほしい」が31.7%で、賛同者層は66.7%、およそ3人に2人が賛同している。「あまりやる必要はない」(5.0%)と「まったくやる必要はない」(0.2%)を合わせた不賛同者層は5.1%、「無回答」は28.1%となっている(資-48)。

(5) 鑑賞活動

① 演劇やコンサートに出掛ける頻度

- 日頃、演劇やコンサートに出かける頻度は「年に3~4回程度」が17.3%、「年に1~2回程度」が17.0%、「月に3回以上」が月に3回以上という順になっている。「今日が初めて」(4.0%)から「年に5~10回程度」までの割合の計は52.7%で、年に10回程度までの頻度が過半数とはっている。「月に1回程度」よりも多い頻度の計は36.2%となっている(資-52)。

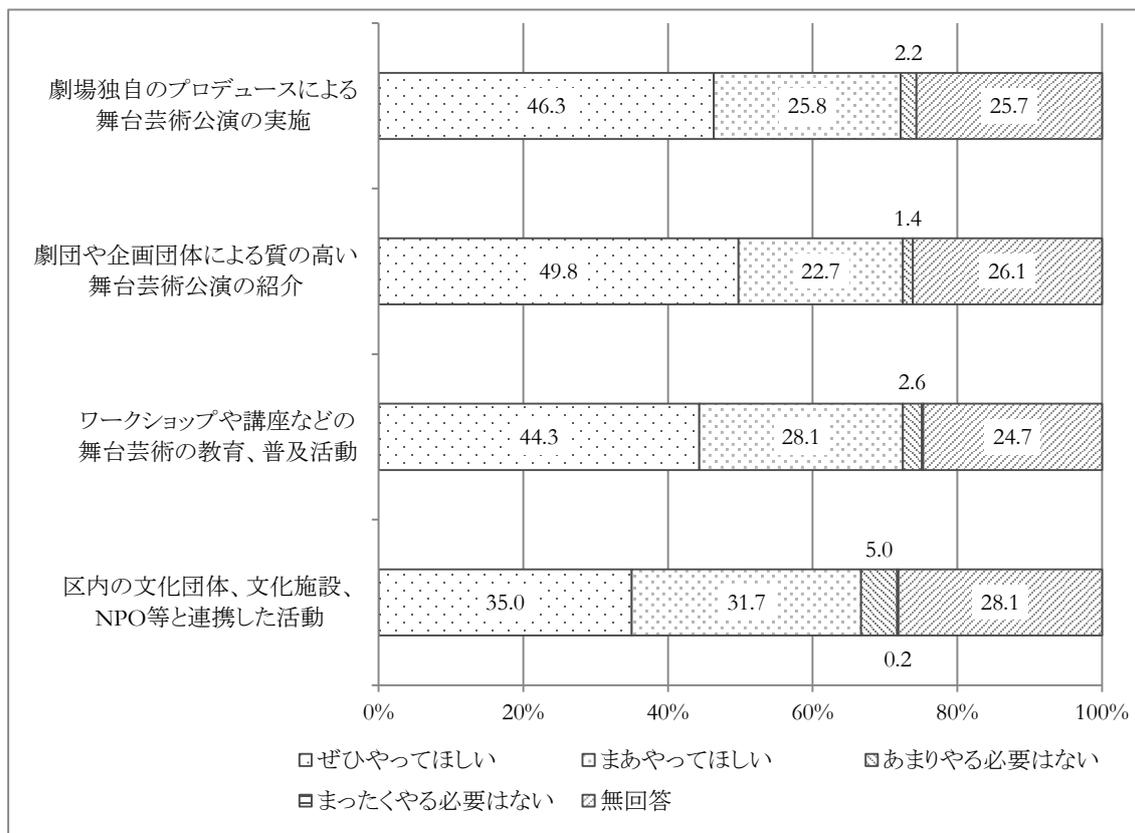
② あうるすぽっとでの鑑賞経験

- 今までのあうるすぽっとでの鑑賞経験は「今日が初めて」が44.9%で半数に近い割合となっている。次いで「2~5回」が34.5%、「6~10回」が7.8%、「11回以上」が3.3%となっている(資-54)。

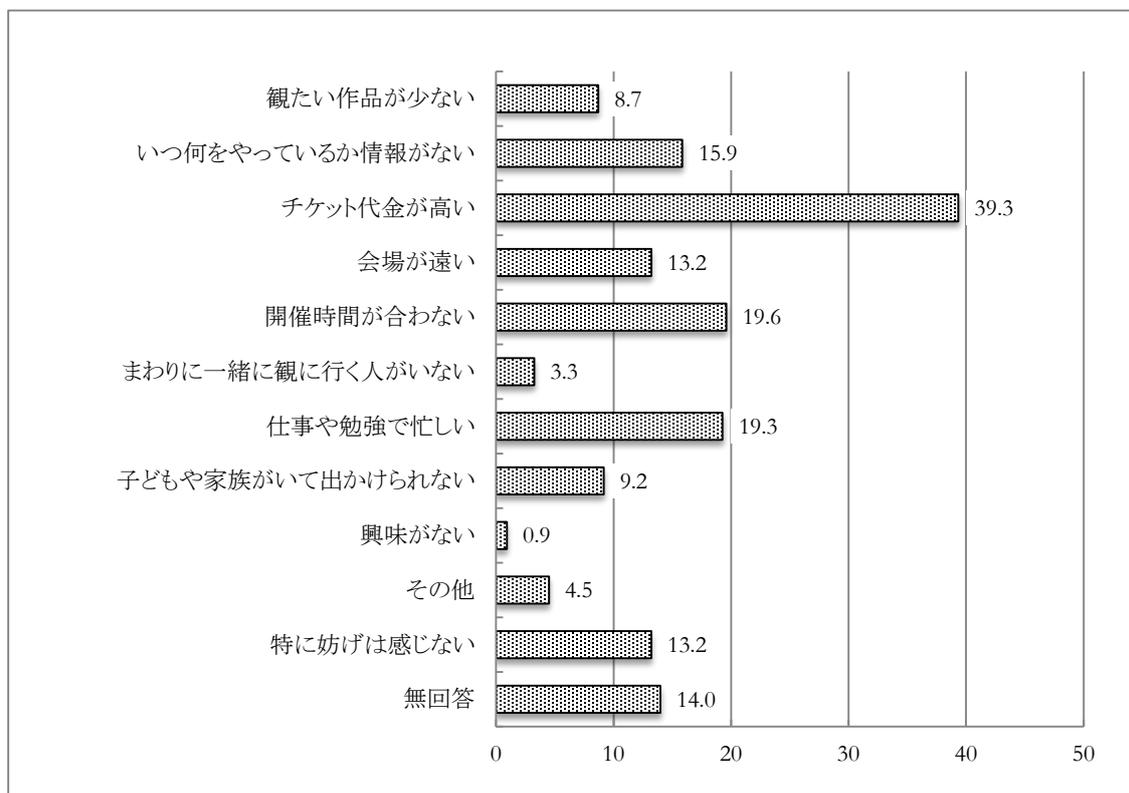
③ 鑑賞を妨げる要因(図表2-17)

- 演劇やコンサートなどの鑑賞を妨げる要因について伺ったところ、「チケット代金が高い」が39.3%で最も高い割合となっている、次いで「開催時間が合わない」(19.6%)、「仕事や勉強で忙しい」(19.3%)、「いつ何をやっているか情報がない」(15.9%)、「会場が遠い」(13.2%)、「特に妨げは感じない」(13.2%)となっている(資-56)。

図表2-16 事業への賛同



図表2-17 鑑賞を妨げる要因



4. ワークショップ参加者アンケートの結果概要

(1) 基本属性

① 性別(図表2-18)

- 公演アンケートの回答者を性別で見ると、「男性」が23.3%でおよそ4人に1人、「女性」が69.0%でおよそ3人に2人の割合となっている(資-64)。

② 年齢(図表2-19)

- 回答者の年齢は、「30歳代」が27.6%で最も多く、次いで「40歳代」が20.0%、「18歳～29歳」が18.1%となっている。「18歳～29歳」、「30歳代」、「40歳以上」の合計は、65.7%で、およそ3人に2人の割合となっている(資-66)。

③ 居住エリア

- 居住エリアは、「豊島区の隣接区(新宿区、文京区、中野区、北区、板橋区、練馬区)」が22.4%、「選択肢1、2(豊島区、新宿区、文京区、中野区、北区、板橋区、練馬区)以外の23区内」およそが17.6%、「豊島区内」が16.2%となっている(資-68)。
- 豊島区内と豊島区の隣接区を合わせた割合は38.6%、23区内全体で56.2%と過半数となっている。東京都内の合計で66.7%、およそ3人に2人となっており、都外の合計(その他の地域を含む)は24.8%、およそ4人に1人となっている。

(2) 参加理由と参加後の感想

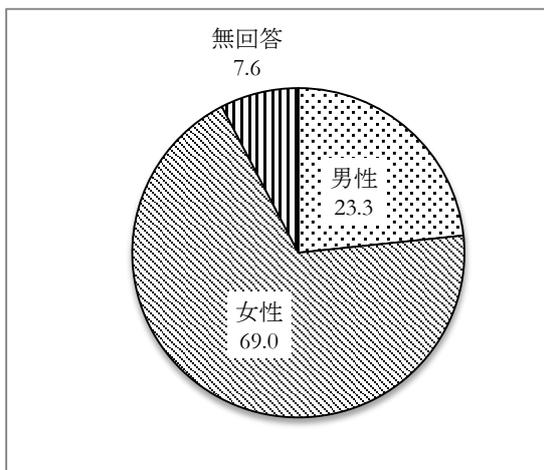
① 参加した理由

- ワークショップや講座に参加した理由は、「企画内容が面白そうだったから」が55.7%で過半数となっている。次いで「ワークショップや講座などの講師が好きだから」が41.0%、「自分の文化活動をより向上させたいと思ったから」が25.7%、「企画目的に共感したから」が24.3%となっている(資-72)。

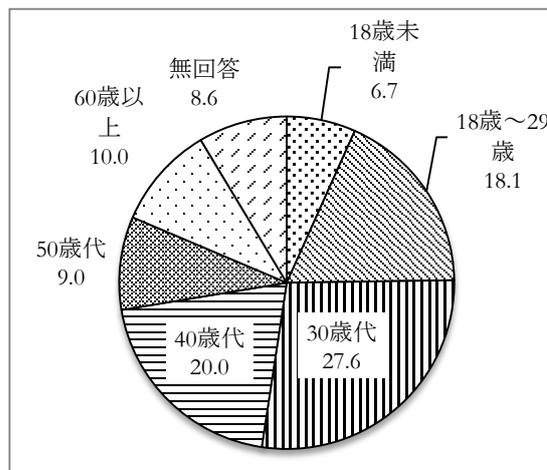
② ワークショップや講座に参加して感じたこと(図表2-20)

- ワークショップや講座に参加して感じたことは、「普段出会えない人に出会えて、刺激を受けたり人間関係に広がりがあったりした」が55.2%と過半数となっている。
- 次いで「文化や芸術への興味が高まり、もっと鑑賞したい、やってみたい、上手くなりたいと思った」が49.0%、「あうるすぽっとが以前よりも身近な存在になり、ホームページを見たり来館したりする回数が増えた」が36.2%、「文化や芸術が以前より身近になり、生活の中で触れる機会が増えた」が25.2%、「文化や芸術と深く触れ合ったことで、人生に対する考え方、物事の見方、価値観が変わった」が24.3%、「文化や芸術は、教育や福祉、コミュニティづくりなどとも関わりが深いことがわかった」が19.0%となっている(資-74)。

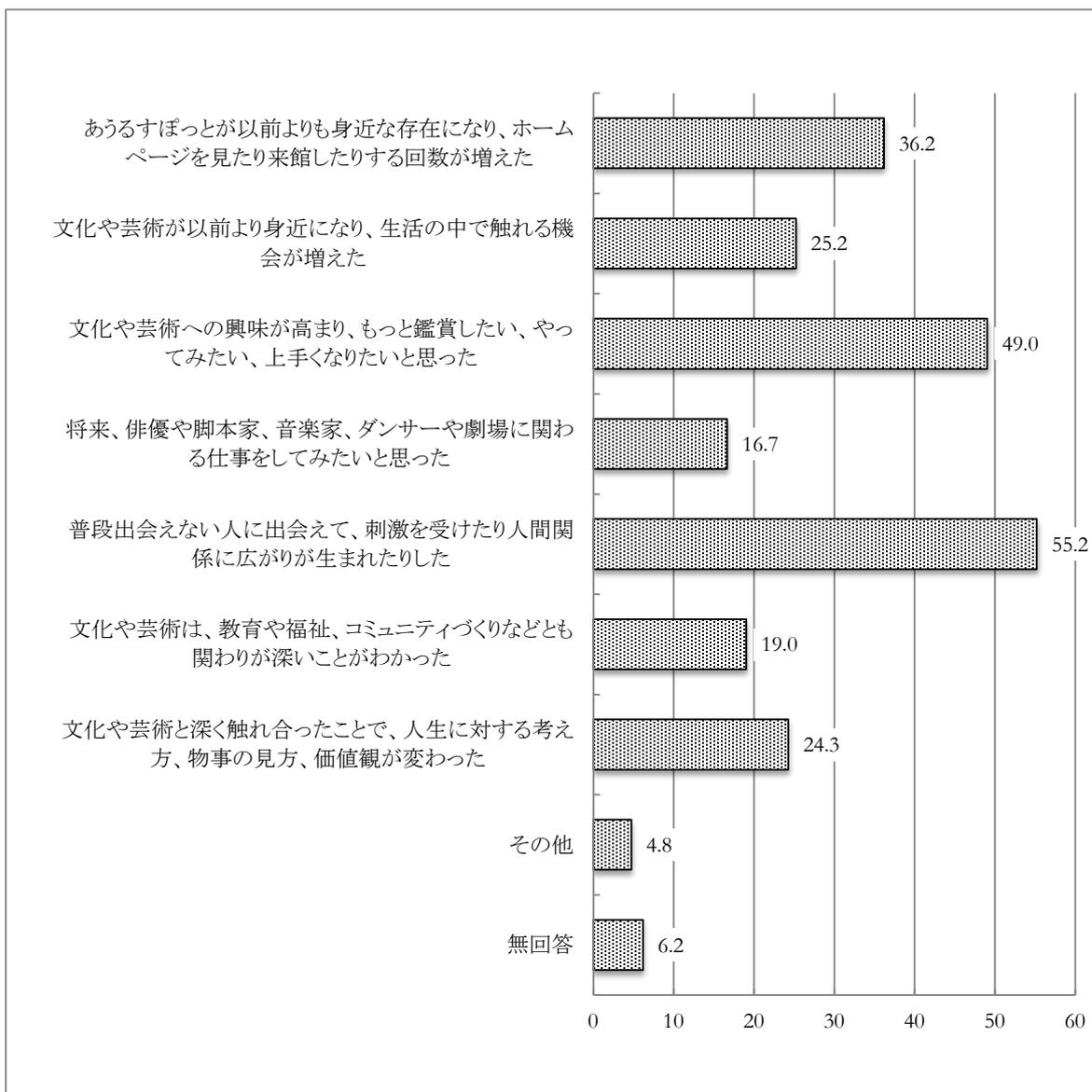
図表2-18 性別



図表2-19 年齢



図表2-20 ワークショップや講座に参加して感じたこと



(3) ワークショップや講座に対する満足度(図表2-21)

① 参加した企画の満足度

- 参加した企画の満足度について、「たいへん満足している」回答者は67.6%と、およそ3人に2人が積極的な満足感を示している。次いで「まあ満足している」は6.7%、「あまり満足していない」は0.5%となっている。「たいへん満足している」と「まあ満足している」を合わせた満足層の割合は74.3%、「無回答」は25.2%となっている(資-78)。

② ワークショップや講座の講師、アーティスト

- ワークショップや講座の講師、アーティストについて「たいへん満足している」は87.6%、「まあ満足している」は7.1%で、満足層は94.8%、ほぼ全員がワークショップや講座の講師やアーティストに対して満足している。「あまり満足していない」は1.0%、「無回答」は4.3%となっている(資-80)。

③ ワークショップや講座の内容

- ワークショップや講座の内容について「たいへん満足している」は77.1%、「まあ満足している」は17.1%で、満足層は94.3%、ほぼ全員がワークショップや講座の内容を満足している。「あまり満足していない」は1.4%で、「無回答」は4.3%となっている(資-82)。

④ ワークショップや講座の会場

- ワークショップや講座の会場については「たいへん満足している」は77.6%、「まあ満足している」は16.2%で、満足層は93.8%、ほぼ全員がワークショップや講座の会場を満足している。「あまり満足していない」は1.4%で、「無回答」は4.8%となっている(資-84)。

⑤ ワークショップや講座の進め方

- ワークショップや講座の進め方については「たいへん満足している」は67.6%、「まあ満足している」は24.8%で、満足層は92.4%、ほぼ全員がワークショップや講座の進め方を満足している。「あまり満足していない」は1.9%で、「無回答」は5.7%となっている(資-86)。

⑥ 参加者とアーティストや講師との交流

- ワークショップや講座の会場については「たいへん満足している」は66.3%、「まあ満足している」は26.7%で、満足層は90.0%、10人中9人が参加者とアーティストや講師との交流に満足している。「あまり満足していない」は3.3%で、「無回答」は6.7%となっている(資-88)。

⑦ 参加者同士の交流

- 参加者同士の交流については「たいへん満足している」は50.0%、「まあ満足している」は38.6%で、満足層は88.6%とおおよそ10人中9人は満足している。「あまり満足していない」は5.7%、「無回答」は5.7%となっている(資-90)。

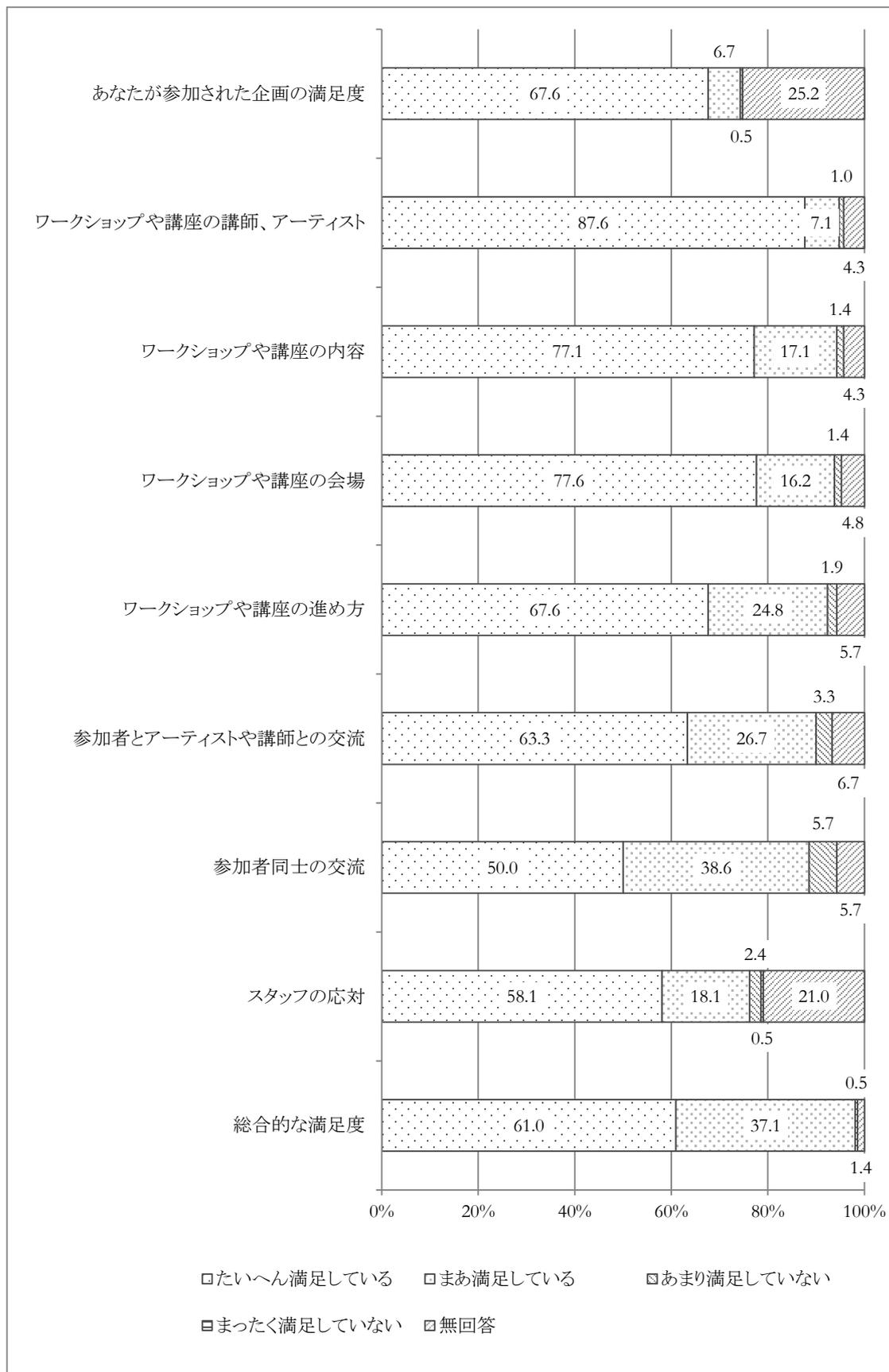
⑧ スタッフの応対

- スタッフの応対については「たいへん満足している」は58.1%、「まあ満足している」は18.1%で、満足層は76.2%、およそ4人に3人がスタッフの応対に満足している。「あまり満足していない」は2.4%、「まったく満足していない」は0.5%で、「無回答」は21.0%となっている(資-92)。

⑨ 総合的な満足度

- 総合的な満足度について「たいへん満足している」が61.0%、「まあ満足している」が37.1%で、満足層は98.1%と、ほぼ全員が総合的に見て満足している。「まったく満足していない」は0.5%、「無回答」は1.4%となっている(資-94)。

図表2-21 ワークショップや講座に対する満足度



(4) 事業への賛同(図表2-22)

① 劇場独自のプロデュースによる舞台芸術公演の実施

- 「劇場独自のプロデュースによる舞台芸術公演の実施」について「ぜひやってほしい」は57.6%、「まあやってほしい」は28.6%で、賛同者層は86.2%、およそ5人に4人は賛同している。「あまりやる必要はない」は1.9%、「無回答」は11.9%となっている(資-98)。

② 劇団や企画団体による質の高い舞台芸術公演の紹介

- 劇団や企画団体による質の高い舞台芸術公演の紹介について「ぜひやってほしい」は58.6%、「まあやってほしい」が27.6%で、賛同者層は86.2%、およそ5人に4人が賛同している。「無回答」は13.8%となっている(資-100)。

③ ワークショップや講座などの舞台芸術の教育、普及活動

- ワークショップや講座などの舞台芸術の教育、普及活動について「ぜひやってほしい」は79.5%、「まあやってほしい」が15.2%で、賛同者層は94.8%、ほぼ全員が賛同している。「あまりやる必要はない」は0.5%、「無回答」は4.8%となっている(資-102)。

④ 区内の文化団体、文化施設、NPO等と連携した活動

- 区内の文化団体、文化施設、NPO等と連携した活動について「ぜひやってほしい」は39.0%、「まあやってほしい」が41.7%で、賛同者層は80.5%、およそ5人に4人が賛同している。「あまりやる必要はない」は1.0%、「無回答」は18.6%となっている(資-104)。

(5) 日頃の鑑賞活動

① 演劇やコンサートに出掛ける頻度

- 日頃、演劇やコンサートに出かける頻度は「年に5～10回程度」が20.0%、「年に3～4回程度」が16.2%、「月に2回以上」が15.2%という順になっている。「今日が初めて」(3.8%)から「年に5～10回程度」までの割合の計は52.9%で、年に10回程度までの頻度が過半数とはっている。「月に1回程度」よりも多い頻度の計は40.5%となっている(資-108)。

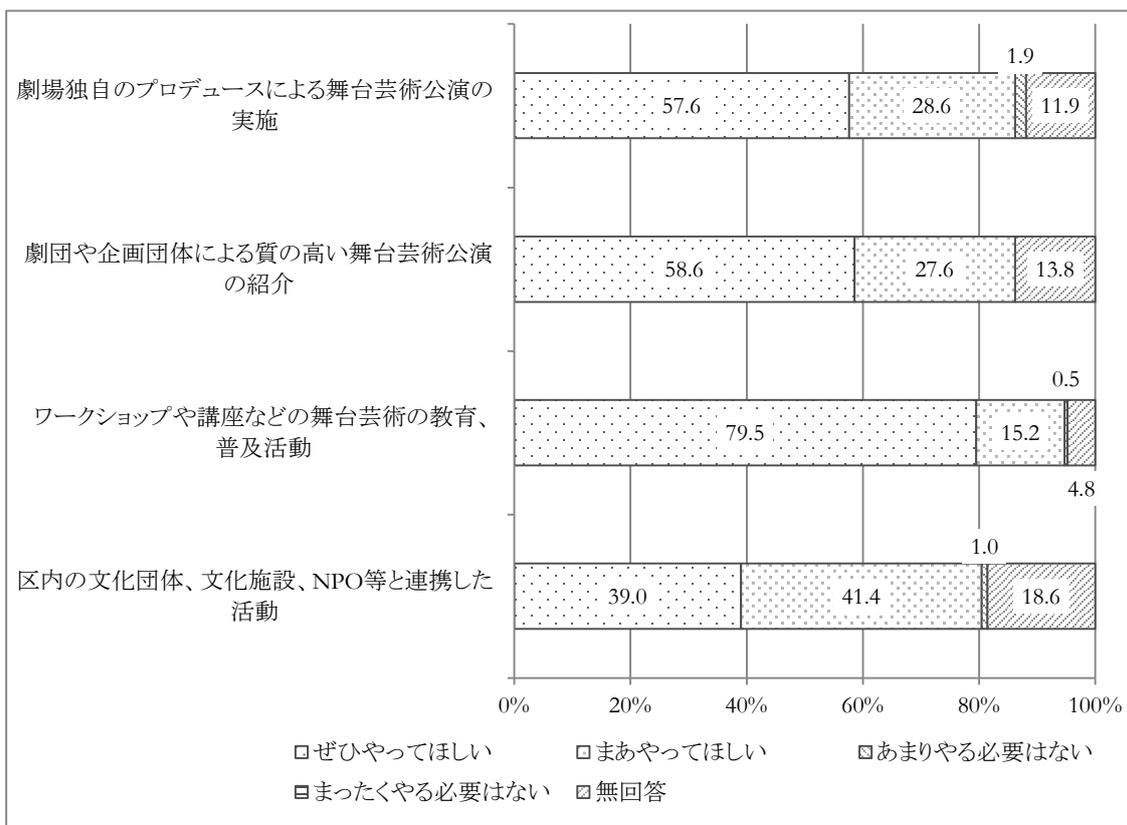
② あうるすぽっとでの鑑賞経験

- 今までのあうるすぽっとでの鑑賞経験は、最も多いのは「2～5回」で46.7%で、次いで「今日が初めて」が32.9%でおよそ3人に1人の割合となっており、「6～10回」が4.8%、「11回以上」が2.4%となっている(資-110)。

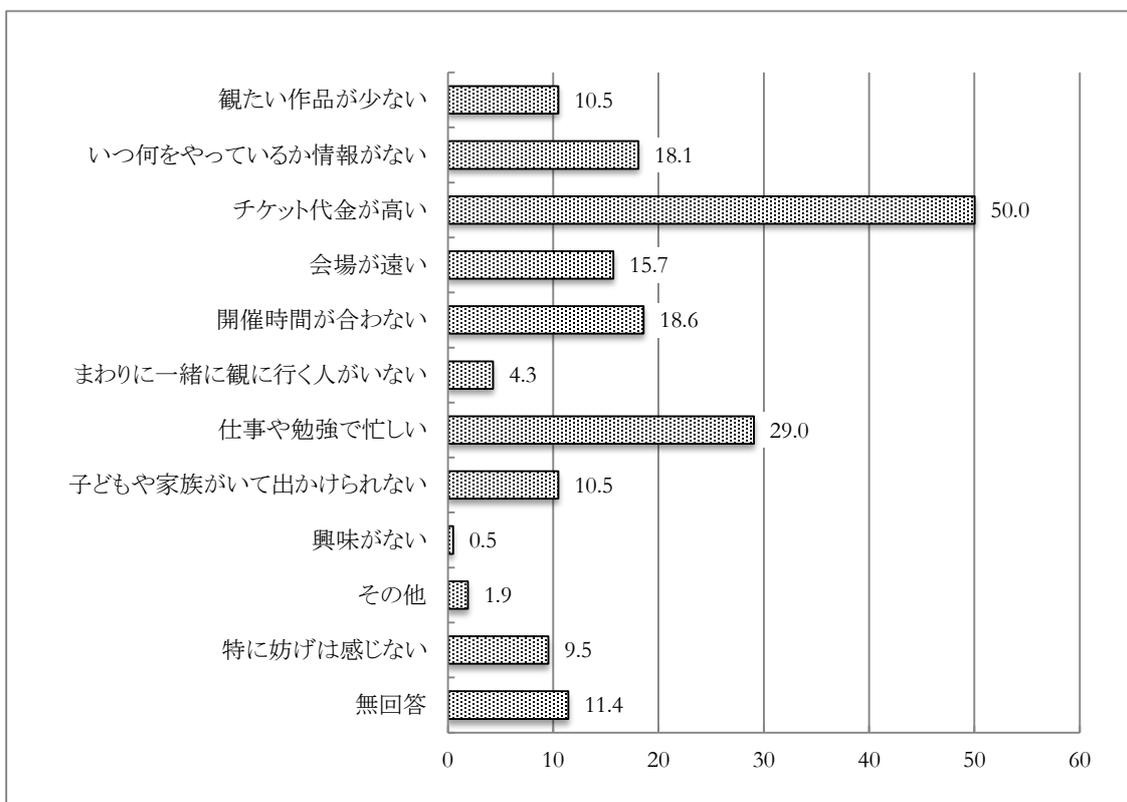
③ 鑑賞を妨げる要因(図表2-23)

- 演劇やコンサートなどの鑑賞を妨げる要因について伺ったところ、「チケット代金が高い」が50.0%で最も高い割合となっている、次いで「仕事や勉強で忙しい」(29.0%)、「仕事や勉強で忙しい」(19.3%)、「開催時間が合わない」(18.6%)、「いつ何をやっているか情報がない」(18.1%)、「会場が遠い」(15.7%)となっている(資-112)。

図表2-22 事業への賛同



図表2-23 鑑賞を妨げる要因



5. 劇場利用者アンケートの結果概要

(1) 基本属性

① 利用団体の所在地(図表2-24)

- 回答者の所在地は、38.9%(14件)が「豊島区内」の団体で、次いで「豊島区の隣接区(新宿区、文京区、中野区、北区、板橋区、練馬区)」が25.0%(9件)となっており、豊島区内と隣接区内の回答者が63.9%でおよそ3分の2の割合となっている(資-120)。

② 劇場やホールの利用頻度(図表2-25)

- あうるすぽっと以外の施設も含め、どのくらいの頻度で劇場やホールを利用(公演を含む利用のみ)しているか伺ったところ、「年に2~3回程度」が27.8%(10件)で最も多く、「年に1回程度」が25.0%(9件)で、年に1~3回が52.8%(19件)で過半数となっている(資-121)。

(2) 利用の実績

① あうるすぽっとの劇場の利用回数

- 今までのあうるすぽっとの劇場の利用回数は、「1回」が44.4%(16件)となっている。「2~3回」が30.6%(11件)、「6回以上」が13.9%(5件)、「4~6回」が11.1%(4回)で、2回以上の回答者は55.6%(20件)となっている(資-124)。

② 劇場を利用した活動分野(図表2-26)

- 劇場を利用した活動分野は「演劇」が47.2%(17件)で最も多く、次いで「ダンス、バレエ、舞踊」と「その他」がそれぞれ19.4%(7件)となっている(資-125)。

③ 劇場の利用人数

- 劇場を利用した際の利用人数は、「31~40人」が最も多く25.0%(9件)で、次いで「41~50人」と「51人以上」がともに22.2%(8件)となっている。利用人数が40人以下が55.6%(20件)で、41人以上が44.4%(16件)となっている(資-126)。

④ 劇場の1回の平均利用日数(図表2-27)

- 劇場を利用した際の平均的な利用日数は、「1日」と「6~7日」が最も多く、ともに27.8%(10件)で、次いで「8~14日」が19.4%(7件)となっている。利用日数が5日以下が52.8%(19件)で、6日以上が47.2%(17件)となっている(資-127)。

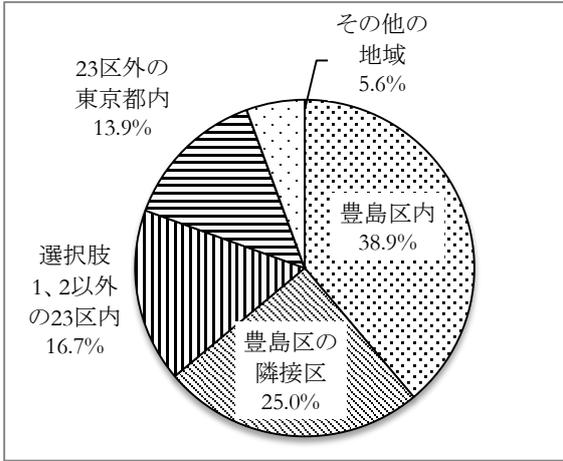
⑤ 利用した主な理由

- あうるすぽっとの劇場を利用した主な理由は「客席数や客席空間の規模が適切だから」が最も多く、77.8%(28件)となっている。次いで「交通の利便性が高いから」が66.7%(24件)、「舞台の広さや形状が利用内容に適しているから」が63.9%(23件)、「利用料金が安いから」が55.6%(20件)となっている(資-128)。

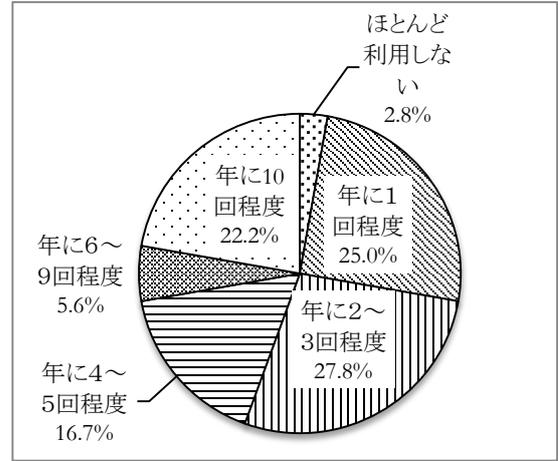
⑥ 劇場やホールの利用で重視すること(図表2-28)

- あうるすぽっと以外の施設も含め、劇場やホールを利用する場合に最も重視することと二番目に重視することを伺った。最も重視することでは「客席数や客席空間の規模が適切だから」が38.9%(14件)で最も高く、次いで「舞台の広さや形状が利用内容に適しているから」が25.0%(9件)となっている。二番目に重視することは「利用料金が安いから」が22.2%(8件)、「交通の利便性が高いから」と「舞台の広さや形状が利用内容に適しているから」が19.4%(7件)となっている(資-129)。

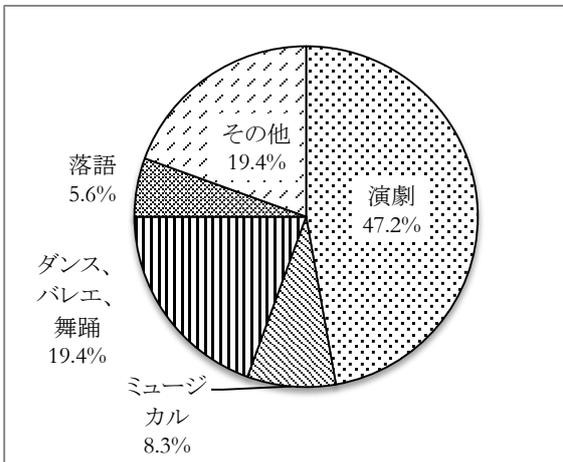
図表2-24 利用団体の所在地



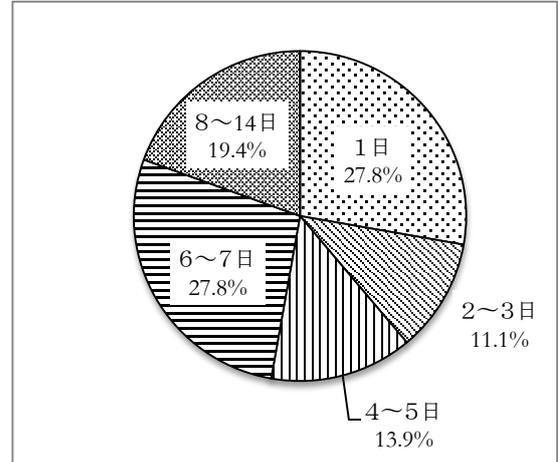
図表2-25 劇場やホールの利用頻度



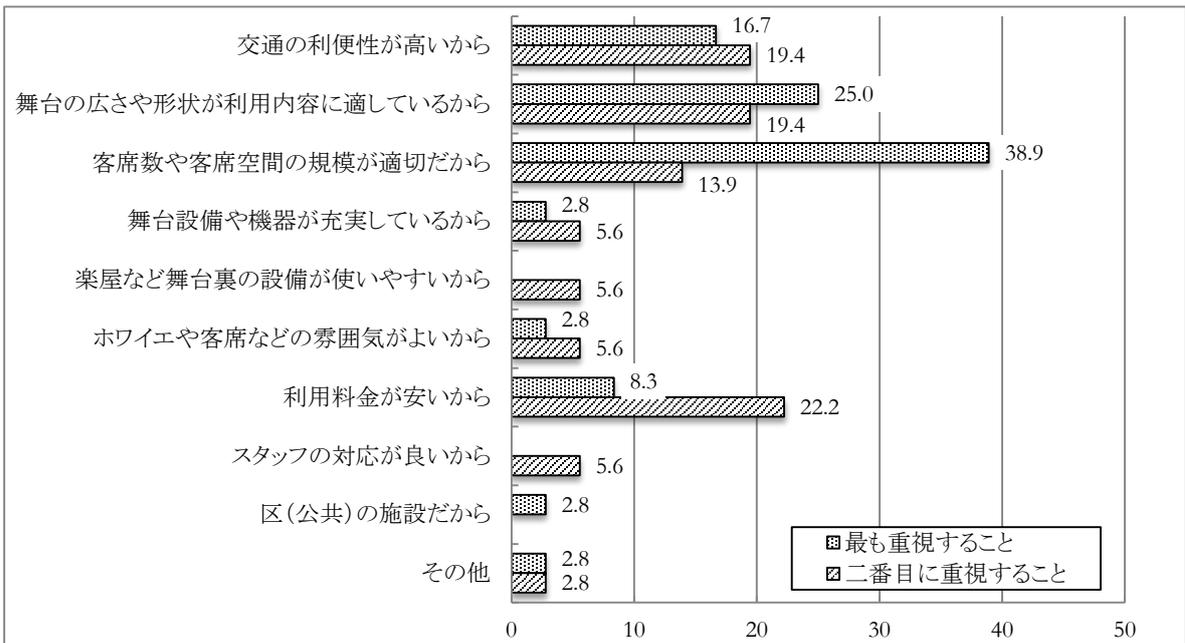
図表2-26 劇場を利用した活動分野



図表2-27 劇場の1回の平均利用日数



図表2-28 劇場やホールの利用で重視すること



(3) 劇場利用の満足度・次回の利用意向

① 劇場利用の満足度(施設関連項目)(図表2-29)

- あうるすぽっとの劇場の施設(ハード)面に関して利用者の満足度を伺ったところ、いずれの項目も満足層は66.7%以上となっている。「館内は清潔に保たれていましたか」では「はい」という積極的な回答が100.0%(36件)で満足の度合いが最も高い。一方、「搬入・搬出はやりやすかったですか」は「はい」が41.7%(15件)、「どちらかといえば、はい」が25.0%(9件)で、「案内表示はわかりやすかったですか」は「はい」が27.8%(10件)、「どちらかといえば、はい」が44.4%(16件)で、満足の度合いが相対的に低い(資-132)。

② 劇場利用の満足度(運営関連項目)(図表2-30)

- あうるすぽっとの劇場の運営(ソフト)面に関して利用者の満足度を伺ったところ、いずれの項目も満足層は94.4%以上となっている。「事前の打ち合わせは円滑でしたか」では「はい」という積極的な回答が83.3%(30件)で満足の度合いが高い。一方、「苦情や要望への対応は適切でしたか」は「はい」が66.7%(24件)、「どちらかといえば、はい」が27.8%(10件)で、満足の度合いが相対的に低い(資-133)。

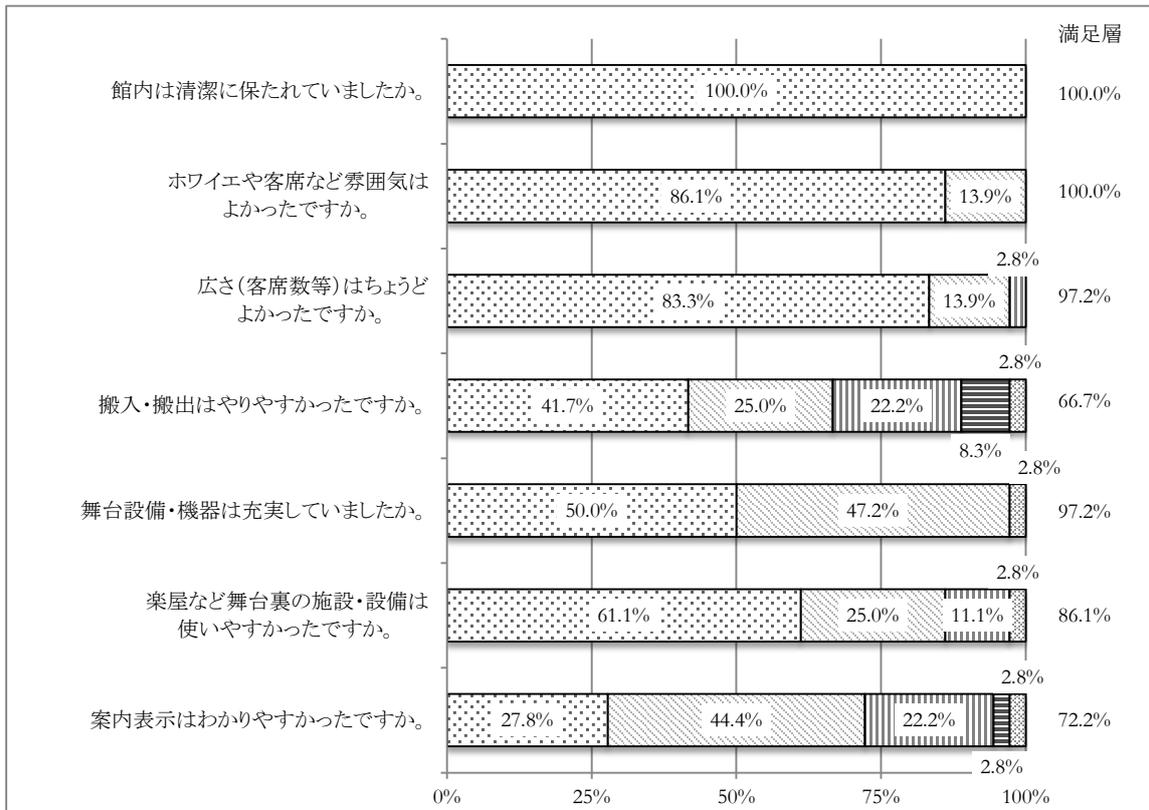
③ 総合的な満足度

- 総合的にみたあうるすぽっとの劇場に対する利用者の意見は、「たいへん満足している」が52.8%(19件)、「まあ満足している」が41.7%(15件)で、それらを合わせた94.4%(34件)が満足層となっている。「あまり満足していない」は5.6%(2件)で、「まったく満足していない」の回答はない(資-134)。

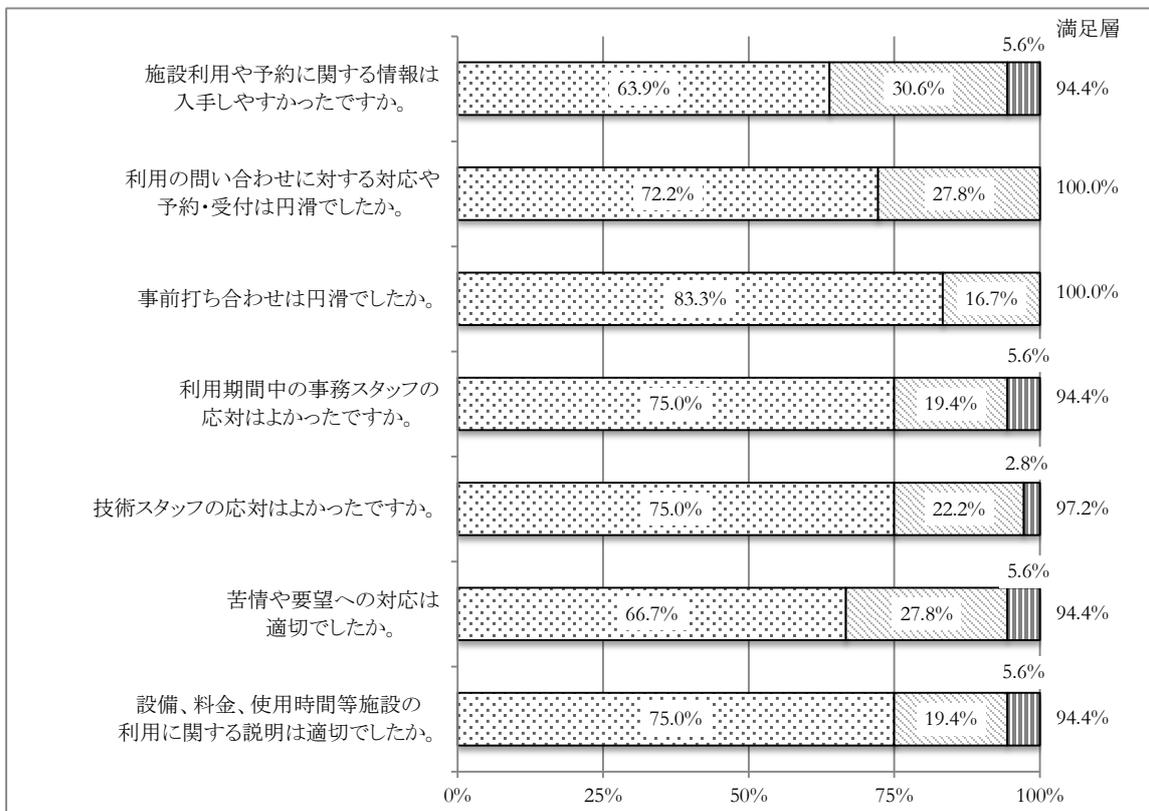
④ 次回の利用意向

- 次回利用する機会がある場合に、再びあうるすぽっとの劇場を利用する意向を伺ったところ「はい」が80.6%(29件)、「どちらかといえば、はい」が16.7%(6件)で、97.2%(35件)は機会があればあうるすぽっとの劇場を利用する意向がある。「どちらかといえば、いいえ」は2.8%(1件)で、「いいえ」の回答はない(資-135)。

図表2-29 劇場利用の満足度(施設関連項目)



図表2-30 劇場利用の満足度(運営関連項目)



6. 会議室利用者アンケートの結果概要

(1) 基本属性

① 利用団体の所在地(図表2-31)

- 会議室の利用者アンケートの回答者の所在地は、56.0%(14件)が「豊島区内」の団体で過半数となっている。次いで「豊島区の隣接区(新宿区、文京区、中野区、北区、板橋区、練馬区)」が16.0%(4件)、「選択肢1、2(豊島区と隣接区)以外の23区内」が8.0%(2件)となっており、23区内の計が80.0%(20件)、5団体のうち4団体が23区内の利用者となっている。「23区外の東京都内」と「選択肢5、6(さいたま市、川口市、蕨市、戸田市、和光市、朝霞市、志木市)以外の埼玉県」がそれぞれ4.0%(1件)となっている(資-142)。

② 会議室の利用頻度(図表2-32)

- あうるすぽっとの会議室利用者が、あうるすぽっと以外の施設も含め、どのくらいの頻度で会議室を利用しているか伺ったところ、「月に3回以上」が20.0%(5件)で最も多く、「月に1回程度」が16.0%(4件)、「月に2回程度」、「年に6～9回程度」、「年に4～5回程度」、「ほとんど利用しない」がそれぞれ12.0%(3件)となっている。「月に1回程度」以下の利用頻度が56.0%(14件)で過半数となっている(資-143)。

(2) 利用の実績

① あうるすぽっとの会議室の利用回数

- 今までのあうるすぽっとの会議室の利用回数は、「10回以上」が48.0%(12件)で、「1回」から「6～9回」までを合わせた9回以下の回答者は44.0%(11件)となっている(資-146)。

② 利用した会議室のタイプ(図表2-33)

- 利用したことのある会議室のタイプは「会議室A」が68.0%(17件)、「会議室B(単独利用)」が48.0%(12件)、「会議室B(分割利用)」が40.0%(10件)となっている(資-147)。

③ 会議室を利用した活動分野(図表2-34)

- 会議室を利用した活動分野は「講演会、セミナー」が64.0%(16件)で最も多く、「会議」が36.0%(9件)、「サークル活動・同好会」と「その他」が8.0%(2件)となっている(資-148)。

④ 会議室の利用人数

- 会議室を利用した際の利用人数は、「51～100人」が最も多く28.0%(7件)で、次いで「21～30人」が20.0%(5件)、「11～20人」が16.0%(4件)となっている。利用人数が30人以下が48.0%(12件)、31人以上が52.0%(13件)となっている(資-149)。

⑤ 利用した主な理由

- あうるすぽっとの会議室を利用した主な理由は「交通の利便性が高いから」が最も多く、84.0%(21件)となっている。次いで「室内の広さが適切だから」が72.0%(18件)、「利用料金が安いから」が52.0%(13件)となっている(資-150)。

⑥ 会議室の利用で重視すること(図表2-35)

- あうるすぽっと以外の施設も含め、会議室を利用する場合に最も重視することと二番目に重視することを伺った。最も重視すること、二番目に重視することの両方で「交通の利便性が高いから」の割合が高く、最も重視する回答者は36.0%(9件)、二番目に重視する回答者は32.0%(8件)となっている。次いで「利用料金が安いから」、「室内の雰囲気が良いから」の順となっている(資-151)。

図表2-31 利用団体の所在地

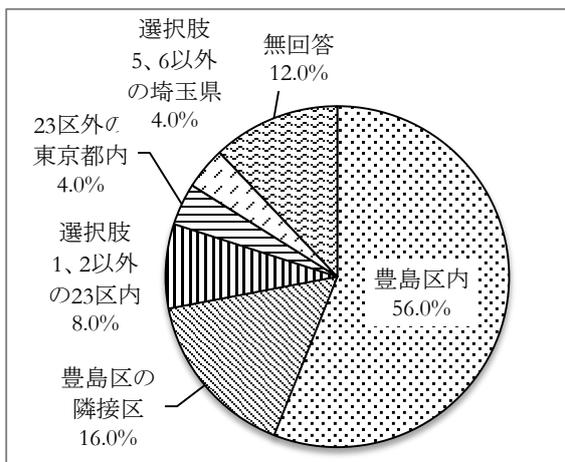
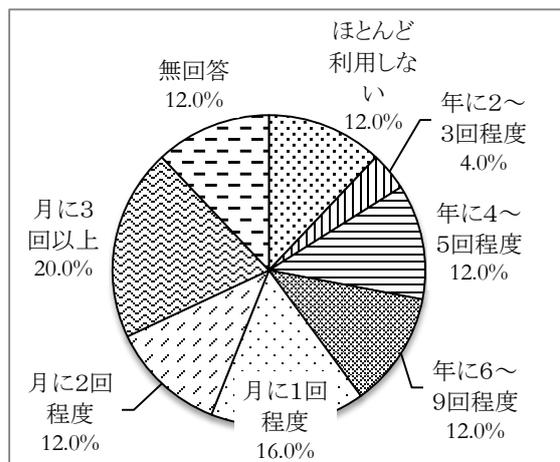
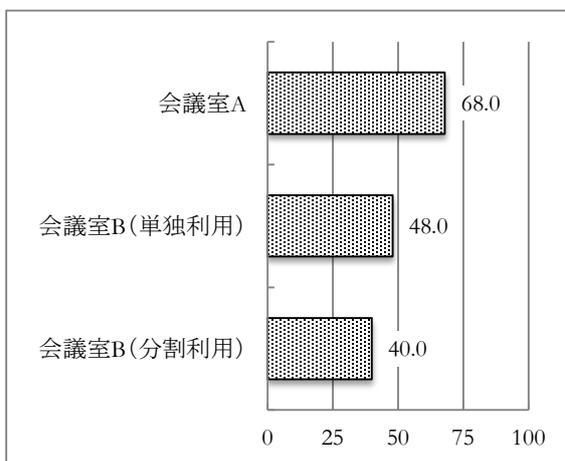


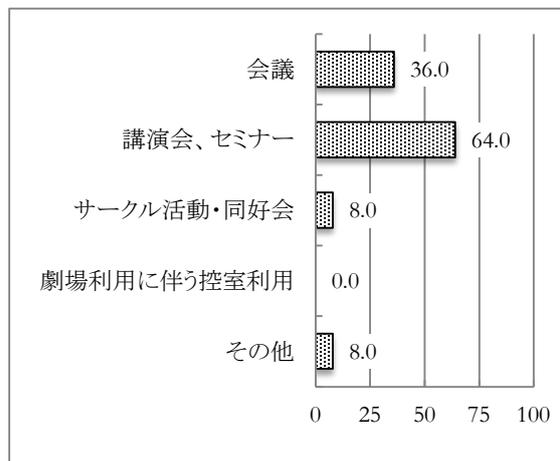
表2-32 会議室の利用頻度



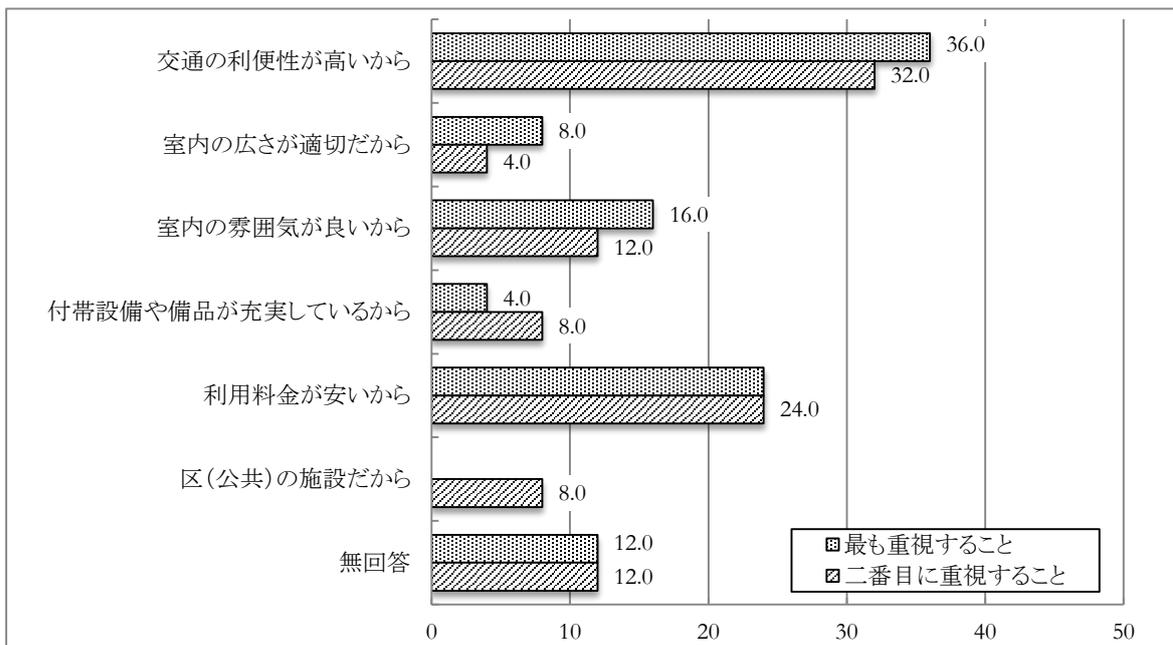
図表2-33 利用した会議室のタイプ



図表2-34 会議室を利用した活動分野



図表2-35 会議室の利用で重視すること



(3) 会議室利用の満足度・次回の利用意向

① 会議室利用の満足度(施設関連項目)(図表2-36)

- あうるすぽっとの会議室の施設(ハード)面に関して利用者の満足度を伺ったところ、いずれの項目も満足層は88.0%以上となっている。「館内は清潔に保たれていましたか」では「はい」という積極的な回答が88.0%(22件)で満足の度合いが最も高い。一方、「来場者に向けた案内表示はわかりやすかったですか」は「はい」が56.0%(14件)、「どちらかといえば、はい」が32.0%(8件)で、満足の度合いが相対的に低い(資-154)。

② 会議室利用の満足度(運営関連項目)(図表2-37)

- あうるすぽっとの会議室の運営(ソフト)面に関して利用者の満足度を伺ったところ、いずれの項目も満足層は84.0%以上となっている。「利用の問い合わせに対する予約・受付は円滑でしたか」と「設備、料金、使用時間等利用に関する説明は適切でしたか」では「はい」という積極的な回答が84.0%(21件)で満足の度合いが高い。一方、「施設利用や予約に関する情報は入手しやすかったですか」は「はい」が64.0%(16件)、「どちらかといえば、はい」が28.0%(7件)で、満足の度合いが相対的に低い(資-155)。

③ 総合的な満足度

- 総合的にみたあうるすぽっとの会議室に対する利用者の意見は、「たいへん満足している」が52.0%(13件)、「まあ満足している」が36.0%(9件)で、それらを合わせた88.0%(22件)が満足層となっている。「あまり満足していない」と「まったく満足していない」の回答はなく、「無回答」が12.0%(3件)となっている(資-156)。

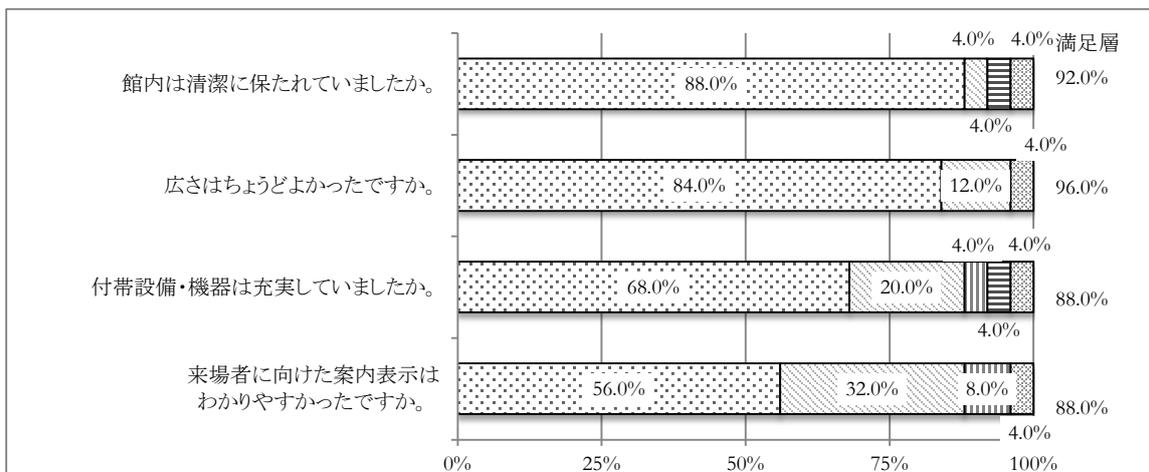
④ 次回の利用意向

- 次回利用する機会がある場合に、再びあうるすぽっとの会議室を利用する意向を伺ったところ「はい」が72.0%(18件)、「どちらかといえば、はい」が16.0%(4件)で、88.0%(22件)は機会があればあうるすぽっとの会議室を利用する意向がある。「どちらかといえば、いいえ」と「いいえ」の回答はなく、「無回答」が12.0%(3件)となっている(資-157)。

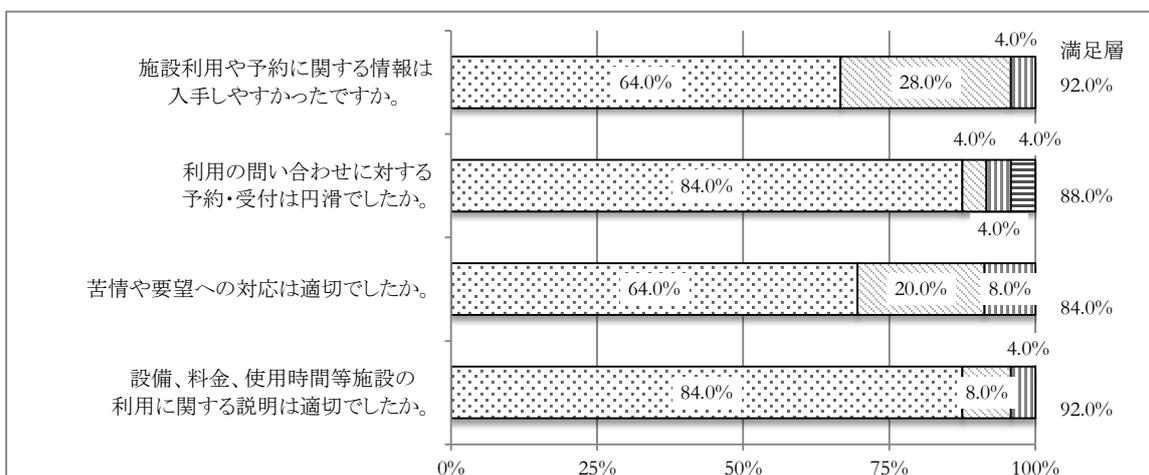
⑤ 会議室の利用にあたって改善すべきだと感じた点(図表2-38)

- あうるすぽっとの会議室を利用するにあたり、今後改善すべきだと感じた点について、最も重視することと二番目に重視することを伺った。最も重視すること、二番目に重視することの両方で「無回答」の割合が高かったが、最も重視することは「利用時の柔軟な対応」の割合が24.0%(6件)、次いで「インターネット活用」が16.0%(4件)となっている。二番目に重視する回答では「利用申し込み対応」が16.0%(4件)、「インターネット活用」と「付帯設備や備品の充実」がそれぞれ12.0%(3件)となっている(資-158)。

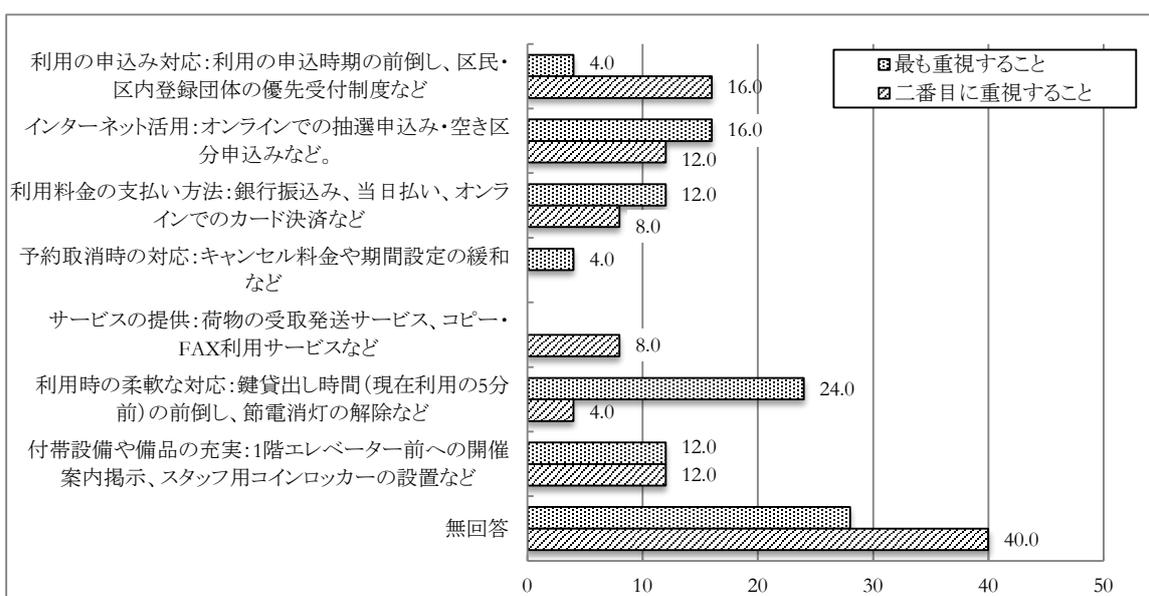
図表2-36 会議室利用の満足度(施設関連項目)



図表2-37 会議室利用の満足度(運営関連項目)



図表2-38 会議室の利用にあたって改善すべきだと感じた点



Ⅲ グループインタビュー

1. グループインタビューの概要

グループインタビュー調査では、あうるすぽっとの様々なステークホルダーに対して、これまでの事業内容や管理運営に対する評価や、今後の事業展開の方向性、期待される効果などについてご意見を伺った。具体的には、

- 区内文化施設(公立劇場、民間劇場、アートNPO)
- 文化・芸術団体(アートNPO、演劇制作、劇団、海外文化機関、地域演劇祭)
- まちづくり関係者(生涯学習施設、大学芸術学部)

を対象とし、3回のグループインタビューで12名の出席があった。インタビューの項目は、

- あうるすぽっとの事業内容について
- あうるすぽっとの管理運営について
- 現在のあうるすぽっとの位置づけや役割
- あうるすぽっととの連携の可能性
- あうるすぽっとに今後期待すること

以上についてグループごとにご意見を伺った。ここでは、主要な意見を抽出し、あうるすぽっとのこれまでの成果と課題を整理し、今後の役割や長期的なビジョンの検討素材とする。

2. グループインタビューの集約結果

(1) あうるすぽっとの事業内容について

あうるすぽっとの事業が、主催事業、共催事業、教育普及事業などのバランスが取れていることを、多くの人が高く評価している。また、近年は公演系事業のジャンルが多様化するとともに、教育普及事業では、子ども、高齢者、障害者など、参加対象者が広がっていることも、関心を集めている。一方で、豊島区民に対して、あうるすぽっとの劇場としての認知度がまだ低いという見方や、より一層のPRが求められるといった課題も挙げられた。

【グループインタビューの主な意見から】

- あうるすぽっとを使用した劇団の声を聞くと、東京芸術劇場も含めて、池袋というまちが、豊島区の目指す「文化芸術創造都市」という役割が明確になっていると感じている。(区内民間劇場)
- 非常にバランスが取れている。自主事業だけではなく、教育普及事業や共催事業も上手くやっていて、あまり自主事業の本数は多くないが「自主事業をやっているな」というカラーが出ていて、上手くやっているなど思う。(区内公立劇場)
- 限られた予算の中で非常にいい企画を提案されている印象がある。簡単に言うとすごくバランスのいいラインナップをしていると思うが、悪い面ではメッセージ性が弱くなるということがある。(アートNPO)
- 演劇公演以外に区民の皆さんと一緒にやっているワークショップと公演を組み合わせた企画が面白い。演劇の観客層は確実に減っていると思うので、それを掘り起こしたり新しい見方を見せたりするような企画が、あうるすぽっとならではの形だと思う。(演劇制作)
- 教育普及事業に関しては、子どもから大人向けまでいろいろなジャンルをやっている。障害のある子ども達向けのワークショップや、大塚ろう学校の生徒との活動を見ていると、「こうい

うことをやる劇場が出てきたんだ」という印象で興味を持って見ている。(アートNPO)

- 従来、あうるすぽっとは演劇のイメージが強かったが、ここ1～2年ぐらいダンスにも力を入れている印象があり、表現のバリエーションが増えつつあるような印象がある。(海外文化機関)
- 建物が複合ビルなので近寄りやすいイメージはあったが、もう少し努力されて、こう言うことをやっていることを区民の方に発信してアピールして行くことが必要だと思う。(劇団)
- 正直なところ、最初、あうるすぽっとで公演を始めた時は、みんなから「こんなに地下鉄からすぐなのにわからない」と言われる方が多かった。最近は随分認知されてきたとは思いますが、「ああ、あうるすぽっとはあそこね、いつもいいものを行っているよね」と言われるようになってほしい。(演劇制作)
- どの劇場にも色があるので、劇場の固定客がいるという印象がある。そういう意味では、あうるすぽっとは演目ごとに集客していることが、弱い部分ではないかと感じた。ここ数年、フェスティバル/トーキョーの影響で、豊島区が「演劇のまち」というイメージが東京都民にはついてきた気はするが、より強くなれば、あうるすぽっとの在り方も変わってくるのではないかと。(海外文化機関)
- 劇場としてのPRが欲しい。全国区でかなり評判を取っているのに悪くないが、あうるすぽっとは意外に地元の人に来ないのではないかと、地元の人にはあまり浸透していないのではないかと、という気がする。(地域演劇祭)

(2) あうるすぽっとの管理運営について

限られた人員体制の中でスタッフが上手く連携することで、効率的、かつ利用者に対して親身な管理運営に努めている点を高く評価する意見が多い。また、劇場が持っている親密な雰囲気や、使い勝手の良さも好評である。ただし、複合施設の中の劇場であるが故の問題に数多くの意見が挙げられており、ビルのエントランスロビーでの表示・案内、開演前と終演後のエレベーターの運行、楽屋数の不足などの面で、利用者の不満が集まりやすいことが分かった。

【グループインタビューの主な意見から】

- 支配人を含めいろいろなメンバーがお代わりになっているのに、そこが上手に継承されているなという印象がある。(アートNPO)
- 劇場の担当スタッフはすごく親身になってやってくださっていると思う。ただ、かなり忙しそうだな、忙しすぎるのかなと思うことは多々ある。(演劇制作)
- 劇場の方と関わっていて思うことだが、セクションが分かれていない組織体だと認識している。にもかかわらず、スタッフの人たちが連携しながら非常に事業の幅を広げていて、それらについても確実に成果が上がっていると思う。(大学)
- 初めてあうるすぽっとに来た時に、ここの全体の暖かさを感じた。制作者として何日間かどうしてもそこに居なければいけないが、制作者用の部屋がロビーエリアにも完備されているし、すごく居心地がよくて自分のうちに帰ってきたような気がする。(演劇制作)
- ホワイエにあるスタッフ用のスペースや、チラシや備品が置いてある奥のスペースも有効に使用して、裏の楽屋もすごく広くて使いやすい。(海外文化機関)
- 退館時間には非常に苦労している。せめて22時30分を退館時間の基本にさせていただけるといいかなと思う。延長料金システムで退館時間を延長できる選択肢も設けていただけるとありがたい。(劇団)
- 運営や対応の面で、インターンの方が何名かいらっしゃるが、もう少し広報の方でインター

ンの方をもっと上手く使って行かれるといいかなという印象は受ける。(海外文化機関)

- 301席の劇場には、楽屋数が少なく、スタッフのいるスペースがなくなって倉庫をスタッフルームにすることがある。改修は無理だとしても、もう1スペースを設けられるといいなという気はする。(劇団)
- 劇場が入っているビルのエントランスロビーが、本当に取り付く島がない。何の施設が入居しているビルなのかもわからないし、図書館があるのか劇場があるのかもわからない。あれだけの空間があるので、何か活かす方法があるのではないか。(地域演劇祭)
- 劇場のホワイエにできればカフェ以外にもソファや椅子が真ん中辺りにあるといい。広々としたホワイエだが、逆にみんながどこに漂っていいのかわからないような状況になっている。(演劇制作)
- ビルのエレベーターは、何かいい運用の手立てをしないと、致命的な問題かもしれない。エレベーターのレギュレーションをもう少し短くするとか、開場から開演までの30分だけエレベーターガールをつけて説明するといった方法はできないか。公演がある時だけでもエレベーターの前に看板を出させてもらうとか、階段を使わせるとか。(区内公立劇場)
- 4階の図書館も利用することがあるが、図書館の利用者も、劇場でエレベーターがいっぱいになることで、相当ストレスになっている。エレベーターは自動制御だが、劇場の開演時には実際に人が操作するようにした方がいい。(アートNPO)
- 2階が劇場で、3階が会議スペースなので、3階でセミナーやイベントが催されている日に、劇場のある2階に間違っ紛れ込んで、ご案内が大変だったことがある。(劇団)

(3) あうるすぽっとの位置づけや役割

あうるすぽっとの位置づけや役割については、インタビュー参加者の活動内容や立場によって、様々な意見が聞かれた。区立の劇場であることを立脚点とすることが強みだという意見の一方で、都心部の池袋エリアを面としてアピールし、首都圏、全国、世界に向けて発信していく潜在力に期待する意見もあった。また、都内の同規模や類似の劇場との比較から、あうるすぽっとには、教育普及事業や地方の劇場とのネットワーク、若い世代の演劇人や観客の育成といった役割に関心が集まった。

【グループインタビューの主な意見から】

- あうるすぽっとの家族向けの公演で、これまで劇場に足を運んだことがないお客様が結構いらして下さっていて、しかも豊島区民割引を利用されている親子がすごく多かった。そうしたことができるのは、やはり区立であるということが大きな強みだと思う。(海外文化機関)
- あうるすぽっとの役割の一つには、区内や都内など、広範囲で様々な文化団体の交流する舵取りみたいな役割を持つことも、あると思う。(地域演劇祭)
- あうるすぽっとは、アウトリーチや区民参加型も大事だと思うが、にしすがも創造舎でもアウトリーチの活動をやっているんで、そこは他の文化施設に任せてもいいのではないかなと思う。(区内生涯学習施設)
- 好立地だから、区民だけではなく、東京都や世界に向けた視点はあった方がいい。(アートNPO)
- 首都圏全体を視野に入れて、質のいい演劇公演や、その他の事業をやって集客し、池袋のイメージを向上させていくための、池袋東口の大きな拠点になると思う。(地域演劇祭)
- 池袋駅の西の東京芸術劇場と、東のあうるすぽっとをアピールすることは、豊島区としてもいいと思う。東京芸術劇場は都立の劇場として、全国区の劇場でもあり、世界規模の劇場

でもある。同様のことが、あうるすぽっとでもサイズは小さいながらもポテンシャルはある。一方で、あうるすぽっとでしかできないことが区との関わりだ。区民の生活と密着した展開について、どれだけ面白いプログラムを出し、かつ発信していけるのかが課題だと思う。(大学)

- 都内での比較対象としては、吉祥寺シアターが同じ規模の劇場なので、両者の違いについて話題にはなる。あうるすぽっとは都心にあるし、吉祥寺シアターは教育普及事業をやっていない。あうるすぽっとは地方の公立劇場のプロデュース作品の受け皿となっている。(区内公立劇場)
- 演劇での観点になるが、吉祥寺シアター、座・高円寺、三鷹市芸術文化センターなど、区や市でしっかり劇場を運営しているところは都内にもある。その中で、あうるすぽっとはとても発信をしているし、他の劇場との提携もしているので、区立の劇場だが自分たちで流れを作れて発信ができていて、とてもいい劇場だと思う。より区民に関わることも大事だと思うが、全国的に見ても面白いケースだと思う。(演劇制作)
- 若い世代を育成する切り口でプログラムを組まれている印象があるので、他の劇場との棲み分けで言うと、若い世代の観客の創客や若い芸術家の育成に特化するのもいい。(劇団)

(4) あうるすぽっととの連携の可能性

あうるすぽっととの連携の可能性のある外部の機関について、共通した意見は同じビルの上階にある区立中央図書館である。既に連携した事業は行っているものの、より親和性が高く、日常的に図書館利用者が劇場に関心を持つようなプログラムが望まれている。図書館以外では、学校教育、区内の生涯学習施設や区民広場、池袋演劇祭といった区内の様々な機関との連携や、舞台芸術団体との提携やツアー公演によるネットワーク、さらには国内外の姉妹都市との連携など、様々な可能性について意見が出された。

【グループインタビューの主な意見から】

- 一つの独立した劇場だけではなく、図書館とセットになっているので、図書館と同じビルに入っているメリットがあまり活かされていない部分がある。(地域演劇祭)
- 図書館はかなり人が来ていて、蔵書の量も豊富だから、図書館との親和性を高めるようなプログラムをもっと展開していい。(区内公立劇場)
- せっかくここには図書館もあって、人の利用も大きいんだから、それが劇場とつながっているかどうか。ホワイエの喫茶コーナーを利用すれば図書館帰りに立ち寄れる気がするので、そういうことも今後やっていけるのではないかな。(演劇制作)
- あうるすぽっとが主催公演で手掛ける演劇作品がスタートになって、学校教育の中で果たせる役割はもっとあるのではないかなという気はする。(アートNPO)
- あうるすぽっとでは、教育委員会との関係作りが、今のところ十分に実現されていないと思う。代わりに、それ以外との区のセクションとの関係が強い。(大学)
- 区民ひろばと連携する可能性は、地域の中に劇場が入り込めるひとつの拠点になるのかもしれない。お年寄りや子育てのお母さん達が集まっている場なので、そういう所に劇場として何ができるか。(アートNPO)
- 生涯学習施設と劇場との連携の可能性は、すごくあると思う。一度、他の館と連携したのは、リーディングフェスティバルがあった時に、それと参加する団体を作るために朗読講座を始めたことがある。(区内生涯学習施設)
- 池袋演劇祭との連携は、「まちを変えていこう」という意識で、地域全体を牽引するだけの理

由とお金があればできるような気がする。(区内民間劇場)

- あうるすぽっとで上演した公演の評判がいい場合に、別の劇場でも何ヶ所か上演できたらいいなと思っている。公共施設の連携を一緒に考えて頂けるようなシステムがあるといい。(演劇制作)
- フランチャイズ制があればいいのかもしれない。ずっと長く劇場を使っている中でより密接な関係ができればいい。(演劇制作)
- 主催公演の予算が少ない地方の比較的小さな劇場を、東京の公共劇場が主体になって海外からの劇団やアーティストを招聘して、ツアーを組むような連携という可能性があるのではないか。(海外文化機関)
- 豊島区が締結している海外や国内の姉妹都市にある劇場との連携をぜひ検討してほしい。「なぜその相手と連携するのか」という根拠が必要。豊島区の姉妹都市には、韓国のソウルの東大門(トンデムン)があるから、その中の劇場とある種の人材交流をする可能性はあるかもしれない。(区内公立劇場)

(5) あうるすぽっとに今後期待すること

あうるすぽっとに今後期待することは、正式名称にも込められている「舞台芸術交流センター」としての役割が挙げられた。また、とくに教育普及事業には、幅広い世代に開かれた劇場として、新たな観客を開拓する役割に期待が集まっている。さらに、豊島区庁舎の移転に伴う東池袋エリアの再開発によって、あうるすぽっとを取り巻く環境の大きな変化が予測されることから、そうした環境変化に上手く適応しながら、より一層、劇場としての発信力を高めることが期待されている。

【グループインタビューの主な意見から】

- まさに「舞台芸術交流センター」としての役割を果たして頂きたい。例えば、演劇祭に参加している人たちが自由な交流ができて、意見交換もできるような活動を、継続してできる場が持てれば非常にありがたい。(地域演劇祭)
- 子どもから大人まで、どんな年代の人にも開かれた劇場になるために、舞台芸術の公演だけではなく、交流センターとして、ワークショップや展示など、開かれた劇場になっていただきたい。(海外文化機関)
- 大人と子どもの交流という意味で言えば、大人だけのためや、子どもだけのための公演ではなく、子どもも大人も一緒になって鑑賞できるような公演があればいいと思う。(演劇制作)
- 観客を掘り起こすことはとても大変なことだが、続けて行っていただきたい。(演劇制作)
- 池袋の東口は、副都心の中で一番可能性がある。東池袋エリアは、新区庁舎ができるとものすごく便利になる。現在は池袋の中でも外れにあるが、新区庁舎ができると、ほぼ地下でも通って行けるようになる。そうしたことを踏まえると、あうるすぽっとの役割は変わりつつある。その中の役割を考えて、柔軟に対応できるかどうか。そのための体制を、今から作っていく時ではないか。(区内公立劇場)
- 新区庁舎が東池袋に移転すると、人の流れは大きく変わる。その中で、ビルの中にある劇場であるという制約をどう逆手にとって行くかが大きいと思う。人の流れが変われば区民の意識も変わるので、ビルの中に埋もれてしまうのではなく、点ではなく面として広げていく発想に変えれば、かなり開かれていくのではないか。(アートNPO)

IV 経済波及効果・パブリシティ効果

劇場の経営は、様々な経済効果を生み出し、地域の活性化を促すと言われている。ここでは、あうるすぽっとの管理運営や事業に伴う経済波及効果とパブリシティ効果について、その概要と金額換算による規模の把握を行った。

1. 経済波及効果

劇場の運営にともなう経済波及効果には、劇場および観客の支出からなる最終需要(直接的経済効果)、それに伴う生産増、そしてそれらがもたらす所得増、雇用増、税収増などが考えられる。

2013年度の産業分野別に振り分けた支出データ(あうるすぽっと提供)と東京都産業連関表に基づいて、経済波及効果を試算した。

(1) あうるすぽっとの経済波及効果の基本構造と分析方法

- 経済波及効果をもたらす支出(最終需要)は、
 - ①劇場の管理運営に関する支出
 - ②劇場の主催事業に関する支出
 - ③劇場の主催事業の観客の消費支出
 - ④貸館事業の主催者の事業支出
 - ⑤貸館事業の観客の消費支出の5つに分類することができる(図表3-1参照)。
- 今回の調査では、①、②については劇場の運営データに基づいて、③については観客アンケートの調査結果に基づいて把握・推計を行った。
- ④については貸館事業者からのデータ提供が必要であるが、調査対象となっていないため、貸館事業の1公演あたりの支出を、主催事業1公演あたりの支出の30%もしくは40%と想定して、この二つのケースについて、支出額を試算した。
- また、⑤については、③のデータを援用して試算した。
- したがって、④、⑤の計算結果については、あくまでも参考値である。

(2) 分野別の最終需要と経済波及効果

- 上記①から⑤の分野別に見た最終需要と、産業連関表を使った経済波及効果の計算結果は、図表3-1に示したとおりである。①劇場の管理運営、②劇場の主催事業、③主催事業の観客の消費支出にともなう最終需要の金額は、それぞれ4,600万円、8,400万円、1,100万円、合計で1億4,000万円¹となっている。
- これら最終需要に伴う経済波及効果は、①が8,400万円、②が1億5,900万円、③が2,000万円、合計で2億6,300万円である。生産誘発係数は、全体で1.87である。
- 参考値ではあるが、貸館の事業主催者の支出および貸館事業の観客の消費支出による経済波及効果は、約8億6,700万円～10億7,500万円、生産誘発係数は1.89である。
- それらをあわせた経済波及効果の総合計は、約11億3,000万円～13億3,800万円が生産誘発係数²は1.89となっている(参考までに、調査実施機関が経済波及効果を試算した福岡

¹ 分野別の金額は100万円未満を四捨五入した数字のため、合計金額が分野別の金額の和と合わない箇所がある。

² ある産業に生じた最終需要を賄うために、各産業で直接・間接に必要な生産額を「生産誘発額」といい、生産誘発額を最終需要額で除したものが「生産誘発係数」である。生産誘発係数は、最終需要が合計で1単位増加した場合、国内生産額がどれだけ増加するかを示すものであり、生産誘発係数が高いほど、誘発された生産額も増加する。

県内の公立文化施設の生産誘発係数は1.45、岐阜県内の公立文化施設の生産誘発係数は1.44となっている。

図表3-1 あうるすぽっとの経済波及効果(2013年度)

	最終需要	経済波及効果	誘発係数	
管理運営・主催事業	①管理運営 事務局経費、委託費、光熱水費、その他	4,600万円	8,400万円	1.84
	②主催事業 出演料、創作スタッフ費、音楽費、製作費(交通費、宿泊費、食費、制作雑費)、宣伝費、記録費、予備費	8,400万円	1億5,900万円	1.89
	③主催事業観客消費支出 飲食・買物費、交通費、宿泊費	1,100万円	2,000万円	1.86
	小計	1億4,000万円	2億6,300万円	1.87
貸館事業(参考値)	④貸館事業(貸館主催者の支出) 出演料、製作費、その他	3億2,900万円 ~4億3,900万円	6億2,400万円 ~8億3,200万円	1.89
	⑤貸館事業観客消費支出 飲食・買物費、交通費	1億3,100万円	2億4,400万円	1.86
	小計(参考値)	4億6,100万円 ~5億7,000万円	8億6,700万円 ~10億7,500万円	1.89
	合計(参考値)	6億100万円 ~7億1,100万円	11億3,000万円 ~13億3,800万円	1.89

※ 貸館事業については、1公演あたりの支出を、主催事業1公演当たりの支出の30%もしくは40%と想定して、この二つのケースについて、支出額を試算した。なお、分野別の金額は100万円未満を四捨五入した数字のため、合計金額が分野別の金額の和と合わない箇所がある。

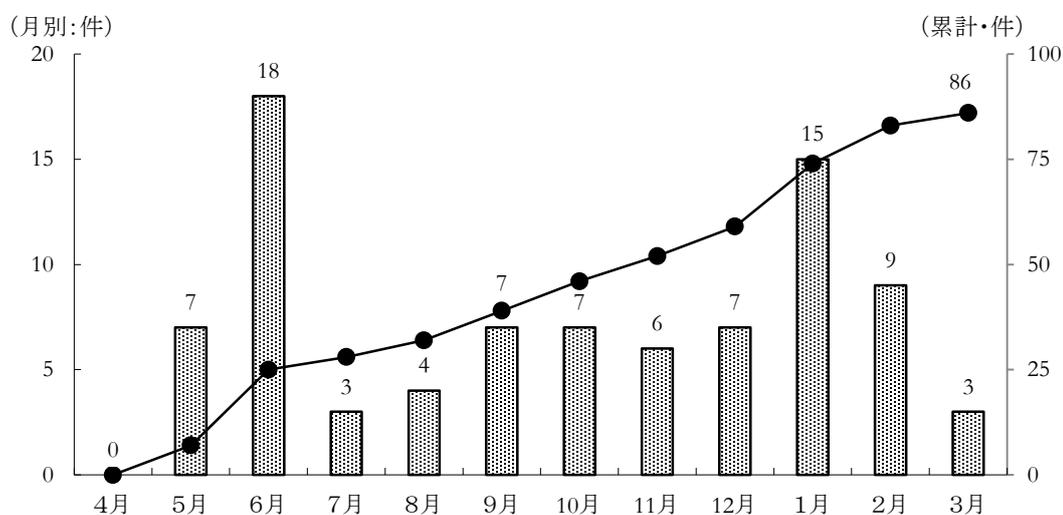
2. パブリシティ効果

文化的な催しや劇場運営においては、新聞や雑誌への記事掲載やテレビ報道などによって、地域の認知度向上やイメージアップが図られるケースが多く、それらは「パブリシティ効果」と呼ばれている。そして、その効果は、記事の大きさなどを基準にした広告宣伝費を目安にして、しばしば金額換算される。本事業評価調査では、2013年度の新聞記事に焦点を当てたパブリシティ効果を算出した。

(1) 2013年度の掲載記事の件数と内容

- 13年度についてみると、「あうるすぽっと」をキーワードに検索された新聞記事の件数は86件(図表3-2)である。

図表3-2 月ごとの掲載件数と累計



- 13年度は、プレヒトの「ガリレイの生涯」やシェークスピア生誕450年を記念した文学座との共催公演が、数多く新聞記事に取り上げられた。他にも、「にゅ～盆踊り」やタップダンスのワークショップといった教育普及事業も複数の新聞で紹介されている。
- 新聞別に見ると、13年度で掲載が最も多いのは朝日新聞(15件)、次いで、東京新聞(12件)、毎日新聞(11件)、日本経済新聞(11件)、東京読売新聞(8件)となっている。その他、全国的に知名度の高い俳優を起用した公演や、あうるすぽっと以外での地方各地の巡回公演に関する記事の掲載によって、あうるすぽっとでの公演は地方新聞でも紹介されている(図表3-3)。

図表3-3 新聞別件数一覧

紙名	掲載件数	紙名	掲載件数
朝日新聞	15	熊本日新聞	2
東京新聞	12	佐賀新聞	2
毎日新聞	11	西部読売新聞	1
日本経済新聞	11	スポーツ報知	1
東京読売新聞	8	愛媛新聞	1
産経新聞	5	山形新聞	1
新潟日報	5	秋田魁新報	1
西日本新聞	5	信濃毎日新聞	1
東奥日報	3	長崎新聞	1
		合計	86

資料)「日経テレコン」記事検索の結果に基づく

- これら記事を、
 - ① あうるすぽっとの公演紹介・取材記事、劇評など
 - ② あうるすぽっとのPRキャンペーン、事業の紹介記事
 - ③ 新聞各紙による情報コーナーなどでの公演情報の提供等
 - ④ 芸術文化以外のイベント、講演の紹介記事(会場名が「あうるすぽっと」)
 - ⑤ 情報コーナーなどでの芸術文化以外のイベントの情報提供(会場名が「あうるすぽっと」)
 の5種類に分類し、あうるすぽっととして記事性の高い①、②、および③のうち公演の内容紹介が掲載されている情報提供を抽出したところ、50件であった。
- その内容を、「主催公演」、「共催公演」、「教育普及」、「貸館利用」、「その他」に分類すると、それぞれ、6件、26件、9件、4件、5件であった(図表3-4)。

(2) 広告掲載料をベースとした金額換算

- これら50件の掲載記事について広告掲載料をベースに金額換算すると、約1億2,500万円という結果となっている(図表3-4)。

図表3-4 新聞掲載記事の内容と金額換算

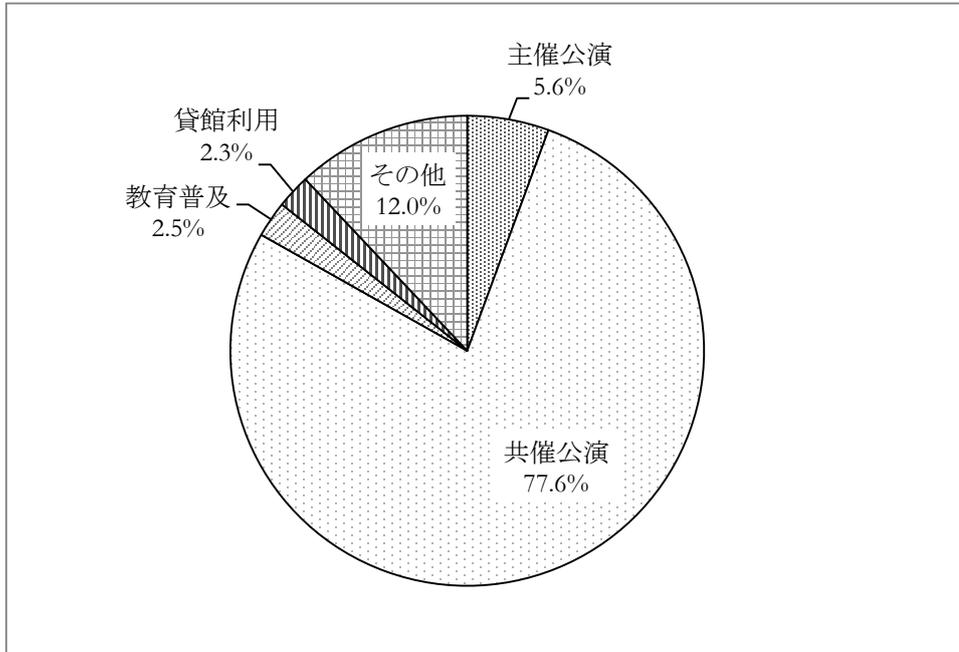
事業別	掲載件数	金額換算(円)
主催公演	6	6,972,918
共催公演	26	97,058,705
教育普及	9	3,101,250
貸館利用	4	2,907,955
その他	5	14,977,575
計	50	125,018,402

※ 金額換算は、写真を含めた記事面積と各新聞社の広告掲載料に基づいて、計算・集計した。

- また、「主催公演」、「共催公演」、「教育普及」、「貸館利用」、「その他」ごとに広告掲載料ベースの金額換算の割合を見ると、「共催公演」が77.6%で最も高い(図表3-5)。

- あうるすぽっとにおける共催公演は、劇場としての認知度の向上やイメージアップにおいて大きな役割を果たしていることが分かる。その一方で、共催公演のパブリシティ効果に対して主催公演の存在感が小さいという見方もできる。

図表3-5 事業ごとの掲載割合 [金額換算値ベース]



V 事業評価のとりまとめ

最後に、あうるすぽっとの事業評価結果を、(財)地域創造の「公立ホール・公立劇場の評価指針」(2007年3月)の評価フレームに基づいて再整理し、それに沿ってとりまとめを行った。

1. 評価フレームの考え方

「公立ホール・公立劇場の評価指針」の評価フレームは、「A.設置目的」、「B.管理運営」、「C.経営」という3つの戦略・評価軸を設定している。

図表5-1 「公立ホール・公立劇場の評価指針」の評価フレーム(評価軸と評価大項目)

評価軸		No	評価大項目
A	劇場の設置目的	A-0	劇場のミッション
		A-1	鑑賞系事業:プロデュース公演・主催公演、共催公演
		A-2	創造系事業:プロデュース公演
		A-3	普及系事業①:主に劇場内で実施するワークショップや講座など
		A-4	普及系事業②:区民施設、学校、福祉施設へのアウトリーチなど
		A-5	市民文化活動支援:その他連携事業など)
		A-6	地域への貢献①:地域経済への波及効果など)
		A-7	地域への貢献②:地域アピール、ブランド力のアップなど
		A-8	広域施設としての役割発揮
B	管理運営	B-1	場の提供・支援施設の利用状況、来館者数
		B-2	施設のホスピタリティ・サービス
		B-3	施設の維持管理
C	経営	C-1	経営体制
		C-2	リサーチ&マーケティング
		C-3	経営努力

2. 評価結果の概要

基本フレームの評価項目ごとの評価結果のポイントを以下に記述した。 ※割合(%)の記載は、小数点以下を四捨五入して掲載した。

A. 劇場の設置目的

A-0 ミッション

- あうるすぽっとの設置条例では、設置目的について「舞台芸術の創造、発信及び担い手の育成を通じて、文化芸術の振興を図り、もって地域のにぎわいの創出とまちの活性化に資することを目的とする(豊島区立舞台芸術交流センター条例第1条)。」と設定している。
- この設置目的に沿って、以下の4つの事業方針が展開されている。
 - 劇場独自のプロデュースによる舞台芸術公演の実施(プロデュース公演・主催公演)
 - 劇団や企画団体による質の高い舞台芸術公演の紹介(共催公演)

- ワークショップや講座などの舞台芸術の教育、普及活動(教育普及事業)
- 区内の文化団体、文化施設、NPO 等と連携した活動(その他連携事業)
- これらの4つの事業展開について、自主事業の来場者やワークショップの参加者のアンケートによると、「やってほしい」の割合(「ぜひやってほしい」+「まあやってほしい」)は、いずれも6割を超えている。中でも「ワークショップや講座などの舞台芸術の教育、普及活動」は78%が「やってほしい」と回答している。
- グループインタビューでも、多くの人があるすぽっとの事業が、主催事業、共催事業、教育普及事業などのバランスが取れていることを高く評価している。
- また、自主事業の来場者、ワークショップの参加者、劇場・会議室の利用者へのアンケートによると、総合的にみたあるすぽっとに対する満足度について、「満足している」割合(「たいへん満足している」+「まあ満足している」)は、86%となっている。
- あるすぽっとへの年間の総入場者数は、2013年度は59,159人で、2009年度から2013年度まで、毎年6万人前後で推移している。あるすぽっとの事業や運営の成果が利用者数の安定にも表れてきている。2014年1月現在の豊島区の人口は約27万人であり、人口の約2割程度の入場者が毎年来場していることになる。

A-1 鑑賞系事業:プロデュース公演・主催公演、共催公演

- 鑑賞系事業では、小劇場・現代演劇、話題性・芸術性の高い現代舞踊など幅広いラインナップの公演が行われ、多様な年齢層、多様な鑑賞経験を持つ観客が来場している。
- プロデュース公演では、優れた才能を持ち国内外から注目を集める若手の劇作家、演出家、振付家を起用した作品を創造してきた。また、共催公演事業を通じて、定評のある舞台芸術団体や劇場との継続的な信頼関係の形成によって、首都圏の舞台芸術界における、あるすぽっとの位置づけを高めていると言える。
- 2013年度のプロデュース公演・主催公演事業については、11事業で20回の公演が行われた。入場者数は4,202人、入場率は75%である。共催事業では、12事業、公演回数は96回。入場者数は19,407人、入場率は73%となっている。
- 自主事業の来場者アンケートの結果から、当日の公演内容について、「たいへん満足している」回答者は64%と、およそ3人に2人が積極的な満足感を示している。あわせて、当日の公演のチケット料金について「たいへん満足している」は54%、「まあ満足している」は20%で、満足層は74%、およそ4人に3人は公演のチケット料金について満足している。
- 一方、あるすぽっとの年間のラインナップに対する満足度は「無回答」が49.8%で、回答者の約半数は年間のラインナップに対する満足感の回答がなく、「たいへん満足している」と「まあ満足している」を合わせた満足層は45%となっている。
- この結果からは、あるすぽっとの鑑賞系事業では、個別の公演の印象に比べて、年間を通じた劇場のプログラム全体の印象は弱いことが分かる。その要因として、予算や職員体制等の制約もあり、自主事業公演の比率が貸館等に比べ少なく、共催公演に比重が置かれていることが、結果として劇場のソフト面の特長が見えにくくなっていると考えられる。
- グループインタビューでも、「どこの劇場にも色があるので、劇場の固定客がいるという印象がある。そういう意味では、あるすぽっとは演目ごとに集客していることが、弱い部分ではないかと感じた」との意見が聞かれた。

A-2 創造系事業:プロデュース公演

- あるすぽっとでは、2013年度に、マイムアーティスト・小野寺修二氏と3年間に渡ってろう者

とのワークショップに取り組んできた新作作品「鑑賞者」、新進気鋭のフリージャズ・ピアニストのスガダイロー氏が新しい舞台芸術の創出に取り組んだ「[N/R]プロジェクト」、アンステイチュ・フランセ東京との共同企画による舞台芸術公演「SWIFT!」、イラストレーター和田誠を案内役として懐かしいメロディを味わう「Once Upon a Time...あの頃の歌2nd」を上演した。

- 新しい舞台芸術作品の創造と発信に意欲的に取り組んだ公演、未来の観客育成に向けた子どもたちへの舞台芸術の普及公演、幅広い世代間の交流を促す公演など、多様な観客に向けた取り組みであると同時に、質の高い独自性のあるプログラムとなっている。
- 自主事業の来場者やワークショップの参加者のアンケートによると、あうるすぽっとの今後の事業展開で、劇場独自のプロデュースによる舞台芸術公演の実施を「やってほしい」という回答者は76%（「ぜひやってほしい」49%、「まあやってほしい」27%）で、およそ4分の3の回答者は劇場独自のプロデュース公演を望んでいる。
- グループインタビューでは、「限られた予算の中で非常にいい企画を提案されている印象がある。簡単に言うとすごくバランスのいいラインナップをしていると思うが、悪い面ではメッセージ性が弱くなるということがある」との意見も寄せられていた。

A-3 普及系事業①:主に劇場内で実施するワークショップや講座など

- あうるすぽっとでは、2013年度に、文楽の音楽的要素を担う義太夫節（浄瑠璃）の魅力を実演とレクチャーを通して体験する「第四回文楽・素浄瑠璃ワークショップ」や、世界中で上演されている名作を音楽朗読劇として小さな子供からお年寄りまで幅広い世代が楽しめる「クリスマス・キャロル」をホワイエにて上演した。
- 他にも、障害者を対象としたワークショップや鑑賞の支援、アートマネジメントや舞台技術の人材育成など、様々な対象に、舞台芸術を通じた教育普及関係のプログラムを提供した。
- 2013年度の教育普及事業（ワークショップ・レクチャー等）については、14事業で56回の開催、参加者数は5,375人である。

A-4 普及系事業②:区民施設、学校、福祉施設へのアウトリーチなど

- アウトリーチによる普及系事業は、ダンスカンパニー・コンドルズのメンバーとともに区内各地の会場でのワークショップと池袋西口公園で大会本番を迎える「にゅ～盆踊り」が2009年度以来継続した取り組みとなっている。
- 学校で行ったアウトリーチ事業として、「公立学校アウトリーチ」を4回開催し、「大塚ろう学校授業内ワークショップ」を2回開催した。
- 自主事業の来場者とWS参加者のアンケートでは、あうるすぽっとの今後の事業展開で、ワークショップや講座などの舞台芸術の教育、普及活動を「やってほしい」という回答者は78%（「ぜひやってほしい」が53%、「まあやってほしい」が25%）で、回答者の8割近くが舞台芸術の教育、普及活動を望んでいる。
- また、グループインタビューでは、子ども、高齢者、障害者など、参加対象者が広がっている教育普及事業に関心が集まっており、「区民の皆さんと一緒にやっているワークショップと公演を組み合わせた企画が面白い。演劇の観客層は確実に減っていると思うので、それを掘り起こしたり新しい見方を見せたりするような企画が、あうるすぽっとならではの形だと思う」との意見が聞かれた。

A-5 市民文化活動支援:その他連携事業など

- 市民の文化活動支援については、「その他連携事業」として「池袋演劇祭」、「フェスティバ

ル/トーキョー」、「あうるすぽっと区民シリーズ」などの5事業が実施された。

- いずれの活動も、あうるすぽっとや豊島区が舞台芸術の創造・発信・育成のために、あうるすぽっと単独では実施が困難な事業であり、今後も継続的に連携し、更なる地域の活性化の創出に繋げることが期待される。
- 貸館事業における市民文化活動への支援として、劇場と会議室利用者を対象とするアンケート調査で、劇場の運営(ソフト)面に関して利用者の満足度を伺ったところ、いずれの項目も満足層は94%以上となっている。「事前の打ち合わせは円滑でしたか」では「はい」という積極的な回答が83%で満足度の度合いが高い。

A-6 地域への貢献①: 地域経済などへの波及効果

- 自主事業の来場者アンケート結果をみると、来場者の居住エリアは、「豊島区内」が27%で、およそ4人に1人が豊島区民となっている。次いで「豊島区の隣接区(新宿区、文京区、中野区、北区、板橋区、練馬区)」が15%、「選択肢1、2(豊島区、新宿区、文京区、中野区、北区、板橋区、練馬区)以外の23区内」が15%となっており、23区内全体で過半数となっている。
- ワークショップ参加者アンケート結果をみると、参加者の居住エリアは、「豊島区内」が16%、「豊島区の隣接区」が22%、「選択肢1、2以外の23区内」は18%となっており、豊島区内の参加者の割合は他の居住エリアに比べて高くないことが分かった。
- 劇場利用者アンケート結果をみると、利用団体の所在地は、39%が「豊島区内」の団体で、次いで「豊島区の隣接区」が25%、豊島区内と隣接区内の回答者が64%でおよそ3分の2の割合となっている。
- 会議室の利用者アンケート結果をみると、利用団体の所在地は、56%が「豊島区内」の団体で過半数となっている。
- 自主事業の来場者アンケートから鑑賞前後の消費行動をみると、飲食またはショッピングをした人の割合は42%となっている。飲食の平均金額は約1,410円、ショッピングの平均金額は約2,934円となっている。
- 上記公演鑑賞に伴う消費行動も含めた2013年度の経済波及効果を算出すると、最終需要は、劇場の管理運営が約4,600万円、主催事業が約8,400万円、主催事業の観客の消費支出が約1,100万円となっている。
- それらの経済波及効果は、約2億6,300万円である。
- また、データ収集の制約から参考値ではあるが、貸館事業に基づいた経済波及効果については、最終需要が約4億6,100万円～5億7,000万円、経済波及効果が約8億6,700万円～10億7,500万円である。
- 経済波及効果の誘発係数は、管理運営と主催事業(観客消費支出含む)で1.87、貸館を含めると1.89となっている。

A-7 地域への貢献②: 地域アピール、ブランド力のアップ

- パブリシティ効果についてみると、あうるすぽっとや劇場事業に関する2013年度の新聞掲載件数は86件である。そのうち、記事性の高いものは50件で、それらの新聞掲載記事を広告宣伝費に金額換算すると、約1億2,500万円となる。
- グループインタビューでは「東京芸術劇場も含めて、池袋というまちが、豊島区が目指す『文化芸術創造都市』という役割が明確になっていると感じている」との意見が聞かれた。その一方で、「劇場としてのPRが欲しい。全国区でかなり評判を取っているのに悪くないが、

あうるすぽっとは意外に地元の人が来ないのではないかと、地元の人にはあまり浸透していないのではないかと、という気がする」といった意見も出されており、豊島区民に対する認知度の課題と、より一層のPRへの期待が挙げられた。

A-8 広域施設としての役割発揮

- 前述したとおり、自主事業の来場者アンケート、ワークショップ参加者アンケート、劇場・会議室の利用者アンケートの居住(所在)エリアで、「豊島区内」は26.0%で最も高いものの、それ以外の「豊島区外」は66%となっている。特に、ワークショップ参加者は75%が「豊島区外」の参加者となっており、広域から集まっていることが分かる。
- グループインタビューでは、区立の劇場であることを立脚点とすることが強みを生かすという意見の一方で、都心部の池袋エリアを面としてアピールし、首都圏、全国、世界に向けて発信していく潜在力に期待する意見もあった。また、都内の同規模や類似の劇場との比較から、あうるすぽっとには、教育普及事業や地方の劇場とのネットワーク、若い世代の演劇人や観客の育成といった役割に関心が集まった。

B. 管理運営

B-1 場の提供・支援：施設の利用状況、来館者数

- 2013年度の劇場の利用実績については、利用区分件数は1,005件、利用稼働率は98.3%、公演数282回、総入場者数合計は59,159人となっている。平均客席稼働率については、劇場の客席数301席を母数とした客席稼働率は68%で、20席程度の客席を音響調整操作スペースとして使用する場合の280席を母数とした客席稼働率は75%となっている。
- 会議室の利用実績は、累計利用区分件数は2,344件、累計利用稼働率は77%、会議室利用者数は64,563人、1区分当たりの平均利用者数は21.1人となっている。
- 劇場利用者アンケートの結果をみると、総合的にみた劇場に対する利用者の意見は「たいへん満足している」と「まあ満足している」を合わせた94%が満足層となっている。また、次回利用する機会がある場合に、再びあうるすぽっとの劇場を利用する意向を伺ったところ「はい」と「どちらかといえば、はい」を合わせた97%が、次回も利用する意向がある。
- 会議室利用者アンケートの結果をみると、総合的にみた会議室に対する利用者の意見は「たいへん満足している」と「まあ満足している」を合わせた88%が満足層となっている。また、また、次回利用する機会がある場合に、再びあうるすぽっとの会議室を利用する意向を伺ったところ「はい」と「どちらかといえば、はい」を合わせた88%が、次回も利用する意向がある。

B-2 施設のホスピタリティ・サービス

- 劇場・会議室の利用アンケート調査をみても、運営(ソフト)面で高い満足度となっている。劇場利用者アンケートの結果をみると、あうるすぽっとの劇場の運営面に関して利用者の満足度を伺ったところ、いずれの項目も満足層は94%以上となっている。「事前の打ち合わせは円滑でしたか」では「はい」という積極的な回答が83%で満足の度合いが高い。
- 会議室利用者アンケートの結果をみると、あうるすぽっとの会議室の運営面に関して利用者の満足度を伺ったところ、いずれの項目も満足層は84%以上となっている。「利用の問い合わせに対する予約・受付は円滑でしたか」と「設備、料金、使用時間等利用に関する説明は適切でしたか」では「はい」という積極的な回答が84%で満足の高さが高い。
- グループインタビューでは、「初めてあうるすぽっとに来た時に、この全体の暖かさを感じ

た。すごく居心地がよくて自分のうちに帰ってきたような気がする」、「劇場の担当スタッフはすごく親身になってやってくさっていると思う。ただ、かなり忙しそうだな、忙しすぎるのかなと思うことは多々ある」との意見が聞かれた。

- 限られた人員体制の中でスタッフが上手く連携することで、効率的、かつ利用者に対して親身な管理運営に努めている点を高く評価する意見が多いものの、スタッフの繁忙さについて気遣いを受けている。

B-3 施設の維持管理

- 劇場・会議室の利用アンケート調査をみても、劇場の施設や設備などのハード面で高い満足度となっている。劇場の施設面に関して利用者の満足度を伺ったところ、いずれの項目も満足層は67%以上となっている。「館内は清潔に保たれていましたか」では「はい」という積極的な回答が100.0%で満足の度合いが最も高い。一方、「搬入・搬出はやりやすかったですか」は「はい」が42%、「案内表示はわかりやすかったですか」は「はい」が28%で、満足の度合いが相対的に低い。
- 会議室の施設面に関して利用者の満足度を伺ったところ、いずれの項目も満足層は88%以上となっている。「館内は清潔に保たれていましたか」では「はい」という積極的な回答が88で満足の度合いが最も高い。一方、「来場者に向けた案内表示はわかりやすかったですか」は「はい」が56%で、満足の度合いが相対的に低い。
- グループインタビューでは、複合施設の中の劇場であるが故の問題に数多くの意見が挙げられており、ビルのエントランスロビーでの表示・案内、開演前と終演後のエレベーターの運行、楽屋数の不足などの面で、利用者の不満が集まりやすいことが分かった。
- 特に、エレベーターに関しては「何かいい運用の手立てをしないと、致命的な問題かもしれない。エレベーターのレギュレーションをもう少し短くするとか、開場から開演までの30分だけエレベーターガールをつけて説明するといった方法はできないか」、「図書館の利用者も、劇場でエレベーターがいっぱいになることで、相当ストレスになっている」などの意見が聞かれた。

C. 経営

C-1 経営体制

- あうるすぽっとの職員体制は、支配人以下12名で、職種別の内訳では、支配人1名、事業担当者4名、舞台技術者3名、管理部門3名、その他(池袋演劇祭担当)1名となっている。受付等の日勤アルバイトは職員12名には含まれていない。
- 12名の職員体制を勤務形態別に見ると、常勤6名、非常勤3名、委託3名(舞台技術者)となっている。常勤6名には広報担当と池袋演劇祭担当がそれぞれ1名ずつ含まれている。
- (社)全国公立文化施設協会が2013(平成25)年にまとめた「平成24年度 劇場、音楽堂等の活動状況に関する調査報告書」(以下「公文協調査」)によると、職員数合計の全国平均が13.5人となっている。あうるすぽっとの職員体制は、公文協調査の全国平均を下回る人員数となっていることが分かる。
- 公文協調査によると、施設の最大ホールの席数別に職員の平均人数を見る場合、「500席未満」の施設の平均が10.2人となっているため、同規模の施設では、あうるすぽっとの職員体制は平均を上回る人員数となっている。
- しかし、同じく公文協調査で「文化芸術系自主企画制作事業実施施設」の平均職員数が

14.8人、「(設置自治体に)文化指針あり(中核市以上)」では20.1人、「人材養成事業実施施設」では20.4人となっていることから、あうるすぽっとがプロデュース公演等の自主企画制作事業に取り組み、教育普及事業を積極的に展開していることや、豊島区が文化創造都市宣言や文化芸術振興条例を定めていることを勘案すると、12名の職員体制は、非常に少ない人員数での経営体制とすることができる。

- 「人材養成事業実施施設」での職種別平均人数の内訳*を見ると、事業担当5.8人(うち常勤は4.8人)、舞台技術者4.9人(うち常勤は2.2人)、管理部門6.8人(うち常勤は4.9人)、その他部門6.1人(うち常勤は2.9人)となっている。あうるすぽっとと「人材養成事業実施施設」の内訳を比較すると、いずれの職種も平均を下回っているだけでなく、常勤職員の少なさが目立つ。
- グループインタビューでも、「劇場の担当スタッフはすごく親身になってやってくださっていると思う。ただ、かなり忙しそうだな、忙しすぎるのかなと思うことは多々ある」との意見が聞かれたことから、あうるすぽっとの事業や管理運営の質を維持するためには、職員体制をより充実させることが求められる。

C-3 経営努力

- あうるすぽっとの2013年度の支出は、管理費が約5,200万円、人件費も約5,200万円、事業費が約8,100万円で、総額が約1億8,500万円となっている。
- 公文協調査によると、年間予算額の平均は管理費が8,343万円、人件費が4,881万円、事業費が5,439万円、その他が1,330万円で、総額が1億9,993万円となっている。あうるすぽっとの年間支出は、公文協調査の全国平均を下回る予算規模となっていることが分かる。
- 公文協調査によると、施設の最大ホールの席数別に年間予算額の総額を見る場合、「500席未満」の年間予算の平均が約1億4,100万円となっているため、同規模の施設では、あうるすぽっとの予算規模は平均を上回っている。
- しかし、同じく公文協調査で「文化芸術系自主企画制作事業実施施設」の年間予算額の平均が約2億2,100万円、「(設置自治体に)文化指針あり(中核市以上)」では約2億6,600万円、「人材養成事業実施施設」では約3億1,100万円となっていることから、あうるすぽっとの事業や豊島区の施策を勘案すると、約1億8,500万円は大きな予算規模ではない。
- また、あうるすぽっとの収入内訳をみると、指定管理が全体の48%、利用料金が27%、国の補助金が18%、チケット収入が5%となっている。文化庁の「劇場・音楽堂等活性化事業」と「地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ」、(一財)地域創造の「地域の文化・芸術活動助成事業(研修プログラム)」により国からの約3,300万円の補助を受けており、積極的に資金調達に努めている。
- (財)地域創造が2010(平成23)年にまとめた「平成22年度 地域の公立文化施設実態調査 報告書」(以下「地域創造調査」)によると、自主事業費に占める、設置者以外からの助成金、協賛金、寄附金の年額の全国平均が870.6万円となっている。あうるすぽっとの資金調達努力は、地域創造調査の全国平均を大きく上回っていることが分かる。

* 職種別の内訳の計が全体の平均と異なっているが、各職種に該当する職員が「いる」と回答した施設のみ(無回答を除く)で算出した平均値が内訳となっているために、それらの和と全体の平均値が異なっていると考えられる。

豊島区立舞台芸術交流センター
あうるすぽっと事業評価調査
報告書

委 託： 公益財団法人としま未来文化財団
〒509-0203 東京都豊島区東池袋 1 丁目 20 番 10 号
豊島区民センター2階
公益財団法人としま未来文化財団
tel. 03-3590-7581 fax. 03-3984-0865

受 託： 株式会社ニッセイ基礎研究所
芸術文化プロジェクト室
〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-1-7
tel. 03-3512-1799 fax. 03-5211-1084

発 行 日： 平成 26 年 4 月

